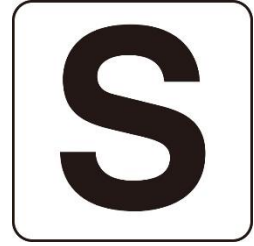




高1英語総合



STUDY COLLABO 

Contents

NO 1	14
【1】	〔基本構文〕	14
【2】	〔標準 英文解釈〕	20
(1)	[hardly] 《岩手大》	20
(2)	[only a few] 《佐賀大》	20
(3)	[by no means] 《神戸大》	21
(4)	[部分否定: not always] 《東京大》	21
発展問題	22
(1)	[seldom / rarely] 《信州大》	22
(2)	[seldom, if ever] 《富山大》	22
構文解説	23
NO 2	26
【1】	〔基本構文〕	26
【2】	〔文法〕	27
【3】	〔標準 英文解釈〕	28
(1)	[remain to V] 《東京工業大》	28
(2)	[fail to V] 《金沢大》	28
(3)	[anything but] 《横浜市立大》	29
(4)	[否定語を用いない否定: far from A] 《首都大学東京》	29
発展問題	30
(1)	[beyond 名詞] 《弘前大》	30
(2)	[in vain] 《慶應義塾大》	30
NO 3	33
【1】	〔基本構文〕	33
【2】	〔文法〕	34
【3】	〔標準 英文解釈〕	35
(1)	[be 動詞のあと後の省略]	35
(2)	[do のあとの省略] 《首都大東京》	35
(3)	[to のあとの省略] (代不定詞) 《埼玉大》	36
(4)	[副詞節中の S be の省略]	36
発展問題	37

(1) [代用の so] 《関西学院大》	37
(2) [being の省略] 《新潟大》	37
構文解説	38
NO 4	40
【1】 [基本構文]	40
【2】 [標準 英文解釈]	42
(1) [whatever 節中の be 動詞の省略] 《宮崎大》	42
(2) [as/than の中の省略] 《京都府立大》	42
(3) [比較対象の省略] 《高知大》	43
(4) [関係代名詞の省略] 《宮崎大》	43
発展問題	44
(1) [主格の関係詞の省略] 《福井大》	44
(2) [補語になる関係詞の省略] 《信州大》	44
構文解説	45
NO 5	47
【1】 [基本構文]	47
【2】 [基本構文]	49
【3】 [標準 英文解釈]	51
(1) [名詞節 when SV...] 《京都教育大》	51
(2) [名詞節 if SV...] 《東京工業大》	51
(3) [名詞節 what SV...] 《大阪府立大》	52
(4) [名詞節 whether SV...] 《岐阜大 医》	52
発展問題	53
(1) [名詞節 how/what/whose] 《大阪市立大》	53
(2) [the way SV...] 《愛知教育大》	53
構文解説	54
NO 6	58
【1】 [基本構文]	58
【2】 [標準 英文解釈]	59
(1) [while SV...] 《北海道大》	59
(2) [SV...while SV...] 《一橋大》	60
(3) [although SV...] 《北海道大》	60

発展問題	61
(1) [while Ving] 《名古屋大》	61
(2) [, though SV...] 《北海道大》	61
(3) [It seems as though SV~] 《島根大》	62
(4) [whereas SV...] 《東京大》	62
構文解説	63

NO 7 66

【1】 [基本構文] 《時を表す副詞節①》	66
【2】 [標準問題] 《時を表す副詞節》	68
(1) [as soon as SV...] 《慶応義塾大》	68
(2) [the moment SV...] 《岡山大》	68
【3】 [英文解釈] 《大阪大》	69
発展問題	70

NO 8 71

【1】 [英作文]	71
【2】 [英語構文] 《動詞の語法①》	71
(1) [SVOO:deny O O] 《福井県立大》	71
(2) [SVOO:ask O 疑問詞 SV...] 《北海道大》	72
【3】 [英文解釈] 《大阪大》	73

NO 9 <ENGLISH COMPOSITION> 74

【1】 [英作文] 《大阪大》	74
-----------------	----

NO 10 76

【1】 [英作文]	76
【2】 [英語構文] 《動詞の語法②》	76
(1) [get O C] 《立教大》	76
(2) [have O Ving] 《岐阜大》	77
【3】 [英文解釈] 《大阪大》	78

NO 11 <LISTENING//ENGLISH COMPOSITION> 79

【1】 [リスニング選択]	79
【2】 [英作文選択] 《大阪大》	79

NO 12	《VOCABULARY CHECK》	80
【1】	〔語彙検定〕	80
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	80
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	81
NO 13		82
【1】	〔英作文〕	82
【2】	〔英語構文〕《動詞の語法③》	82
(1)	[SVOC:consider O to be C] 《愛媛大》	82
(2)	[SVOC:S enable O to V] 《名古屋大》	83
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	83
NO 14		84
【1】	〔英作文〕	84
【2】	〔英語構文〕《動詞の語法⑤》	84
	[SV O as C:regard A as B]	84
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	85
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	86
NO 15	《ENGLISH COMPOSITION》	87
【1】	〔英作文〕《大阪大》	87
NO 16		88
【1】	〔英作文〕	88
【2】	〔英語構文〕《動詞の語法⑥》	88
	[SV O of C:deprive A of B] 《下関市立大》	88
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	89
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	90
NO 17		91
【1】	〔英作文〕	91
【2】	〔英語構文〕《動詞の語法⑦》	91
	[V A with B:supply A with B] 《新潟大》	91
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	92

【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	93
NO 18		94
【1】	〔英作文〕	94
【2】	〔英語構文〕《動詞の語法⑧》	94
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	95
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	96
NO 19	《ENGLISH COMPOSITION》	97
【1】	〔英作文〕《九州大》	97
【2】	〔英作文〕《九州大》	98
NO 20		99
【1】	〔英作文〕	99
【2】	〔英語構文〕《動詞の語法⑨》	99
	〔V A of B:remind A of B〕《センター》	99
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	100
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	101
NO 21		102
【1】	〔英作文〕	102
【2】	〔英語構文〕《動詞の語法⑨》	102
	〔V A into B:transform A into B〕《東京工業大学》	102
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	103
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	104
NO 22		105
【1】	〔英作文〕	105
【2】	〔英語構文〕《動詞の語法⑩》	105
	〔distinguish A from B...〕《福島大》	105
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	106
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	107
NO 23		108
【1】	〔英作文〕	108

【2】	〔英語構文〕《動詞の語法①》	108
	〔associate A with B〕《信州大》	108
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	109
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	110
NO 24	〈LISTENING//ENGLISH COMPOSITION〉	111
【1】	〔リスニング選択〕	111
【2】	〔英作文選択〕《九州大》	111
NO 25		112
【1】	〔英作文〕	112
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	112
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	113
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	114
NO 26	〈ENGLISH COMPOSITION〉	115
【1】	〔英作文〕	115
【2】	〔英作文〕	116
NO 27		117
【1】	〔英作文〕	117
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	117
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	118
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	119
NO 28		120
【1】	〔英作文〕《大阪大》	120
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	120
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	121
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	122
NO 29	〈LISTENING//ENGLISH COMPOSITION〉	123
【1】	〔リスニング選択〕	123
【2】	〔英作文選択〕《京都府立医科大》	123
【3】	〔英作文選択〕《京都府立医科大》	123

NO 30	《VOCABULARY CHECK》	124
【1】	〔語彙検定〕	124
【2】	〔英作文〕《大阪府立大》	124
NO 31		125
【1】	〔英作文〕《大阪大》	125
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	125
【3】	〔英文解釈〕《京都大》	126
NO 32		127
【1】	〔英作文〕《大阪大》	127
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	127
【3】	〔大意要約〕《東京大》	128
NO 33		129
【1】	〔英作文〕《大阪大》	129
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	129
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	130
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	131
NO 34		132
【1】	〔英作文〕《大阪大》	132
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	133
【3】	〔英文解釈〕《大阪大》	133
【4】	〔英文解釈〕《大阪大》	134
発展問題		135
【1】	〔英文解釈〕《京都大》	135
NO 35	〈ENGLISH COMPOSITION〉	137
【1】	〔英作文〕《神戸大》	137
【2】	〔英作文〕《神戸大》	137
【3】	〔英作文〕《神戸大》	138

NO 36	139
【1】	〔長文英作文〕《大阪大》	139
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	139
【3】	〔長文総合〕《東京大》	140
NO 37	144
【1】	〔長文英作文〕《大阪大》	144
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	144
【3】	〔英文解釈〕《京都大》	145
NO 38	147
【1】	〔長文英作文〕《大阪大》	147
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	147
【3】	〔英文解釈〕《京都大》	148
NO 39	150
【1】	〔長文英作文〕《大阪大》	150
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	150
【3】	〔英文解釈〕《京都大》	151
NO 40	152
【1】	〔長文英作文〕 《大阪大》	152
【2】	〔英文解釈〕《大阪大》	152
【3】	〔英文解釈〕《京都大》	153
NO 41	〈LISTENING//ENGLISH COMPOSITION〉	154
【1】	〔リスニング選択〕	154
【2】	〔英作文選択〕《神戸大》	154
【3】	〔英作文選択〕《神戸大》	154
NO 42	特別講座 no more ... than / not ... any more than	156
NO 43	《強調構文》	160
【1】	〔英文解釈 I : 基本の確認〕	160

【2】	〔英文解釈Ⅱ：標準〕	162
	発展問題	164
	基本構文〔強調構文〕	165
	構文解説	165
NO 44	《強制倒置》	167
【1】	〔英文解釈Ⅰ：基本の確認〕	167
【2】	〔英文解釈Ⅱ：標準〕	168
	発展問題	170
	基本構文〔倒置構文 否定語文頭による倒置型〕	171
	構文解説	171
NO 45	《語順転倒》	173
【1】	〔英文解釈Ⅰ：基本の確認〕	173
	基本構文〔倒置構文 語順転倒型〕	177
	構文解説	179
NO 46	《LISTENING//ENGLISH COMPOSITION》	181
【1】	〔英作文〕《神戸大》	181
【2】	〔英作文〕《神戸市外大》	182
NO 47	《名詞構文・無生物主語構文》	183
【1】	〔英文解釈Ⅰ：基本の確認〕	183
【2】	〔英文解釈Ⅱ：標準〕	184
	発展問題	186
	基本構文〔名詞構文〕	187
	構文解説	187
	基本構文〔無生物主語構文〕	189
	構文解説	191
NO 48	《VOCABULARY CHECK》	194
【1】	〔語彙検定〕	194
【2】	〔英作文〕《神戸市外大》	194
NO 49		195

【1】	〔確認テスト〕	195
【2】	〔長文英作文〕《大阪大》	195
【3】	〔英文解釈〕《東京大》	195
【4】	〔英文解釈〕《京都大》	196
NO 50	198
【1】	〔英文解釈〕《東京大》	198
NO 51	201
【1】	〔長文英作文〕 《大阪大》	201
【2】	〔英文解釈〕《東京大》	201
【3】	〔英文解釈〕《京都大》	202
NO 52	203
【1】	〔長文英作文〕《大阪大》	203
【2】	〔英文解釈〕《東京大》	203
【3】	〔英文解釈〕《京都大》	204
NO 53	206
【1】	〔長文英作文〕《大阪大》	206
【2】	〔英文解釈〕《東京大》	206
【3】	〔英文解釈〕《京都大》	207
NO 54	208
【1】	〔長文英作文〕《大阪大》	208
【2】	〔英文解釈〕《東京大》	208
【3】	〔英文解釈〕《京都大》	209
NO 55	〈LISTENING//ENGLISH COMPOSITION〉	211
【1】	〔リスニング選択〕	211
【2】	〔英作文選択〕《神戸大》	211
【3】	〔英作文選択〕《神戸大》	212
英文解釈 基礎知識	〈FIVE SENTENCE PATTERN〉	214

英文解釈	英文読解の技術〈品詞分解〉	220
	〈長文読解の技術 スラッシュリーディング〉	223
英文解釈	品詞〈接続詞とその領域〉	225
英文解釈	動詞の識別〈V / to V / Ving / Vp.p.〉	228
英文解釈	構文分析①〈主語の発見〉	232
英文解釈	構文分析②〈カンマとダッシュの処理①〉	235
英文解釈	構文分析③〈カンマとダッシュの処理②〉	236
英文解釈	構文分析④〈挿入への対応①〉	237
英文解釈	構文分析⑤〈挿入への対応②〉	239
英文解釈	構文分析⑥〈等位接続詞 and〉	241
英文解釈	構文分析⑦〈語順転倒の対応〉	244
英文解釈	構文分析⑧〈The 比較級..., the 比較級 ~.〉	248
英文解釈	構文分析⑨〈no more ... than ~〉	251
英文解釈	重要語の整理①〈that〉	254
英文解釈	重要語の整理②〈as〉	257
英文解釈	重要語の整理③〈it〉	259
英文解釈	重要語の整理④〈but / still / even / yet〉	261

英文解釈 重要語の整理⑤ 〈just / justly / simple / simply〉	264
英文解釈 重要語の整理⑥ 〈because / only〉	266
英語重要構文① 関係詞構文.....	268
英語重要構文② 名詞構文	271
英語重要構文③ 無生物主語構文	272
英語重要構文④ 無生物主語構文	275



【1】〔基本構文〕

1 〔否定語と準否定語〕

1. They are **not** responsible for this accident.
2. His report is **hardly** interesting.
3. She would **scarcely** believe your promise. 「
4. He has **never** been so surprised.
5. She **seldom** goes out alone.
6. Englishmen **rarely** talk to strangers in trains.
7. I have **no** intention of assisting you with your project.
8. He paid **little** attention to the latest movie.
9. **Few** know where he was born and brought up.

1. 〈not 「～ない」程度を表す副詞〉
彼らはこの事故には責任がない。
2. 〈hardly ほとんど～ない〉 (=almost not)
彼のレポートはほとんど面白くない。
3. 〈scarcely ほとんど～ない〉 ★=hardly / hardly よりも堅い語
彼女はあなたの約束をほとんど信じていないだろう。
4. 〈never 決して～しない頻度を表す副詞〉
彼はこれほど驚いたことは今までない。
5. 〈seldom めったに～しない〉 (=almost never)
彼女はめったに一人で外出しない。
6. 〈rarely めったに～しない〉 ★=seldom
イギリス人は列車の中で見知らぬ人に話かけることはめったにない。
7. 〈no～ない形容詞〉
私はあなたの計画を手伝うつもりはない。
8. 〈little 不可算名詞ほとんど～ない〉 (=almost no)
彼は最新の映画には興味がない
9. 〈few 可算名詞ほとんど～ない〉 (=almost no)
彼がどこで生まれ育ったかほとんどの人は知らない。

2 [部分否定] 〈否定語句×「全」を表す語〉

1. **Not all** Americans speak English as their mother tongue.
2. **Not every** student went there yesterday.
3. You can have either of these, but **not both**.
4. Wealth does **not always** bring us happiness.
5. The weather forecast is **not necessarily** reliable.
6. The current political situation is **not very** stable.
7. We are **not quite** satisfied with the result.
8. His suggestion is **not altogether** wrong.

1. 〈not all 「すべてが～というわけではない」〉
すべてのアメリカ人が英語を母語として話すわけではない。
2. 〈not every 「すべてが～というわけではない」〉
すべての学生が昨日そこへ行ったわけではない。
3. 〈not both 「2つとも～というわけではない」〉
これらのうちどちらでも一つはあげるけど両方はだめだ。
4. 〈not always 「からなずしも～とは限らない」〉
富は幸福をもたらすとは限らない。
5. 〈not necessarily 「からなずしも～とは限らない」〉
天気予報は必ずしも当てになるとは限らない。
6. 〈not very 「あまり～ではない」〉
今日の政治状況はそれほど安定していない。
7. 〈not quite 「あまり～ではない」〉
私たちはその結果に十分満足しているわけではない。
8. 〈not altogether 「あまり～ではない」〉
彼の提案が全く見当違いというわけではない。

3 [強意の否定]

1. I am **not at all** pleased with the condition.
2. I am **not in the least** interested in the story.
3. What he said is **by no means** true.
4. **In no way** is he a man of characters.
5. I have no connection **whatever** with him.

1. 〈not ~ at all 「けっして～でない」〉
その条件には全く不満足です。
2. 〈not ~ in the least 「けっして～でない」〉
私はその物語には全然興味がない。
3. 〈by no means 「けっして～でない」〉
彼の言ったことは決してほんとうでない。
4. 〈in no way 「けっして～でない」〉 ★否定語句(in no way)が文頭に出て後続が疑問文の語順に変化。
彼は決して人格者ではない。
5. 〈no 名詞 whatever[whatsoever] 「全く～ない」〉
あの人は私には縁もゆかりもない。

4 [little]

- 1 He was **a little** tired after long work.
- 2 He knew **little** of the baseball player.
- 3 She drank **quite a little** beer last night.
- 4 I can speak **only a little** English.
- 5 There is **little if any** hope that he will come back.
- 6 **Little** did I dream that I would see you here.

1. 〈a little 不可算名詞 「少し～ない」〉 ★肯定
彼は長時間の仕事のあとで少し疲れていた。
2. 〈little 不可算名詞 「ほとんど～ない」〉 ★否定
彼はその選手についてほとんど知らない。
3. 〈quite a little 不可算名詞 「かなり多くの～」〉
彼女は昨夜かなりビールを飲んだ。
4. 〈only a little 不可算名詞 「ごくわずかしか～ない」〉 ★否定
私は少ししか英語を話しません。
5. 〈little, if any, 不可算名詞 「ほとんど～ない」〉 ★little を if any が強調
彼が戻ってくる見込みはほとんどない。
6. 〈little 「まったくくない」〉 ★think, dream などの前に用いて「強い否定を表す」。little が文頭に出て、倒置構文となることもある。
ここであなたに会うなんて夢にも思わなかった。

5 [few]

1. **Few** people live to be more than a hundred.
2. **Few, if any**, will criticize him.
3. There are **a few** yachts on a calm sea.
4. **Only a few** TV programs are worth watching.
5. There was **quite a few** students absent from class today.
6. We make **not a few** mistakes when speaking in English.

1. 〈few 名詞の複数形 「ほとんど~ない」〉★否定
百歳以上生きる人はほとんどいない。
2. 〈few, if any, 名詞の複数形 「ほとんど~ない」〉★few を if any が強調
彼を批判する人は、もしあってもごくわずかさ。
3. 〈a few 名詞の複数形 「少しの~」〉★肯定
穏やかな海にヨットが二三浮かんでいる。
4. 〈only a few 名詞の複数形 「ごくわずかし~ない」〉★否定
見るに値するテレビ番組はごくわずかである。
5. 〈quite a few 名詞の複数形 「かなりの~」〉
今日授業を欠席した学生は多かった。
6. 〈not a few 名詞の複数形 「かなりの~」〉
私たちは英語で少なからず誤りを犯します。

6 [hardly]

1. I can **hardly** wait for October.
2. I **hardly ever** drink alcohol.
3. There's been **hardly any** rain recently.
4. **Hardly** had I met her **when** I fell in love with her.
5. His words are **hardly worth** notice.

1. 〈hardly 「ほとんど~ない」 (=almost no)〉
私は10月が待ち遠しいです。
2. 〈hardly ever 「めったに~しない」〉
私は酒をめったに飲まない。
3. 〈hardly any 名詞 「ほとんど~ない」 =almost no 名詞〉
この頃雨がほとんど降らない。

4. 〈had hardly **過去分詞** when S **過去形** 「...するとすぐに～する」★hardly が文頭に出て、倒置構文となることもある。
私は彼女に会ったとたんに恋に落ちてしまった。
5. 〈S is hardly worth **(動)名詞** 「S はに **(動)名詞** ほとんど値しない」
彼の言葉はほとんど注目に値しない。

7 [not ～as SV...] 注意する not

1. I **can't** play the guitar **as** you can.
2. I **don't** like detective stories **the way** you do.
3. I **didn't** hurry **because** it was getting dark. My father were going to pick me up.

1. 〈not ～ as SV 「SV のようには～でない」
私はあなたのように、ギターは弾けません。
2. 〈not ～ the way SV 「SV のようには～でない」
私はあなたと違って、推理小説が好きではありません。
3. 〈not ～ because SV 「SV だから～わけでない」
私が急いだのは暗くなってきたからではありません。父が車で迎えに来る予定でした。

8 [二重否定]

1. I **never** see you **without** thinking of that day
2. It was **impossible** to meet her **without** loving her.
3. It was **not unusual** to see his child playing in the park at night.

1. 〈never V1 without V2ing 「V1 すると必ず V2 する」
君の顔を見るたびにあの日のことを思い出す
2. 〈impossible ... without Ving 「...すると必ず V する」
彼女に会えば、誰でも彼女が好きなる。
3. 〈not unusual 「めずらしくない」
彼の子供が夜公園で遊んでいるのを見るのは珍しくなかった。

9 [cannot ... too~]

1. We **cannot** praise him **too much**.
2. I **can't** apologize **enough**.
3. It is **impossible** to **overemphasize** the importance of health.

1. 〈cannot V too... 「...してもしすぎることはない」〉
彼をどんなに誉めても誉めたりない。
2. 〈cannot V ...enough 「...してもしすぎることはない」〉★「十分に～できない」の意のこともある。
お詫びの言葉もありません。
3. 〈impossible ... to overemphasize 「...してもしすぎることはない」〉=We cannot emphasize the importance of health too much.★can't ⇒ impossible / too ⇒ overemphasize になっている。
健康の重要性はどんなに強調してもし過ぎることはない。

10 [否定語を使わない否定]

1. The box was **too heavy to** carry.
2. He is **anything but** shy.
3. His French is **far from** (being) perfect.
4. Our vegetables are **free from** pesticides.
5. I **failed to** express my opinion.
6. He is **the last person to** attend the meeting.

1. 〈too ~ to V 「～すぎて…できない」〉
その箱は、あまりに重くて運べなかった。
2. 〈anything but ~ 「全く～ではない」〉※but ~ = ~以外
彼は決して内気ではありません。
3. 〈far from ~ 「全く～ではない～は決して～ではない」〉=anything but ~ ※～から離れている
彼のフランス語は決して完ぺきではない。
4. 〈free from ~ 「～がない」〉
我々の野菜は、農薬を使用していません。
5. 〈fail to V 「V できない」「V しない」〉
私はうまく自分の意見を表現できなかった。
6. 〈the last A to V 「決してV しない」〉※最も～しそうにないA
彼は最も会議に出席しそうにない人だ。

【2】 [標準 英文解釈]

解答時間各 10 分

次の各英文(1)~(4)の下線部を和訳しなさい。

(1) [hardly] 《岩手大》

I have known in the course of my life a great many rich people, and I can hardly think of one of them who appears to be either happy or free. I have known a great many people who were extremely poor — they also could hardly be happy and free. But in the intermediate realms you find most happiness and freedom. It is not great wealth or great poverty that brings most happiness.

(注) intermediate [ɪntə'mi:diət] 「その間の」

(2) [only a few] 《佐賀大》

When you know your own limits, you are ready to begin again. A Zen saying tells that in the mind of the beginner exist infinite possibilities, in the mind of the expert only a few. It is much better to be a beginner, even in our own field. To be sure, when we are experts we make a good impression, we risk less, we defend ourselves with our reputation, and we feel secure. But we learn little, because we think we already know. Instead, as beginners, we are always willing to learn, and to ask innocent, even stupid, questions.

(注) Zen 「禪」

(3) [by no means] 《神戸大》

The brain interprets the image on the retina* in the light of all sorts of other “information” it receives. Perception, in fact, is by no means a simple recording of the details of the world seen outside. It is a selection of those features with which we are familiar.

(注) retina [rétinə] 「網膜」

(4) [部分否定: not always] 《東京大》

Familiarity with basic science is more important than ever, but conventional introductory courses in science do not always provide the necessary understanding. Though knowledge itself increasingly ignores boundaries between fields, professors are apt to organize their teaching around the methods and history of their academic subject rather than some topic in the world. Science courses should instead be organized around content rather than academic field: the physical universe, rather than physics or astronomy or chemistry, and living things, rather than biology.

(注) basic science 「基礎科学」 introductory courses 「入門コース」

【2】(1) in the course of A 「A の(過程)で」 a great many 「かなり多くの」 appear to V 「V するように思われる」 extremely [ekstri:mli] 「極端に」 a realm [reɪlm] 「領域」 poverty [pá:vərti] 「貧困」

(2) infinite [infənit] 「無限の」 defend A [difénd] 「A を守る」 reputation [rèpjutéiʃən] 「評判」

(3) interpret A [intə:rprət] 「A を解釈する」 in the light of A 「A の観点で」 a detail [dí:teɪl] 「詳細」 a feature [fi:tʃə] 「特徴」

(4) conventional [kənvenʃənel] 「従来の」 increasingly 「ますます」 be apt to V [æpt] 「V しがちである」 astronomy [əstránəmi] 「天文学」

発展問題

解答時間各 20 分

次の各英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

- (1) [seldom / rarely] 《信州大》

Life, as we know from experience, seldom unfolds in binaries*.
We rarely confront Hamlet's choice — to act or not to act. There are always added considerations. Which action is best, by what criteria, how soon, on what conditions, at what cost and with what allowance for error? Even the half-mad prince recognized that second-order* consequences might complicate his first-order decision: to be or not to be.

(注) binary[báineri] 「二つからなる」 second-order 「二次的な」

- (2) [seldom, if ever] 《富山大》

In many countries, authority is seldom, if ever, questioned,
either because it is highly respected, or because it is feared.
Sometimes, too, because rank has been important in certain societies for a long time, people have been trained never to question those in authority. For example, children are not expected to question their teachers in school. It may be considered improper for young businesspersons to suggest ideas that differ from those of older, more experienced members of the business.

発展問題(1)unfold [ʌnfóuld] 「進展する、展開する」 confront A [kɒnfraʊnt] 「A に直面する」 criteria[kriːˈtɪə(ɪ).iː.ə] 「基準」(criterion[kraitɪəriən]の複数形)allowance for A [əˈlaʊəns] 「A を考慮」 complicate A [kəmˈplɪkət] 「A を複雑にする」
(2)authority [əˈθɔːrəti] 「権威、権力」 rank 「階級」 improper [ɪmˈprɒpər] 「不適切な」 experienced [ɪkspɪəriənst] 「熟練の」

構文解説

(1) [否定語]

否定語には、not, no, never といった否定語と、hardly, scarcely, few, little, seldom, rarely などの準否定語と呼ばれるものがある。

	代名詞	形容詞	副詞	接続詞
「～ない」	none / nobody nothing	no	not / nowhere	nor
	niether	nither	neither	
「ほとんど～ない」「めったに～ない」	little / few	little / few	hardly, scarcely	
			seldom, rarely little	
「決して～ない」		no	never (no, none, little)	

(2) [not]

副詞である not は「～でない」と否定を表し、主に以下の3つの用法がある。①文全体を否定する、②語句を否定する、③準動詞を否定する。文全体を否定する not は、通例一般動詞の前、be 動詞・助動詞の後に置かれる。例「He has not arrived here yet.」 「彼はまだここに着していない」。語句を否定する not は、動詞以外の語句の前に置いて、その語句を否定する。例「She is talking with Tomoki, not with Takeshi.」 「彼女が話しているのはトモキであってタケシではない」。「not A but B」 「A でなくて B」 は重要表現。準動詞を否定する not は、不定詞を否定するときは to の前に、動名詞を否定するときは動名詞の前に、分詞構文の否定は、分詞の前に置く。例「He decided not to lend her any money.」 「彼は彼女にはお金を貸さないと決めた」

(3) [no]

形容詞である no は「何も～ない」と否定を表し、名詞の前につく。可算名詞にも不可算名詞にも用いられるが、可算名詞につくときはふつう複数形にする。例「They have no children.」 「彼らには子供がない」 また、「no + 名詞」が be 動詞の補語になったり、「no + 形容詞 + 名詞」の形になる場合は、「決して～でない」「～どころではない」と強く名詞を否定する表現になる。例「He is no fool.」 「彼は馬鹿どころではない(とても賢い)」。「He is not a fool.」 「彼は馬鹿ではない(賢いかどうかは不明)」との違いに注意。

(4) [never]

副詞である never は ever の否定形で、「決して[一度も]～ない」を表し、not よりも強い否定の意味を持つ。文中の位置は not と同じく、一般動詞の前、be 動詞・助動詞の後に置かれる。例「They have never seen such a interesting movie.」 「彼らはそんな面白い映画を見たことがない」

(5) [nothing, nobody, none]

「nothing, nobody, none」はいずれも否定を含んだ代名詞である。単数扱いが原則。nothing 「何も～ない」 例「I have nothing to do with the accident.」 「私はその事故と無関係である」 nobody(=no one) 「誰も～ない」 例「Nobody(No one) knows her birthplace.」 「誰も彼女が生まれた場所を知らない」。none は「何も[誰も]～ない」の意味で、物にも人にも用いられる。例「There was none left in the classroom.」 「教室には誰もいなかった」 nothing, nobody と異なり、none は、後ろに of A 「A のうち」をつけることができる。none of～ 「～のうちどれも(誰も)～ない」 例「None of the students obeyed to their teacher's advice.」 「生徒たちは誰も先生の忠告に従わなかった」

(6) [neither]

「(2つのうちの)どちらも～ない」を表す。3つ以上の場合には none を使う。例“Neither of my sisters is not here in Japan. 「私の2人の姉妹のどちらもいま日本にはいない」”

(7) [部分否定]

“every,all,always,necessarily”や強調の副詞“quite,altogether,entirely,completely”など、「すべて」「常に」「全く」など〈全体,完全〉の意味を表す語が否定されると、「すべてが～とは限らない」「いつも～とは限らない」「必ずしも～とは限らない」(部分否定)などという意味になる。not every～「全部が～というのではない」not all～「全てが～というのではない」not both～「両方が～というのではない」not always(necessarily)～「いつも(必ずしも)～というのではない」not quite ～, not entirely～「全く～というわけではない」例“Takuya and Makoto hate each other. We shouldn't invite both of them.”「タクヤとマコトはおたがいを嫌っている。両方ともを招待すべきではない」“Money does not always make us happy.”「お金が必ずしも私たちに幸福にするとは限らない」“These apples are not quite ripe.”「これらのリンゴは完全に熟しているわけではない」“My parents don't completely agree with our marriage.”「私の両親は、私たちの結婚に全面的に同意しているわけではない」

	全体否定	部分否定
3つ以上	no, not any, none	not all, not every
2つ	not either, neither	not both
副詞	not at all, not in the least	not always, not necessarily not entirely, not altogether not completely, not wholly

(8) [全体否定.]

「全く～でない」「少しも～でない」などのように全体を否定する意味を表す場合を、全体否定(または全部否定)と言う。“never, no, nothing, nobody, none”などを用いた否定は全体否定になる。例“None of the members of the team were injured in the accident.”「チームのメンバー全員がその事故で怪我をしなかった」“No advice is of any help in this situation.”「どんな忠告も現状では役立たない」

(9) [not both /not either]

部分否定の not both～に対して「2つとも～でない」という意味の全体否定は not either または neither を用いる。例“I don't find both of the two books interesting.” [部分否定]「その本の両方ともを面白いと思わない」(ひとつは面白い)“I don't find both of the two books interesting.” [部分否定]「その本の両方とも面白いと思わない」(どちらも面白くない)。

(10) [all ... not ~]

all,every,both の後に、not を置く場合(all, every, both ... not ~)は、部分否定か全体否定かがあいまいになるので、避けたほうがよい。例“All the stamps that he collected were not valuable.”「彼が集めたすべての切手が価値があるわけではない」(部分否定)とも「彼が集めたすべての切手は価値がない」(全文否定)もどちらにも取れる。部分否定を明確に表すならば、“Not all the stamps that he collected were valuable.”とする。

(11) [二重否定]

一つの英文中に否定語句が二つ用いられている場合を二重否定と呼ぶ。“never[can] V₁ without V₂ing” “It is impossible[hard] to V₁without V₂ing”で「V₁すれば必ずV₂する」を表す。例“**They never meet without quarreling.**”彼らは会えば必ずけんかをする。また“**There is no 名詞 that ... not ...**”の形もある。例“**There is no one that does not long for world peace.**”「世界平和を望まない人はいない」。さらに、“not 否定辞のついた形容詞(uncommon など)”「～でないことはない」の二重否定もある。例“**It’s not uncommon to see him here.**”「ここで、彼に会うのは珍しいことではない」

(12) [cannot ... too ～]

“can’t ... too ～”の形で、「～してもしすぎることはない」の意味を表す。本来、` 限度を超える”を意味する“too”と cannot が結びついて、「限度を超えては～できない」⇒「ものすごく～する」となったものである。例“**We cannot teach children too early.**”「子供の教育には早すぎるということはない」「too～」が“enough”になる場合もある。例“**We cannot apologize to you enough.**”「大変申し訳ない」。また、“can’t～”が“impossible”にかわり、“too”が動詞の一部に組み込まれて“over-”になることもある。例“**It is impossible to overpraise his work.**”「彼の仕事をいくら褒めても褒めたりない」

(13) [few, little]

no とは異なり、完全に否定してはいないが、「ほとんど～ない」を表す場合には、“few 可算名詞の複数形” “little 不可算名詞”を用いる。例“**Few students in our school are interested in contemporary music.**”「私たちの学校には、現代音楽に興味のある学生はほとんどいない」 “**There is little furniture in his room.**”「彼の部屋にはほとんど家具がない」なお、**few, little** の前に“a”がつくと肯定の意味になるので注意する。例“**A few students in our school are interested in contemporary music.**”「私たちの学校には、現代音楽に興味のある学生がいる」

(14) [I hope not./ I am afraid not.]

“think, hope, be afraid”のあとに, so(肯定)not(否定)だけが置かれる場合がある。so は肯定文の代用を、not は否定文の代用をする。例[so の場合]“**Will it be fine tonight?**” “**I hope so**” 「今晚晴れるかな」「そう思います。」この場合の“so”は “it will be fine tomorrow”の代用をしている。例[not の場合]“**Can your sister come here tomorrow?**” “**I’m afraid not**”. 「あなたの妹は、今晚来ますか」「残念だけど無理です」。

(15) [not ... because～の二つの解釈]

“not ... because ～”には、「～だから...でない」と「...なのは、～だからではない」の2通りの解釈が可能である。例“**I don’t like night because it is silent.**” 「私は夜は静かなので好きではない」または「私は夜が好きなのは静かだからではない(ほかに理由がある)」。どちらの意味かは、文脈で判断することになる。なお、例“**I don’t like night ,because it is silent.**”のように、because の前にカンマがある場合は、「私は夜は静かなので好きではない」になる。

(16) [not ... as SV ～/ ... as ～not の解釈]

“not ... as SV～”(as が[the way]になることもある)は、「SV～のようには(SV～と違って)...ない」の意味を表す。「SV～のように...ない」とするのは間違い。例“**This rule is not observed here, as it is in Japan.**”^(x)「この規制は、日本の場合と同じように、ここでは守られていない」。^(o)「この規制は、日本の場合と違って、ここでは守られていない」。“**She is sure of his love now, as she was not three months ago.**”^(x)「彼女は今彼の愛を信じている、3ヶ月前はそうではなかったように」(?)^(o)「3ヶ月前と異なり、彼女は今彼の愛を信じている」

NO 2



【1】 [基本構文]

(1) [否定語を使わない否定]

1. From an objective viewpoint, his argument was **far from** rational.
2. Your answer is **anything but** satisfactory to us.
3. I am **the last to believe** such a thing.
4. We **have yet to discover** an effective remedy for cancer.
5. It **is yet to be seen** whether this plan will succeed or not.
6. The problem **remains to be solved**.
7. I **failed to catch** what he said.
8. The scenery is beautiful **beyond description**.
9. He tried **in vain** to solve the problem.

1. 〈far from A 「決して A でない」〉
客観的に見て、彼の主張は全く理にかなっていなかった。
2. 〈anything but A 「決して A でない」〉
あなたの解答には私たちとしてはまったく不満だ。
3. 〈the last (person) to V / the last (person) who ~ 「決して V しない」〉
私は絶対にそんなものは信じない。
4. 〈have yet to V 「まだ V していない」〉
癌の効果的な治療法はまだ発見されていない。
5. 〈be yet to V 「まだ V していない」〉
この計画がうまくいくかどうかはまだわからない。
重要構文 It is yet to be seen whether SV... 「SV...かどうかまだわからない」
6. 〈remain to V 「まだ V していない」〉
その問題の解決はこれからだ。
7. 〈fail to V 「V できない」〉
「彼のことは聞き漏らした」
8. 〈beyond 名詞「名詞を超えている」〉 ★beyond discription 「描写できない」
えも言われぬ眺めだ。
9. 〈vain V / V vainly[in vain] 「Vは無駄であった」〉 ★try vainly[in vain] to V 「Vしようとしたが無駄であった」
彼はその問題を解こうとしたがだめだった。

【2】 〔文法〕

空所に入れるのに最も適切な語句を、下の①～④から一つずつ選びなさい。

- (1) Cheap things are not () economical.
①always ②neither ③hardly ④scarcely
- (2) The students did not understand that lecture in the ().
①least ②less ③little ④few
- (3) () man can be a president.
①Not all ②Not necessarily ③Not every ④All but
- (4) These chairs are (). They are just not good enough.
①not by some means satisfactory
②not satisfied by all means
③by all means satisfactory
④by no means satisfactory
- (5) I have no doubt () about his ability.
①nothing ②quite ③whatever ④least
- (6) She was () but nice the only time I ever met her.
①only ②something ③not ④anything
- (7) The new theory has () to be proved.
①already ②become ③been ④yet
- (8) He is the () person to tell a lie.
①last ②late ③later ④least (国士館大)
- (9) Everybody expected the musical to be a great hit, but it was () from being a success.
①away ②opposite ③far ④distant (センター試験)
- (10) It remains () whether North Sea oil will improve Britain's economic situation.
①seeing ②seen ③to see ④to be seen (京都産業大)
- (11) We can't read an interesting book for an hour () being the better and happier for it.
①without ②instead of ③owing to ④rather than (京都産業大)

【2】 (1) ① (2) ① (3) ③ (4) ④ (5) ③ (6) ④ (7) ④ (8) ① (9) ③ (10) ④ (11) ①

【3】 [標準 英文解釈]

解答時間各 10 分

次の各英文(1)~(4)の下線部を和訳しなさい。

(1) [remain to V] 《東京工業大》

The evolution of modern humans in Asia is a complex and not easily told story. Many questions remain to be answered, and not all the answers collected to date will stand the test of time. However, one thing is certain: that no one kind of explanation is adequate to solve the many issues involved in the history of human evolution. Scientific analyses must be combined with historical inquiry to arrive at the truth. It is possible that the complete truth may never be known but some facts appear to be acknowledged by all scientists and scholars working on this question.

(2) [fail to V] 《金沢大》

Our lives are so bound up with art that we often fail to recognize how much we are shaped by it. We are bombarded with examples of graphic art (television commercials, magazine ads, CD jackets, displays in stores) every day; we use art to make statements about who we are and what we value in the way we decorate our rooms and in the style of our dress. In all of these ways we manipulate artistic symbols to make statements about what we believe in, what we stand for, and how we want others to see us.

(3) [anything but] 《横浜市立大》

We think of “common sense” itself as based on reality and our own down-to-earth, theory-free observations of that reality.

But that idealization of common sense doesn't always make sense. For one thing, the beliefs we so categorize are not universal or inevitable. What seems common sense at one moment, or in one society, is **anything but** in another.

(注) down-to-earth 「地に足のついた」 theory-free 「理論とは無縁の」

(4) [否定語を用いない否定 : far from A] 《首都大学東京》

Scientific understanding of creativity is **far from** complete, but one lesson already seems plain. We can call up originality from within us through training and encouragement. Not every man, woman or child is a potential genius, but we can get the most out of our abilities by performing certain kinds of exercises and by making the best use of our attitudes and environment — the same factors that help us maximize other cognitive* powers.

(注) maximize A [mæksimàiz] 「A を最大限にする」 cognitive [kágnetiv] 「認知の」

[3] (1)stand A 「A に耐える」 adequate [ædikwit] 「十分な」 be involved in A 「A に関わる」 an analysis [ənəléisis] 「分析」 combine A with B [kəmbáin] 「A を B と結びつける」 inquiry [inkwáeri] 「探求」 acknowledge A [əknálidʒ] 「A を認める」 work on A 「A に取り組む」

(2e bound up with A 「A に結び付けられている」 are bombarded with A 「A で攻撃される」 graphic art [gráfik] 「グラフィックアート」 decorate A [dékarèit] 「A を飾る」 manipulate A [mənípjulèit] 「A を操作する」 stand for A 「A を表す」

(3)be based on A 「A に基づいている」 idealization [aɪ dɪ:(ə)lɪzəɪʃən] 「理想化(すること)」 categorize A [kætəgəraɪz] 「A を分類する」 universal [ju:nəvə:rsel] 「普遍的な」 inevitable [inévítəbl] 「必然的な」

(4)plain 「明白な」 originality [əridʒənəlésti] 「独創性」 make the best use of A 「A を最大限活用する」

発展問題

解答時間各 20 分

次の各英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

(1) [beyond 名詞] 《弘前大》

次の英文は、人生で 2 度の打撃(オートバイ事故、飛行機事故)による身体的障害を乗り越えて、国会議員となった W・ミッチェルの話である。

What if at age forty-six you were burned beyond recognition in a terrible motorcycle accident, and then four years later were paralyzed* from the waist down in an airplane crash? Then, can you imagine yourself becoming a millionaire, a respected public speaker, a happy newlywed* and a successful business person? Can you see yourself going white-water rafting*? Skydiving? Running for political office?

(注) paralyze A [páerəlaiz] 「A を麻痺させる」 a newlywed 「新婚の人」 white-water rafting 「急流下り」

(2) [in vain] 《慶應義塾大》

Striding purposely into a room, I suddenly stop, wondering what my purpose was. Chuckling*, I return to my starting point and look around, usually in vain, for any clues to my original intent. Some people might find this memory lapse annoying and even worrisome, but I think it's rather amusing, just another of the benefits of aging.

(注) chuckle[tʃʌkl] 「くすくす笑う」 「一人で喜ぶ」

発展問題 ②evolution [ɛvəlú:ʃən] 「進化」 to date 「今日まで」 stand A 「A に耐える」 the test of time 「時の試練」
adequate [ædɪkwɪt] 「十分な」 an analysis [ənəˈlæsis] 「分析」 be combined with A 「A と結びついている」
an inquiry [ɪnkwáɪəri] 「研究」 acknowledge A [əknaɪdʒ] 「A を認める」

構文解説

- (1) [not を使わない否定①慣用化したもの] [far from A / anything but A / free from A]

“far from...” 「決して...でない」(「...からほど遠い」) 例 “His homework is far from complete.”
「彼の宿題は決して完璧ではない」、 “anything but ...” 「決して...ない」(「...以外の何か」
but=except) 例 “I was anything but satisfied with the score.” 「私はその特典に全く満足して
いない」 “free from...” 「...がない」(「～がない、～を免れた」「～から自由である」) 例 “He
is free from prejudice.” 「彼には偏見がない」などがある。

- (2) [not を使わない否定②前置詞を用いるタイプ] [beyond A / above A]

“beyond[above]...” 「...の範囲を越えている、～できない」の意味を表す。beyond は「～の(理
解・能力の)範囲を超えて」 例 “The work was beyond my ability.” 「その仕事は私の能力を超
えている」。above は「～(の理解・力量)より上」「～を超越している」の意味で用いられる。
例 “She is above telling a lie.” 「彼女はうそをつくような人ではない」

- (3) [not を使わない否定③不定詞を用いるタイプ] [fail to V / remain to V / have yet to V]

不定詞は、本来「これから V する」というニュアンスを持っているが、これが発展して「V し
ていない」という否定を含む場合がある。“try to V”には「V しようとする(がしかしできない)」
の意味を持ち、特に過去形ではできなかったを含蓄することが多い。このように、不定詞の慣
用表現の中には、否定を表すものがあり、以下に挙げるものは重要である。“fail to V” 「V で
できない」 “never fail to V” 「必ず V する」 “remain to be 過去分詞” 「いまだ過去分詞されてい
ない」 “have yet to V” 「まだ V していない(しないといけないのに)」や “be yet to V”(have yet
to V とほぼ同義)などがある。さらに、“the last (名詞) to V [that ...]” 「決して V [that...]する
～でない」(「最後に...する」⇒「最も...(しそうに)ない」) 例 “He is the last man to tell a lie.”
「彼は決して嘘をつかない」)も覚えておきたい。

- (4) [not を使わない否定④比較級を用いるタイプ] [more than A / know better than to V]

比較表現の中には、否定を表すものがある。“more than A” 「A できない」(「A を超えている」
が原義) 例 “Your remark is more than I can bear.” 「君の発言は我慢できない」、 “know better
than to V” 「V するほど馬鹿ではない」(「to V するより分別がある」 know well 分別がある)
例 “He knew better than to believe this paper.” 「彼はこの論文を信じるほど馬鹿ではない」

- (5) [not を使わない否定⑤比較級を用いるタイプ] [less than 形容詞/副詞]

“less than 形容詞/副詞”も「～以下」の意が転じて「決して～でない」の意を表わす。例 “His
response is less than fair.” 「彼の対応はとても不公平だ」。なお動詞を修飾することもある。
“more than...”は「～以上」の意味をあらわすのが一般的であるが、意味が転じて「非常に～」
(very～), 「～できない」の意を表わすことがある。例 “She is more than happy.” 「彼女はとて
も幸せだ」

- (6) [not を使わない否定⑥原級を用いるタイプ] [as far as SV...]

“as far as SV...”は「SV できる限りの程度」を表し、そこから発展して「SV までしかできな
い」の意を表すことがある。例 “His theory is as far as it can go.” 「彼の理論はここまでしか
及ばない」「彼の理論では、これ以上は無理だ」

(7) [not を使わない否定⑦否定の結果を表す語句] [in vain / vainly / without success]

副詞や、前置詞句が否定の結果を表す場合がある。in vain/ vainly 「無駄に」 without success 「成功せずに」。こうした語句は、述語的に訳するのがコツである。例 “He tried in vain to teach his son mathematics.” 「彼は息子に数学を教えようと思ったが、ダメであった」 “He looked without success for his lost bag.” 「彼はなくしたカバンを探したがダメだった」

(8) [否定辞上昇]

Yes, No を明確に言う英語では、否定辞(not)は主節で表す傾向にある。例 “He doesn't think that his mother is a poor cook.” 「彼は母親が料理が下手でないと思う」。なお、hope や be afraid などの主観的な意味の強い動詞の場合は、否定辞上昇は起きない。例 “I hope that it won't rain tomorrow.” 「あすは雨がふらないで欲しい」

NO 3



【1】〔基本構文〕

(1) 〔様々な省略〕

1. She is said to be good at skiing, and so he **is**.
2. He always tries to do more than we **can**.
3. The people who have been abroad are not alywas familiar with foreign affairs than those who **have not**.
4. You don't have to go to the party unless you want **to**.
5. This work must be done by you, and **that work by your sister**.

1. 〈be 動詞のあとの省略〉※**is** のあとに **good at skiing** が省略されている。
彼女は、スキーが得意だと言われているが、実際そうである。
2. 〈助動詞のあとの省略〉※**can** のあとに、**try** が省略されている。
彼は常に私たちができる以上のことをしようとする。
3. 〈have (not)のあとの省略〉※**have not** のあとに **been abroad** が省略されている。
外国に行った人はそうでない人よりも外国を必ずしも外国を知っているわけではない。
4. 〈代不定詞〉※**to** のあとに **go to the party** が省略されている。
君は行きたくなければそのパーティーに行く必要はない。
5. 〈動詞の省略〉※**work** と **by** の間に、”**must be done**”が省略されている。
この仕事は君が、あの仕事は君の妹がしなければならない。

(2) 〔副詞節中の”S be”の省略〕

1. Keep an eye your bag **while walking**.
2. **As a boy**, I used to swim in the pond.
3. He seems to have been in poor health **when young**.
4. A book, **if read through**, may be said to be cheaper than anything else.
5. He did not speak **unless spoken to**.

※副詞節中で”S be”が省略される場合は、S が主節の主語と同じ、be 動詞の時制が、主節と同じでなければならない。

1. 〈副詞節中の<S be>の省略:while の場合〉
歩行中にかばんから目を離さないように。

2. 〈副詞節中の<S be>の省略:as の場合〉
子供の頃、よくその池で泳いだものだ。
3. 〈副詞節中の<S be>の省略:when の場合〉
彼は若いころ体が弱かったようだ。
4. 〈副詞節中の<S be>の省略:if の場合〉
私たちが一冊の本を通読したとすれば、こんな安いものはないと言える。
5. 〈副詞節中の<S be>の省略:unless の場合〉
彼は話しかけられないとしゃべらなかつた。

【2】 [文法]

空所に入れるのに最も適切な語句を、下の①～④から1つずつ選びなさい。

- (1) She never speaks unless () to.
①speak ②speaking ③speaks ④spoken
- (2) Cancer can be cured if () in time.
①discover ②to discover ③discovering ④discovered
- (3) There are few mistakes, if (), in his composition.
①ever ②anything ③some ④any
- (4) Would you read my letter and correct the mistakes, if ()?
①ever ②any ③not ④never
- (5) Cold chicken is delicious () a salad.
①when eaten with ②when eating with
③with when eaten ④with when eating
- (6) Gary got hurt seriously while () soccer. Now he is in the hospital.
①to play ②played ③playing ④he had played

【2】(1) ④(2) ④(3) ④(4) ②(5) ①(6) ③

【3】 [標準 英文解釈]

解答時間各 10 分

次の各英文(1)~(4)の下線部を和訳しなさい。

(1) [be 動詞のあと後の省略]

Dad often made surprise visits to our schools to find out if and when we were ready to skip. Because of his home-training program— spelling games, geography quizzes, and the arithmetic and languages— we sometimes were prepared to skip; but never so prepared as Dad thought we should be.

(2) [do のあとの省略] 《首都大東京》

* 下線部をわかりやすく説明しなさい。

At one time I was collecting coincidence stories, and a friend of mine remarked: ‘So, after all, you do believe in mysteries?’ But I do not. Coincidences are sometimes amazing, but there is nothing mysterious about them: they are bound to happen according to the very logical and unmysterious laws of probability.

(注) coincidence stories [kouínsædens] 「偶然の一致の話」

【3】 (1) made a surprise visit 「不意に訪れる」 be ready to V 「V する準備が出来ている」 skip 「飛び級する」 geography [dʒi(:)ɑ:grəfi] 「地理」 be prepared to V [pri(:)peəd] 「V する準備が出来ている」 (=be ready to V)
 (2) remark A [rɪmɑ:rk] 「A と発言する」 amazing [əmeɪzɪŋ] 「おどろくべき」 be bound to V 「きっと V する」 unmysterious [ʌn mɪstɪəriəs] 「神秘的な」 probability [prəbəbɪləti] 「確率」

(3) [to のあとの省略] (代不定詞) 《埼玉大》

Now we have entered an age where technology has ways of making you talk, even when you don't want to. You don't even need to have anyone present or nearby. We know now that people will answer cell phones wherever they are and whenever they ring, even in the library and the museum, and that they will place calls, too.

(4) [副詞節中の S be の省略]

We must never forget that we may also find meaning in life even when confronted with a hopeless situation, when facing a fate that cannot be changed. For what then matters is to bear witness to the uniquely human potential at its best, which is to transform a personal tragedy into a triumph, to turn one's crisis into a human achievement.

(3) place a call 「電話をする」

(4) S be confronted with A [kənfrʌnt] 「S は A に直面する」 hopeless [hóuplɪs] 「絶望的な」 a fate [feit] 「運命」 matter [mætə] 「重要である」 (What matters is A. 「重要なのは A である」) witness to A [wɪtnɪs] 「A の証し」 uniquely [ju(:)nɪ:kli] 「固有に」 transform A into B [trænsfɔ:rm] 「A を B に変える」 tragedy [trædʒədi] 「悲劇」 triumph [[tráɪəmf]] 「勝利」 a crisis [kráɪsɪs] 「危機」 achievement [[ætʃɪ:vmənt]] 「偉業」

発展問題

解答時間各 20 分

次の各英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

(1) [代用の so] 《関西学院大》

Few things prepare you for meeting a great ape in the wild. It is all too easy to be sentimental about animals, but even so, after a couple of hours' hard walking through the Borneo rainforest*, the first sight of the ape high above us left us silent with wonder. For here was the magnificent man of the forest, orang-utan, in his natural habitat. Totally wild, totally unused to humans, aware of our presence but unconcerned, the huge ape swung slowly through the branches like a gymnast. In the heart of Borneo it seems that nature is uncontrollable and unable to be destroyed. It is all too easy to forget that it is, in fact, as fragile as a butterfly's wing.

(注) the Borneo rainforest 「ボルネオの熱帯雨林」

(2) [being の省略] 《新潟大》

次の英文は、左利きを右利きへ修正することへの反論の一部である。

Science, however, provides its own compelling argument for leaving left-handers alone. The brain, after all, is divided into two hemispheres, each with its own distinct function and each directing the motor functions of the body's opposite side.

発展問題(1) prepare A for B [pri(:)péər] 「A に B の心構えさせる」 sentimental [sɛntəməntel] 「感傷的な」 magnificent [mægnɪfəsənt] 「偉大なる」 habitat [hæbit'æt] 「生息地」

(2) compelling [kəmpéliŋ] 「人を動かさずにはおかない、魅力的な」 direct A [dirékt] 「A を指示する」 opposite [ápəzɪt] 「反対の」

構文解説

(1) [省略が行われる理由]

省略は主に、①反復の回避、②簡潔な表現、の理由で生じることが多い。省略に関しては、日本語と同じ考え方でよい場合が多い。例えば「母は若い時、母は一日 12 時間働いた」という趣旨の内容を日本語で表す場合も、多くは、「母は」を省略して「若い時、母は一日 12 時間働いた」で意味は誤解なく通じる。英語も同様に反復を回避するため“**When (she was) young, my mother worked twelve hours a day.**”と“**she was**”を省略することができる(副詞節中の **S be** の省略)。省略によって「母」を 2 回表すこと(反復)を回避することができる。また、省略しても誤解が生じることのない“**is(are)**”“**it is**”“**there is**”を省略して文を簡潔することもある。

例“**How kind (it is) of you to pick me up at the statin.**”「私を駅まで迎えに来てくれるなんてなんて君は親切なんだ」

(2) [名詞の省略]

反復を避けるために名詞が省略されることがある。例“**Are these books yours?**” “**No, they are my sister’s (books).**” 「これらの本はあなたのですか」「いいえ、私の妹のものです」

(3) [助動詞の後の動詞の省略]

疑問文に対する応答文では、動詞とそれに伴う語が重複する場合は省略する。例“**Have you finished? – Yes, I have (finished).**” 「もう終わりましたか。—ええ、終わりました」また、“**So 助動詞 S**”や“**Niether(Nor) 助動詞 S**”の **S(主語)**の後続部にも省略が生じることが多い。

例“**I can’t speak Chinese, and neither can she (speak Chinese).**” 「私は中国語が話せないし、彼女も話せない」

(4) [to 不定詞の省略(代不定詞)]

不定詞の後続部が、前出の動詞部分と重複する場合は、同型反復を避けるために“**to**”だけを残してあとは省略する(**to** を代不定詞とも呼ばれる)。例“**You don’t have to go if you don’t want to (go).**” 「行きたくなければ行かなくてもよい」“**He played in the river, although he was often told not to (play in the river) by his mother.**” 「彼はその川で遊んだ、もっとも、彼の母親にしばしばそうしないように言われていたけれども」

(5) [並行構文での“V”の省略]

“**SVX and (but, or) S’V’X**”で、同じ形(文型)が続くときに、同型反復を避けるため、共通なものを省略することがある。例“**Some people are interested in science and others in music.**” 「科学に興味があるものもいれば、音楽に興味がある者もいる」**others** の後に“**are interested**”が省略されている。

(6) [副詞節中の“S be”の省略]

副詞節中の“**S be**”が省略されることがある。この場合の、**S** は主節の主語と同一であり、時制も主節の動詞と同じ時制でなければならない。例“**Don’t touch your mobile phone while (you are) eating.**” 「食事中は携帯電話に触れてはいけません」“**Though (he was) very tired, he reviewed today’s homework.**” 「彼は疲れていたけれども、今日の宿題の見直しをした」

(7) [分詞構文中の”being””having been”の省略]

分詞構文では、“being””having been”が省略される場合がある。文を短くする意図を持つ分詞構文では、文脈から意味が通じるので、“being””having been”を省略するのである。“being””having been”の省略には、主に2つのパターンがある。一つは、文頭の”being””having been”が省略される場合、もう一つは意味上の主語の後の”being””having been”が省略パターンである。①の文頭の Being が省略されると、“(Being)形容詞(名詞)..., SV...”の形になる。形容詞(名詞)で始まる、分詞構文と考えてもよい。例“Unable to meet her demands, he was forced to leave the place.”「彼は彼女の要求にこたえることができなかったので、その場を去らざるをえなかった」。主節の後に形容詞が続くこともある。例“He hurried to the station, forgetful of all his sorrows.”「彼はすべての悲しみを忘れて、駅まで走り出した」。二つの目のパターンである、意味上の主語の後の”being””having been”が省略されるタイプもある。例“The rainy season (been) over, our children like to go sea-bathing.”「梅雨が終わると、私たちの子供は海水浴に行きたがる」。“They got out of the classroom, their faces (being) pale and wan.”「顔面蒼白で、彼らはその教室から出てきた」

NO 4



【1】 [基本構文]

(1) [省略が生じやすい構文]

1. How kind (it is) of you to help me!
2. He, no matter how busy (he is), writes home to his parents at least once a month.
3. What (would you do) if you saw a man from another planet?

1. 〈感嘆文中の it is の省略〉
私を手伝って下さってありがとうございます。
2. 〈"no matter how ..." 構文中の S be の省略〉
彼はどんなに忙しくても、月に少なくとも一度は故郷の父母に便りをします。
3. 〈What if SV...〉 ※What と if の間に"would[will] you do"または"would[will] happen"が省略。
他の惑星から来た人を見たらどうしますか。

(2) [関係詞と省略]

1. The man he is talking with is a member of our team.
2. This is the reason she is on good terms with my mother.
3. She is no longer the person she was ten years ago.
4. He is not the man we think is cut out for this job.

1. 〈関係詞の省略〉 ※目的格の関係詞は省略されるのが普通
彼が話している人は、私のチームのメンバーだ。
2. 〈関係副詞の省略〉 ※the reason (why) SV...
こういうわけで彼女は私の母と仲が良い。
3. 〈補語になる関係詞の省略〉 the person の後に関係代名詞 that が省略されている。
彼女はもはや 10 年前の彼女ではない。
4. 〈主格の関係詞の省略〉 ※the man の後に関係代名詞 who が省略されている。
彼は私たちがこの仕事にふさわしいと思っている人ではない。

(3) [比較構文と省略]

1. The cloth feels softer than it looks (soft).
2. I am as interested in jazz as you (are interested) in movies.
3. I have never been as happy with you (as now).
4. Time is important, but safety is far more important (than time is).
5. The sooner you give up, the greater (is) the benefits.

1. 〈比較構文における省略①〉※looks のあとに soft が省略されている。
その布は見た目よりも柔らかい。
2. 〈比較構文における省略②〉※than のあとに is interested が省略されている。
あなたが映画に興味を持っているのと同じくらい私はジャズに興味がある。
3. 〈比較対象の省略①〉※as now が省略されている。文脈から明らかのため。
私はあなたといてこれほど嬉しかったことはない。
4. 〈比較対象の省略②〉※important のあとに than time が省略されている。
時間は大切だが、安全はさらにもっと大切だ。
5. 〈“The 比較級 ..., the 比較級...”構文中の S be の省略〉
禁煙するのが早ければ早いほど、そのメリットは大きくなる。

【2】 [標準 英文解釈]

次の各英文(1)~(4)の下線部を和訳しなさい。

解答時間各 20 分

- (1) [whatever 節中の be 動詞の省略] 《宮崎大》

All effective writing, whatever the style, has three characteristics: purpose, form, and appropriateness. What makes writing effective when the purpose is to entertain might be inappropriate when the intention is to persuade. What makes for good writing in a comic novel would probably be ridiculous in a business memo.

- (2) [as/than の中の省略] 《京都府立大》

If humans were truly at home under the light of the moon and stars, we would go in darkness happily, the midnight world as visible to us as it is to the vast number of nocturnal* species on this planet. Instead, we are diurnal* creatures, with eyes adapted to living in the sun's light.

- (注) nocturnal [nɒktəːrnel] 「夜行性の」 diurnal [daɪəːrnel] 「日中活動する」

【2】 (1)a characteristic [kʰærəktərɪstɪk] 「特徴」 inappropriate [ɪnəprəʊpriɪt] 「不適切な」 ridiculous [rɪdɪkjʊləs] 「滑稽な」

(2)a creature [kriːtʃə] 「生き物」 adapt to A [ədæpt] 「A に調整する」

(3) [比較対象の省略] 《高知大》

次の英文は、表情(facial expressions)が感情に与える影響について述べた文である。

Sometimes, just making a facial expression can cause us to experience a particular emotion. For example, if you are in a bad mood, but put on an artificial smile, you will start to feel better faster. In other words, sometimes the facial expression actually starts the emotional process, rather than the other way around. So if you greet someone with a cheerful expression on your face, both of you will be more likely to feel cheerful.

(4) [関係代名詞の省略] 《宮崎大》

In Japan, March is graduation month. Saying good-bye to those you have studied and played with is difficult. Even though everyone goes their separate ways after graduation, people always want to continue friendships. However, even with firm friendships, it is usual for contact to lessen with time.

(3) artificial [ɑːrtɪfɪjəl] 「人工的な」 (an artificial smile 作り笑い) in other words 「言い換えれば」 the other way around 「その反対」

(4) goes one's separate ways 「それぞれ別の道を行く」 lessen[lésn] 「減る」

発展問題(1) estimate that SV...[éstəmeɪt] 「SV...と見積もる」 up to A 「Aまで」 anxiety [æŋgzáɪəti] 「不安」 discomfort [dɪskʌmfərt] 「不快」 cope with A 「Aに対処する」

(2) be unwilling to V [ʌnwɪlɪŋ] 「Vしたがらない」

発展問題

解答時間各 20 分

次の各英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

(1) [主格の関係詞の省略] 《福井大》

Researchers have estimated that up to half of all language students experience high levels of language anxiety. When people are confronted with a situation they think will make them anxious, the most expected response is to avoid the situation and thus avoid the discomfort. However, in most language classrooms, avoidance is not possible; learners are expected to find some way to cope with the anxiety.

(2) [補語になる関係詞の省略] 《信州大》

This problem of being willing to be yourself is “as old as history,” says Dr. James Gordon Gilkey, “and as universal as human life.” This problem of being unwilling to be yourself is the hidden cause behind many neuroses* and psychoses* and complexes. Angelo Patri has written thirteen books and thousands of syndicated* newspaper articles on the subject of child training, and he says: “Nobody is so miserable as he who longs to be somebody and something other than the person he is in body and mind.”

(注) neuroses [njueróusi : z] 「ノイローゼ」(neurosis の複数形) psychoses [saikóusiz :] 「精神病」(psychosis の複数形) syndicated[síndəkèitid] 「共同発表の」

構文解説

(1) [比較対象の省略]

比較対象が文脈から明らかな場合は、省略されることが多い。例“He is good at palying tennis, but his brother is even better (than he).”「彼はテニスが得意であるが、彼の兄はさらに上手である」比較対象である he が、文脈から明らかなので省略されている。例“He has never been as happy (as now).”「彼はこれほど幸せだったことはない」as now が無くても意味が十分通じるため省略されている。

(2) [慣用的な省略構文]

if で始まる副詞節には、慣用的に〈主語+be 動詞〉が省略されるものがある。省略される主語は、主節の主語と一致しないことが多い。“if any”「仮にあれば」「if(when) possible」「可能な場合は」「if necessary」「必要であるならば」などがある。例“Correct errors, if any.”(if any=if there are any errors)「誤りがあるならば、訂正してください」“Come with us, if possible.”(if possible = if it is possible)「できるなら私たちと一緒に来てください」

(3) [“What about ...?”“How about ...?” 「...はどうですか」]

“What about ...?”“How about ...?” 「...はどうですか」は、もとはそれぞれ“What (do you think) about ...?”“How (do you say [think]) about ...”から、情報量が少ない部分を省略してできた慣用表現である。例“How about playing chess?”「チェスをしませんか」

(4) [“What if ...”「...したらどうなるだろう」「...してもかまわない」「...すればどうする」]

“What if ...”「...したらどうなるだろう」は、もともと、“What (will happen) if ...?”「～したら何が起こるだろう」”What (does it matter) if ...?”「...してもどんな問題があるのか(いやない)」”What (do you do) if ...?”「...であれば(あなたは)どうする」からできている表現である。if 節の中に仮定法を用いる場合もある。例“What if he misses the first train?”「彼が発車列車に乗れなければどうなるだろう(する)」

(5) [関係詞代名詞の目的格、関係副詞の省略]

関係代名詞の目的格は原則として省略される。また関係副詞も先行詞が限定的であるため省略されることが多い。例“The man (that) you talked about yesterday is my uncle.”「あなたが昨日話していた男性は、私の叔父です」“Tell me the reason (why) you got so angry at him.”「あなたが彼にあればほどおこった理由を教えてください」

(6) [主格の関係詞代名詞の省略]

一般的には、主格の関係代名詞は省略できないが“there is”“here is”などに続く場合や、関係詞節に “there is”がある場合、関係代名詞の直後に I think などが挿入される場合などは省略できる。例“there’s a Yamada are looking for you.”「山田さんという方があなたを捜しています」“He has found a man (that) he thinks will know the truth of the accident.”「その事故の真相を知っていると思う男の人を彼は見つけた」

(7) [補語の役割を果たす関係詞代名詞 which,that の省略]

関係代名詞がその後続く節の中で補語の役割を果たしている場合、which または that を使うか省略するのが原則である。限定用法で用いられる場合は、which,that を省略することが多い。例“Takeko is not the woman she used to be.”「タカコは以前のような女性ではない」なお、継続用法で用いる場合は、省略できない。例“His mother was an able doctor, which he is not.”「彼の母親は有能な医師だったが、彼はそうではない」

(8) [比較構文中の省略①:as/than...内の省略]

比較構文“as ... as ~”“比較級 ... than ~”の“as ~”“than ~”の部分で省略が生じる場合がある。例“He is as good at tennis as I (am good) at guitar.”「私がギターが得意なのと同じくらい彼はテニスが上手い」は、同型反復を避けるために“am good”が省略されている。

(9) [比較構文中の省略②: The 比較級, the 比較級 中の省略]

“The 比較級, the 比較級”での“be 動詞”または“S be”が省略されることがある。例“The more passengers there are in the car, the greater (is) the risk of an accident for young drivers.”「車の中に乗客が多ければ多いほど、若い運転手にとっては自己のリスクが大きくなる」

(10) [譲歩節中の“be”省略]

副詞節 whatever ..., however ... のなかで“be 動詞”“S be”が省略されることがある。例“Whatever the reason (was), you shouldn't have kept her waiting.”「理由がなんであれ、彼女を待たせるべきではなかった」

(11) [感嘆文中での“it is”の省略]

感嘆文中で、状況が明らかな場合は“S be 動詞”が省略されることもある。例“What an honest boy (he is)!”「なんと正直な少年なんだ」また、“it is”が省略されることがある。“How cruel (it is) of you to say such a thing !”「そんなことを言うなんて君はなんて残酷なんだ」

(12) [文頭の“There is”“It is”の省略]

文頭の“There is”“It is”が省略される場合もある。慣用的なものが多い。例“It is” No wonder (that) he is so indifferent to our project. 「彼があんなにも私たちの企画に無関心なのは当然だ」“There is” No doubt (that) they will overcome the difficult situation in the end.”「きっと彼らはその難局を最終的には乗り越えるだろう」

NO 5



【1】〔基本構文〕

(1) [副詞節の注意点] 《目的語になるもの：名詞節と副詞節の区別》

1. I don't know if it will rain tomorrow.
2. Please call me if it rains tomorrow.

1. 〈名詞節〉
明日雨が降るかどうかわかりません。
2. 〈副詞節〉
明日雨ならば私に連絡ください。

(2) [副詞節の注意点] 《副詞節の位置① 基本》

1. **If it stops even raining anyhow**, probably, we will go out.
2. We'll finish the work **even if it takes us all day**.
3. This tool, **if it is used carelessly**, can be very dangerous.
4. I know that **if we discuss it**, we can find a solution that will satisfy both of us.

1. 〈文頭：主節に先行する〉
とにかく雨さえ止めば、出かけられるだろう。
2. 〈文尾：主節に後続する〉
我々は、一日中かかってもその仕事を仕上げてしまうつもりだ。
3. 〈文中：挿入〉
この道具は、不注意に使われると、とても危険なことがある。
4. 〈that 節の中〉※that 接続詞 SV..., SV...の形になる。文が長くなることに注意。
一度話し合いをすれば、お互いに満足のいく解決方法を見つけられると思います。

(3) [副詞節の注意点] 《副詞節の位置② 名詞節中の副詞節の位置》

1. What annoys me is that though I object, he insists on buying it.
2. He told me that when he was young, he was very eager to be popular.
3. **They said that because it was snowing heavily**, the game would be put off.

1. What annoys me is [that (though I object)], he insists on buying it].
しゃくにさわるのは、私が反対なのに彼はそれを買うとやってきかないことです。
2. He told me [that (when he was young)], he was very eager to be popular].
若い頃には、人気者にとてなりたかったと、彼は私に言った。
3. **They** said [that (because it was snowing heavily)], the game would be put off].
彼らは雪が激しいので、試合は延期されるだろうと言った。

(4) [副詞節の注意点] 《副詞節の位置③ 訳し下す副詞節》

1. I attended the meeting, **though** my father told me not to.
2. Some people like classical music, **while** others like pops.
3. The candle grew shorter and shorter, **until** at last it went out.
4. I was leaving home, **when** it started to rain.
5. He is badly off, **because** his books don't sell well.

1. 〈SV..., though S'V'〜「もっとも S'V'〜だが」〉譲歩の付け足し
★SV..., but S'V'〜「SV...だが、SV'〜」との違いに注意
私はその会議に出席した、もっとも父はその会合に出席しないように言ったけれども。
2. 〈SV..., while S'V'〜「一方 S'V'〜である」〉対比
クラシック音楽が好きな者もいれば、ポップスが好きな者もいる。
3. 〈SV..., when S'V'〜「..., その時 S'V'〜」〉継続
ろうそくはだんだん短くなって、ついに消えてしまった。
4. 〈SV..., until S'V'〜「..., そしてついに S'V'〜」〉継続
私が家を出ようとしていると雨が降り出した。
5. 〈SV..., because S'V'〜「というのは S'V'だから」〉理由の付け足し
彼は本があまり売れないので暮らし向きが悪い。

【2】〔基本構文〕

(1) 〔名詞節を導く接続詞〕

1. I thought **that** the cap didn't match the color of his hair.
2. She asked me **whether** I was satisfied with that present.
3. **Where** he comes from isn't important to me.
4. I understood well **what** he meant to you.
5. **Whoever** has talked with him has been inclined to help him.
6. I was surprised at **the news that** he was a finalist.

1. 〈名詞節を導く that〉※that は名詞節以外にも形容詞節、副詞節を導くことができる。
私はその帽子は彼の髪の色に合わないと思った。
2. 〈名詞節を導く whether〉※whether/if は名詞節以外にも副詞節を導くことができる。
彼女は私にプレゼントが気に入ったかどうか尋ねた。
3. 〈名詞節を導く疑問詞 where〉※疑問詞は、間接疑問文として文の要素となる。
彼がどこ出身であるかは私には重要ではない。
4. 〈名詞節を導く関係代名詞 what〉※what が、間接疑問文になる場合もある。
私は彼があなたに言ったことの真意がよくわかる。
5. 〈複合関係詞〉★whoever ...=anyone who ...
彼と話したことがある人なら誰でも、彼を助けたい。
6. 〈同格名詞節 that〉
私は彼が決勝に出場するという知らせを聞いて驚いた。

(2) 〔接続詞 when〕

1. **When** did you begin studying English?
2. He asked me **when** I was going to buy a new car.
3. I don't know **when** to go.
4. **When** it rains, the buses are late more often than not.
5. Wait till eight, **when** he will be back.
6. I recall the moment **when** the younger brother was born.
7. Sunday is (the day) **when** I am busiest.

8. He works **when** he might rest.
9. He will never give in **even when** he is wrong.
10. The game had **hardly** started **when** they scored the first point.
11. **No matter when** you may come, you will find him at his books.

1. 〈疑問副詞「いつ〜」〉★直接疑問文
君はいつ英語を学び始めたのか。
2. 〈疑問副詞「いつ」〉★間接疑問文
私がいつ新車買うつもりかと彼はたずねた。
3. 〈疑問詞 to V「いつ Vすべきか」〉★不定詞の名詞的用法
いつ行くべきかわからない。
4. 〈副詞節を導く接続詞「〜するとき」〉
雨が降る時には、バスはよく遅れる。
5. 〈副詞節を導く接続詞(whenの前にカンマをつける)〉★継続用法「(それから)SV...」
8時までお待ちなさい、その時分には彼も帰ってきます。
6. 〈関係副詞「〜する先行詞」〉★先行詞 the moment を修飾
私は弟が生まれた瞬間を覚えている。
7. 〈関係副詞「〜する先行詞」〉★先行詞 the day は省略可能
日曜日は私が最も忙しい日だ。
8. 〈副詞節を導く接続詞「〜するときでも」〉★譲歩を表す
彼は休んでもよい時に働く。
9. 〈even when SV〜「〜するときでも」〉★譲歩を表す
彼は自分が悪くても決して認めようとししない。
10. 〈hardly ~when...「〜するとすぐに...」〉
試合が始まるとすぐに、彼らは先制点をあげた。
★=Hardly had the game started **when** they scored the first point.
11. 〈no matter when SV〜「いつ〜しても」〉★whenever SV〜と書き換え可能
きみがいつ訪れても、彼は本を読んでいる。

【3】 [標準 英文解釈]

解答時間各 10 分

次の各英文(1)～(4)の下線部を和訳しなさい。

(1) [名詞節 when SV...] 《京都教育大》

When the child is first left with a minder, enough time should be allowed so that this isn't done with a great rush and fuss*. The child should be clearly told **where** you are going and **when** you will be back to pick him up. Despite the explanation, the young toddler* will not understand and may shed copious* tears on your departure. The minder should be left with a contact telephone number and told to telephone you if they have the slightest worry. They will help ensure a better standard of care for the child and some early warning for you if anything goes wrong.

(注) with a great rush and fuss 「大急ぎで慌てて」 toddler 「よちよち歩きの幼児」 (toddle [tádl]の名詞形) copious [kóupiəs] 「大量の」 romp [ramp] 「はしゃいで遊ぶこと」

(2) [名詞節 if SV...] 《東京工業大》

次の英文は、電気・通信の発明に先立って活躍した科学者の話の一部である。

We'd like to think that we're pretty sophisticated these days, with our e-mails, faxes, etc.; but give us some wire, wood and a few other parts of an old phone and see how we'd get along. I doubt **if** any one of us today could come up with something that worked.

(3) [名詞節 what SV...] 《大阪府立大》

次の英文は、一般の人からの質問“Why are more people right-handed?”に対する専門家による回答である。

In the 160 years in which “handedness” has been studied we have learned quite a lot, but we still cannot precisely describe what causes humans preferentially* to use one hand over the other, or why human populations are biased toward right-hand use rather than left-hand use.

(注) preferentially [prɛfərəˈɛnʃiəli] 「優先的に」

(4) [名詞節 whether SV...] 《岐阜大 医》

One issue that researchers have been interested in is whether the neural organization for language in bilingual individuals differs from that observed in monolinguals. Investigations of this issue have taken a number of twists and turns, some that suggest differences and some that do not.

(注) neural organization [ɔːrgənizéiʃən] 「神経機構」 twists and turns 「紆余曲折」

[3] (1)shed tears 「涙を流す」 slightest (slight [slait] 「わずかな」の最上級) ensure A [enʃúə] 「Aを確保する」

(2) precisely [pri(:)sáisi] 「正確に、はっきりと」 bias A [báias] 「Aに偏向する」

(3)sophisticated [səfistəkèitid] 「洗練された、高度な」 come up with A 「Aを思いつく」

(4)a monolingual [mànouliŋgwəl] 「モノリンガル、ひとつの言語しか話せない人」 an investigation 「調査」

発展問題(1)a perception [pərsépfən] 「知覚」 take in A 「Aを理解する」 a filter [fíltə] 「フィルター」 block out A 「Aを」 end up Ving 「結局Vingになる」 argue over A [á:rgju:] 「Aについて議論する」

(2)as a general rule 「一般的通則として」 take notice of A 「Aに注目する」 work out A 「Aを解決する」 state [steit] 「状態」 sleep fitness 「適切な睡眠」 get more out of life 「人生からより多くのものを引き出す」

発展問題

解答時間各 20 分

次の各英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

(1) [名詞節 how/what/whose] 《大阪市立大》

Everyone knows what perceptions are. They are “what we take in”. What people forget is that our perceptions are just perceptions. They are not reality. How we see things depends on what we learned as children or from our environment. I think of perceptions as filters because they shape realities and block out other versions. Of course, men and women filter reality in very different ways. So it’s almost as if we live in entirely different realities. And like the couple in the room, we end up arguing over whose perception is the real one.

(2) [the way SV...] 《愛知教育大》

Even though experts believe almost all of us would do better with more sleep, we don’t all need eight hours a night. As a general rule, the older we get, the less sleep we need. For each of us though, only our bodies can tell us how much we need. If we take notice of the way we feel and perform during the day, we can judge for ourselves. Working this out and then getting yourself into a state of sleep fitness is the easiest way to get more out of life — and even help yourself to live longer.

構文解説

(1) [等位接続詞とは]

等位接続詞とは、対等の関係にある語・句・節を結び付ける。例えば **and** の場合は、“名詞 **and** 名詞”、“不定詞 **and** 不定詞”、“前置詞＋名詞 **and** 前置詞＋名詞”また、“補語 **and** 補語”といったように、文法的に対等のものがくる。“**and, but, or, for, so, yet**”などがあります(数は少ない)。特に英文読解では、“**and**” “**or**”が何と何とを対等に結びつけているのかを把握することが大切である。

(2) [従属(従位)接続詞とは]

従位接続詞(Subordinate Conjunction)とは、文の要素の一部(S,O,C,M)となる節を導く接続詞を従属接続詞と呼ぶ。“**that, if, whether, while, when, since, as, because, unless, though, than**”そのさまざまな種類がある。

(3) [働きによる従位接続詞の分類]

従位接続詞に導かれる節(意味のかたまり)は、文中での働きによって、名詞節、形容詞節、副詞節に分類することができる。接続詞に導かれる節が文中で、S,O,C または“同格”として働く節を名詞節と呼ぶ。例“**I hope that he will get over the difficulty for himself.**”「彼がそのこんなを自力で乗り越えるだろうと思う」**that** に導かれる節(破線部)は、動詞 **hope** の目的語になっている。形容詞節とは、関係詞節(関係代名詞節、関係副詞節)が代表である。例“**This is the most interesting book that I have ever read.**”「これは私が読んだ中で最も面白い本だ」関係代名詞 **that** に導かれる節(破線部)は、先行詞“**the most interesting book**”を修飾している。接続詞に導かれる節が文中で、M(修飾語)として働く節を副詞節と呼ぶ。例“**He knows her well because their mothers are sisters.**”「彼は彼女のことをよく知っている、なぜなら、お母さんどうしが姉妹だから」接続詞 **because** に導かれる節が“**He knows her well**”を修飾している。また副詞節では、その副詞節が導く意味の塊がなくても文が成立していることに注意する。このばあいであれば、**because** 節がなくても、文“**He knows her well**”は成立している。

[注意] 働きがひとつに限定される接続詞が大半だが、接続詞 **that** のように、名詞節、形容詞節、副詞節のいずれにもなるものや、接続詞 **if, whether** のように、名詞節、副詞節のいずれかになるものなどがある。

(4) [名詞節と副詞節の違い①]

名詞節と副詞節は、文中での働きから区別する。文中での働きが、S,O,C または“同格”であれば、名詞節。M であり、文全体を修飾している(名詞を修飾するのは形容詞節)場合が、副詞節である。副詞節の場合は、その副詞節の部分がなくても文が成立する。例えば“**whether he is rich or not**”という形だけでは、名詞節か副詞節かの判断は難しい。“**I don't know whether he is rich or not.**”「彼が金持ちかどうか私は知らない」では、“**whether he is rich**”は、**know** の目的語となっているので、名詞節であるが、“**Whether he is rich or not, he won't buy such an expensive car.**”「彼が金持ちであってもそうでなくても、彼はそんな高価な車は買わないだろう」“**Whether he is rich or not,**”の部分がなくても、文が成立するので、副詞節となる。

(5) [名詞節と副詞節の違い② 時を表す副詞節]

時を表す副詞節(**when, if**)中では、未来のことであっても、現在形で書くのが原則である。したがって、“**when**”“**if**”節の中に、未来を表す語句がある場合は、名詞節と判断できる。

例“**I'll ask him when he comes back.**” [副詞節] “**Do you know when he will come back?**” [名詞節] なお、“**if** 節内”であっても、**will** を用いる場合がある。例“**If you will go, I will go.**”「もし君がいくつもりなら僕も行くよ」[意志]

(6) [接続副詞]

接続副詞(Conjunctive Adverb)とは、副詞と接続詞の性質を兼ね備えたものだ。意味的に見れば、接続詞と間違いやすいが、働きは異なることに注意。however「しかしながら」therefore「従って」otherwise「さもなければ」moreover「さらに」“などがある。また、”“for example”, “in short”など2語以上からなるものもある。

(7) [接続詞と接続副詞の違い]

接続副詞は、文法的には、接続詞(文と文をつなぐ働き)ではなく、「副詞」である。例⁽⁶⁾“He was very interested in history. Thus, he often visits old temples and shrines.”「彼は歴史に大変興味を持っていた。だから、古い寺や神社によく行く」。(6)He was very interested in history, thus, he often visits old temples and shrines.接続副詞の中には、接続詞の働きを持つもの(though,so など)があるので、注意が必要である。

(8) [接続詞と接続副詞の違い①though の場合]

例“**Though** he was very tired, he helped her with her homework.”「彼はとても疲れたいけれども、彼は彼女の宿題を手伝った」接続副詞”He was very tired. He helped her with her homework, **though**.「彼はとても疲れいた。とはいっても、彼は彼女の宿題を手伝った」

(9) [接続詞と接続副詞の違い②however の場合]

however には、接続詞と接続副詞両方の用法がある。例“**At first** she was a poor dancer. **Soon** she improved significantly, **however**.”「最初は、彼女はダンスが下手だったが、しかしながらすぐにもものすごく上達した」例“**However** boring his lecture is, you should listen carefully.”「彼の講義がどんなに退屈であっても、しっかり聞くべきだ」(=No matter how boring his lecture is, you should listen carefully.)接続詞の場合の“however 形容詞/副詞”は“no matter how 形容詞/副詞”で書き換え可能である。

(10) [接続副詞の位置]

接続副詞は、一般的文頭に置く場合が多いが、元来副詞なので、文中や、文末も置く場合がある。なお、日本語に訳す場合は、一旦文頭に移してから訳すことが原則である。例“I’ve never read the book. **Therefore** I don’t know how interesting it is.” [文頭]「私はその本を読んだことがない。従って、それがどれくらい面白いのかわからない」例“I’ve never read the book. I don’t know, **therefore**, how interesting it is.” [文中] 例“I’ve never read the book. I don’t know how interesting it is, **therefore**.” [文尾]

(11) [接続詞と前置詞の区別①]

before,after のように接続詞と前置詞両方の働きを持つものがある(なお、before,after には副詞の働きもある)。区別が必要である。例“You should wash your hands **before** having a meal.” [接続詞] “You should wash your hands **before** having a meal.” [前置詞]

(12) [接続詞と前置詞の区別②]

接続詞として”理由”を表す because が、前置詞句として働く場合は、“because of A”とする。例“I couldn’t play outside **because** it rained heavily.” [接続詞] 例“I couldn’t play outside **because of** the heavy rain.” [前置詞句]「雨が激しく降っていたので外で遊べなかった」。同じタイプのものに、「A までに」の意味を表す場合には、A に名詞が続く場合は、前置詞 by を用いて”by A”とし、A に SV...が続く場合には、“by the time SV...”を用いる。例“I had to come home **by** the sunset.” [前置詞] “I had to come home **by the time** the sun set.” [接続詞]「私は日が沈むまでに帰宅しなければならなかった」

(13) [名詞節を導く接続詞]

名詞節を導く接続詞は、大きく分けて 6 種類ある。①that SV... 「～ということ」 ②if/whether SV... [～かどうか] ③疑問詞 SV... ④関係詞 what (S)V... ⑤複合関係詞 whatever/ whoever/ whomever/ whichever SV ... 「～すること・ものはなんでも、～する人は誰でも、～するものはどれでも」 ⑥同格名詞節 that[whether]がある。

(14) [that SV...]

接続詞 that が導く節“that SV...”は、文中の働きによって、名詞節(S,O,C,同格名詞節)、形容詞節(=関係詞)、副詞節のいずれにもなる。判別には、文法的知識が必須である。

(15) [疑問詞 SV...:間接疑問文]

疑問詞に導かれる節が、文全体の一部になるものを間接疑問文と呼ぶ(疑問詞で始まり、“?”で終わるものが直接疑問文)。間接疑問文は、文中で S,O,C のいずれかとして機能する。例“Let me know when he will come here.”「彼がいつここに来るか教えてください」。“when he will come here.”は know の目的語になっている。なお、間接疑問文の内部では、“SV の語順となる”ことと動詞の時制(形)を文の動詞の時制を基準に変える(時制の一致)ことに注意が必要である。例“I didn't know if it would rain the next day.”「私は翌日は雨かどうか知らなかった」。“I didn't know”と“Will it rain tomorrow”を合わせたために、[will it⇒it would] [tomorrow⇒the next day] となっている。

(16) [the way SV...]

“the way SV...”は、文中の働きによって、副詞節「～ように」(=as)または名詞節「～方法」(=how)となる。“I like the way he talks.”「私は彼の話し方が好きだ」[名詞節:like の目的語](=how he talks)。名詞節の場合は、その部分を省略すると文が成立しないのが原則。ここでは、“I like”だけでは文は成立しない「私は好き(?)」。例“My mother prepared the fish the way my father liked it.”「母は、父の好みに合うように魚を調理した」[副詞節](=as my father liked it)。副詞節の場合は、その部分が無くても文が成立する。“My mother prepared the fish”だけでも意味は通じる。

(17) [whether SV...]

“whether SV...”は、文中の働きによって、副詞節「～であってもなくても」または名詞節「～かどうか」となる。例“I don't know whether he will succeed (or not).”「彼が成功するかどうか分からない」[名詞節: know の目的語]。例“Whether he will succeed (or not), I continue to support him.”「彼が成功しようが姉妹と、私は彼を支援し続ける」[副詞節]

(18) [if SV...]

“if SV...”は、文中の働きによって、副詞節「～あれば」「～であったとして」または名詞節「～かどうか」となる。例“He asked me if I was a good pianist.”「彼は、私にピアノが得意かどうか尋ねた」[名詞節: ask の目的語]。例“If you are good pianist, please play a tune on my next birthday.”「ピアノが上手であれば、次の私の誕生日に 1 曲演奏してください」[副詞節]

[発展] 例“I'll tell you later if I can find the time.”「時間が取れるかどうかのちほどお知らせします」[名詞節] 例“I'll tell you later, if I can find the time.”「もし時間が取れたら、のちほどお知らせします」[副詞節] コンマをつけるつけないで意味が変わることに注意。誤解を避けたいのであれば、名詞節の場合は、if を whether に変える。

(19) 発展 [whether SV...と if SV...]

whether と if は書き換えできる場合は多いが、以下の場合、whether の代わりに if を用いることはできない。

①不定詞が続く場合：“She didn’t know whether to accept or refuse his offer.” 「彼の申し出を受け入れるべきか断るべきか彼女はわからなかった」

②or not が直後に続く場合：“We don’t care whether or not you agree to the project.” 「私たちは君がその計画に同意しようがしまいが関係ない」

③主節として用いられる場合：“Whether it snows or not doesn’t make any sense.” 「雪が降る降らないは問題でない」

④あいまいさが生じる場合：Let me know whether they are coming late. 「彼らが遅れてくるかどうか知らせてください(※if の場合は、「彼らが遅れてくるならば」の意にも取れる)

⑤前置詞に続く場合：“She is very worried about whether her son is in good health.” 「彼女は息子が健康かどうかとても心配している」

⑥二者択一を聞く場合：“He asked whether I preferred movies or music.” 「私が映画と音楽とどちらが好きか彼は聞いてきた」

NO 6



【1】〔基本構文〕

(1) [接続詞 while]

1. I was injured **while** I was skiing.
2. While I admit that the task is difficult, I don't think that it's impossible.
3. He is interested in literature, **while** I prefer to major in natural science.
4. Let's take a rest for a **while**.
5. It is worth **while** to read this book.

1. 〈接続詞：時「～している間」〉
私はスキーでけがをした。
2. 〈接続詞：譲歩「～だけれども」〉※文頭で用いる
その仕事の困難なのは認めるが不可能とは思わない。
3. 〈接続詞：対比・対照「...、かたや～だ」〉※訳し下げるのが普通
彼は文学に興味があるが、私は自然科学を専攻したい。
4. 〈名詞：「間」〉※for a while「少しの間」
ちょっと休みましょう。
5. 〈名詞：「間」〉※It is worth while to V...「Vする価値がある」
この本は読むだけの価値がある。

(2) [接続詞 though]

1. **Though** it was cold, he didn't light the fire.
2. **Even though** it was raining, she went out.
3. **Although** he may be clever, he is not wise.
4. He pretends **as though** he had nothing to do with the case.
5. We may draw a prize, though I think not.
6. This was an exciting, **though not popular**, movie.

1. 〈副詞節：Though SV...「SV...だけれども」〉
寒かったが、彼は火をつけなかった。

2. 〈副詞節：Even though SV... 「SV...だけれども」〉
雨が降っていたけれども彼女は外出した。
3. 〈副詞節：Although SV... 「SV...だけれども」〉
彼は賢いかもしれないが、彼は知恵はない。
4. 〈副詞節：as though SV... 「SV...であるかのように」 =as if SV...〉
彼はその事件に関係がなかったようなふりをしている。
5. 〈SV..., though S'V'～ 「もともと S'V'～だが」〉譲歩の付け足し
★SV..., but S'V'～ 「SV...だが、SV～」との違いに注意
くじが当たるかもしれない、だめだとは思うが。
6. 〈形容詞₁, though 形容詞₂, 名詞 「形容詞₂だけれども though 形容詞₁ 名詞」〉
これは、人気はないけれども面白い映画だ。★though が等位接続詞扱い。

【2】 [標準 英文解釈]

解答時間各 10 分

次の各英文(1)～(5)の下線部を和訳しなさい。

(1) [while SV...] 《北海道大》

Noise pollution is an unfortunate byproduct* of civilization. While people may become accustomed to the troublesome sounds of modern life, they should not ignore their harmful effects. Noise pollution is hazardous* to health in general. Loud noise can disrupt* sleep, increase stress, and raise blood pressure. Noise pollution can also inflict* psychological damage: people exposed to loud sounds can become irritable and aggressive.

- (注) byproduct[báɪprədəkt] 「副産物」 hazardous [hæzərdəs] 「危険な」 disrupt A [disrʌpt] 「A を妨げる」 inflict A [ɪnflɪkt] 「A を与える」

(2) [SV...while SV...] 《一橋大》

In fact, recent research has revealed only one significant difference, in terms of content, between male and female gossip: men spend much more time talking about themselves. Of the total time devoted to conversation about social relationships, men spend two thirds talking about their own relationships, while women only talk about themselves one third of the time.

(3) [although SV...] 《北海道大》

Contemporary science has its roots in the achievements of amateur scientists of centuries past. Although they lacked what we would define as formal scientific training, they worked out the basic laws of physics and principles of chemistry. They invented instruments. And they discovered, documented, sketched, and painted planets, comets, fossils, and species.

【2】(1)troublesome[trʌblsəm]「迷惑な」 psychological [saikələdʒikəl]「精神的」 be exposed to A[ekspəuzd] Aにさらされる」 irritable [ɪrɪtəbl]「怒りやすい」 aggressive [əgrɛsɪv]「攻撃的な」

(2)content [kántent]「内容」 devote A to B [dɪvəʊt]「AをBに捧げる」

(3)contemporary [kəntəmperəri]「現代の」 have one's roots in A「Aに起源がある」 an achievement [ətʃiːvmənt]「業績」 lack A「Aを欠いている」 define A as B「AをBとして定義する」 formal「正式な」 physics [fɪzɪks]「物理学」 a principle [prɪnsəpl]「原理」 invent A [ɪnvént]「Aを発明する」 sketch A「Aをスケッチする」 a comet [kəmit]「彗星」 a fossil [fáseɪl]「化石」

発展問題

解答時間各 20 分

次の各英文(1)(2)(3)の下線部を和訳しなさい。

(1) [while Ving] 《名古屋大》

A recent series of studies has shown that children can solve math problems better if they are told to use their hands while thinking. Another recent study suggested that stage actors remember their lines better when they are moving. And in one study published last year, a group of people asked to move their eyes in a specific pattern while puzzling through a logical problem were twice as likely to solve it.

(2) [, though SV...] 《北海道大》

Sachiko has been living in the UK for 25 years and is married to a British man. She has a few Japanese friends, but most of her professional and personal life is conducted in English. In most situations she is happy to use English, though she has never lost her Japanese accent and still cannot understand some of the subtleties of English grammar, such as when to use “the” instead of “a”, or the present perfect*.

(注) the present perfect 「現在完了形」(文法用語)

(3) [It seems as though SV~] 《島根大》

次の英文は、夏のひどい熱波のときに母のエアコンが故障した場面である。

For the preceding few months, she had been particularly needy. There had been unusual expenses to pay, in addition to the regular ones. Doctors' bills, summer clothes, a brief trip to the seashore.... It seemed as though no day had passed that she hadn't called me about a new bill she wanted me to pay. So when she called and told me she needed a new air conditioner, I lost my temper. "Not now!" I screamed, hanging up on* her.

(4) [whereas SV...] 《東京大》

Chess masters can exhibit remarkable memory for the location of chess pieces on a board. After just a single five-second exposure to a board from an actual game, international masters in one study remembered the locations of nearly all twenty-five pieces, whereas beginners could remember the locations of only about four pieces.

発展問題(1)envision A as B [enviʒən] 「A を B と見なす」 all-purpose 「万能の」 collaborative [kələ'bɔ:rətɪv] 「共同的な」 go on 「生じる」 (what 節内いで用いられる場合) specific [spə'sɪfɪk] 「特定の」 puzzle through A 「A を解く」
(2) conduct A[kəndʌkt] 「A を行なう」 a subtlety[sə'tlɪti] 「微妙さ」 (subtle 「微妙な」)
(3) preceding[prɪ'sɪ:dɪŋ] 「先立つ、前の」 needy [ni:'di] 「非常に食欲な」 (=greedy)a bill 「請求書、法案、紙幣」
lose one's temper 「癩癩を起す」 scream [skri:m] 「金切声をあげる」 hang up on A 「A の電話を切る」
(4)exhibit A [egzɪbɪt] 「A を示す」 remarkable [rɪ'mɑ:kəbl] 「驚くほどの、著しい」 exposure [ekspəʊʒər] 「晒す」 (expose の名詞形)nearly 「ほとんど」

構文解説

(1) [while SV]

while は、接続詞または名詞として機能する(名詞としての while は(2) [名詞 while] を参照)。接続詞として機能する while に「時」「譲歩」「対比」の意味があるが、その意味は主に文中での位置によって決まることが多い。主節に先行する場合は「時」または「譲歩」を表し、主節に後続する場合は「対比」を表すことが一般的である。また、「時」を表す while の中で進行形が用いられる場合は、「S be」が省略され”while Ving...”の形になることが多い。

(2) [時を表す while SV]

接続詞 while は「動作」や「状態の継続している時間[期間]」を表わす副詞節をつくる。while の節中に進行形が多く用いられる。例”While walking around the park, I came across the former president in our company.”「公園を散歩している時に、私たちの会社の前社長に偶然出会った」。また、「時」を表す”while SV...”は前置詞”during”を用いて言い換えることができる場合が多い。例”He came to see my sister while I was away.”「私が留守中に彼が私の妹に会いに来た」(= He came to my sister you during your absence.)

(3) [譲歩を表す while SV...]

接続詞 while が「譲歩」(=though SV...)を表す場合がある。「譲歩」を表す while は、主に”主節に先行する”ことが多い。“While S’V’..., SV~”「S’V’...だが、SV~」例”While the project seems difficult, I don’t doubt that it is very interesting.”「その企画は実行がむづかしいようだが、間違いなくとても面白い」(=Though the project seems difficult, I don’t doubt that it is very interesting.)また、譲歩を表す while は、接続詞”though”や前置詞句”in spite of Ving”に書き換えられる場合が多い。

(4) [対比を表す while SV...]

接続詞 while が「対比・対照」を表す場合がある。「対比・対照」を表す while は、“主節に後続する”ことが多い。“SV..., while S’V’~”「SV...である一方、S’V’~」(訳し下すことに注意)。“My mother is for this plan, while my mother (is) against it.”「私の母この計画に賛成である一方、父はそれに反対である」なお、この場合の while は、訳し下すことから等位接続詞的に働いていると考えられる。

(5) [対比を表す while SV...]

接続詞 whereas は while と同じく「対比・対照」を表す。while よりも文語体である。例”Some students are clumsy with their hands, whereas others are skillful with their hands.”「手先が不器用な生徒もいる一方で手先が器用な生徒もいる」この場合の whereas も等位接続詞的に働いていると考えられる。

(6) [接続詞 though SV...]

接続詞 though は、文頭、文中では、主に「逆接」を表す。“Though S’V’..., SV~”「S’V’...であるけれども、SV~」例”Though it is a good quality, this pen is a little expensive.”「このペンは良い品質だが、少し高い」。この場合の”though”は”although”と書き換えることができる。“though”を強調したい時は、“even though SV...”の形にする。

(7) [接続詞 SV..., though S'V'...]

接続詞 **though** は、主節の後続する場合は、追加、補足的に用いられて「もっとも～だけれども」を表す。“SV..., though S'V'~” 「SV...である。もっとも S'V'~だが」**例**“He may win the game, though he must practice much harder.” 「彼はその試合に勝つかもしれない。もっとも、もっと一生懸命練習しなければならないが」。この場合の“**though**”は“**although**”と書き換えることができない。

(8) [as though]

“as though SV...”(=as if SV...)で「まるで～のように」という意味を表す。as though, as if に続く節内は仮定法過去や仮定法過去完了が用いられるが、口語では直説法を用いることも多い。**例**“He talked as though he knew everything about her.” 「彼は彼女についてなんでも知っているかのような口ぶりだった」[仮定法過去] **例**“You look as if you are sick.” 「あなたはまるで気分が悪いように見える」

(9) [接続副詞 though]

though には接続副詞「もっとも～だが」(文中、文尾で用いられる)を表す用法がある。**例**“His request was demanding. I enjoyed it very much, though.” 「彼の要求はきつかった。もっとも私たちはそれを大いに楽しんだのだが」この場合の“**though**”は“**although**”と書き換えることができない。

(10) [though と although の違い]

though と **although** は、接続詞としては、互換性がある(“**although**”のほうが形式ばった語)。“**although**”は「主節に先行する(文頭)」場合に用いられ、“**though**”は文頭、文中、文尾のいずれでも用いることができる。なお、**though** には接続副詞としての用法があるが、“**although**”にはない。また、as though, even though などでは、“**though**” の代わりに“**although**”を用いることはできない。

NO 7



【1】 [基本構文] 《時を表す副詞節①》

(1) [「～するとすぐに」を表す構文]

1. I went to sleep **as soon as** I got home.
2. He phoned me **directly** he arrived in town.
3. The color left his face **the instant** he saw it.
4. **The minute** he entered the room, she began to play the piano.
5. The game had **hardly** started **when** they scored the first point.
6. He had scarcely begun his work when he heard his wife scream in the kitchen.

1. 〈as soon as SV... 「SV...するとすぐに」〉
私は家に帰ってすぐ寝ました。
2. 〈directly SV... 「SV...するとすぐに」〉
町に着くとすぐ彼は電話してきた。
3. 〈the instant SV... 「SV...するとすぐに」〉 ★=the second SV... / the moment SV...
それを見た瞬間彼の顔色が変わった。
4. 〈the minute SV... 「SV...するとすぐに」〉 ★=the second SV... / the moment SV...
彼が部屋に入った途端、彼女はピアノを弾き始めた。
5. 〈hardly ~when... 「～するとすぐに...」〉
試合が始まるとすぐに、彼らは先制点をあげた。
★=Hardly had the game started when they scored the first point.
6. 〈hardly ~when... 「～するとすぐに...」〉
彼が仕事を始めた途端、彼の妻が台所で金切り声を上げるのを聞いた。
★=Scarcely had he begun his work when he heard his wife scream in the kitchen.

(2) [”time”を用いた接続詞]

1. They talk about football **every time** they meet.
2. **Each time** I see you, I am reminded of your late son.
3. **The first time** he went fishing, he caught a big fish.
4. **The last time** he met Takako, she was too tired to talk a bit.
5. **The next time** I see you, I will treat you to lunch.
6. **By the time** you finish your homework, we will come home.

1. 〈every time SV... 「SVするたびに」〉★=whenever SV... / =each time SV...
彼らは顔を合わせるたびにサッカーの話をする。
2. 〈each time SV... 「SVするたびに」〉
「あなたに会うといつでもあなたの亡くなった息子さんを自然と思い出します」
3. 〈the first time SV... 「はじめてSVするときに」〉
彼が初めて釣りに行った時に、大きな魚を釣った。
4. 〈the last time SV... 「最後にSVするときに」〉
彼がタカコに最後に会った時に、彼女は疲れていて一言も喋れなかった。
5. 〈the next time SV... 「次にSVするときに」〉
次に会うときは、昼食をご馳走するよ。
6. 〈by the time SV... 「SV...までには」[完了]〉★until SV... 「SVまで(ずっと)」[継続]
あなたが宿題を終える頃までには、私たちは家に戻ってくる。

【2】 〔標準問題〕《時を表す副詞節》

解答時間各 10 分

次の各英文(1)～(2)の下線部を和訳しなさい。

(1) [as soon as SV...] 《慶応義塾大》

I'm sitting in Small World Coffee, a coffee shop near Princeton University. I'm here because my editor has ordered up a story on the question of whether caffeine makes you smarter. And without three espressos today instead of the regular two, I wouldn't feel equal to the task. But experience tells me that as soon as the strong dose of caffeine takes effect, I immediately become more alert, focused, quick-witted, clever. As far as I'm concerned, the case is already closed.

(注) caffeine[kæfi:n] 「カフェイン」 espresso[esprésoʊ] 「エスプレッソコーヒー」

(2) [the moment SV...] 《岡山大》

The central brain in the octopus is very developed. It deals with visual information, memory and such. The moment the brain wants to make the arm do a certain task like sending the arm to a specific target, it sends a command to the nervous system of the arm, which then orders the movement.

【2】 (1) equal to A [i:kwəl] 「～するだけの能力がある、～ がやりこなせる」 dose [dous] 「(薬の)一服」 takes effect 「効き目がある」 immediately 「即座に」 alert [ələ:rt] 「油断のない、用心深い、頭が冴える、」 focused 「集中して」 quick-witted 「頭の回転が早い」 as far as S be concerned 「Sに関する限り」 S is already closed. 「Sは既に決着している」
(2) develop [divéləp] 「発達する(させる)」 deal with A 「Aを扱う」 visual information 「視覚情報」 specific [spəsífik] 「特定の」 target [tá:rgit] 「目標、ターゲット」 a command [kəmənd] 「命令」 nervous system 「神経システム」
order A 「Aを命じる」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

Our knowledge and our power have been enriched and increased to an extent that no one would have thought possible. We have thereby been enabled to make the conditions of human existence incomparably more favourable in numerous respects, but in our enthusiasm over our progress in knowledge and power we have arrived at a defective conception of civilization itself. We value too highly its material achievements, and no longer keep in mind as vividly as is necessary the importance of the spiritual element in life.

【3】 enrich A [enrítʃ] 「A を豊かにする」 thereby [ðeərbái] 「それによって」 a condition [kəndíʃən] 「条件」 incomparably [ɪnkámperəbli] 「比較できないほど」 favourable [fəvɪərəbl] 「好都合な」 numerous [nju:merəs] 「極めて数多くの」 enthusiasm [enθjú:zɪæzəm] 「熱狂」 defective [díféktɪv] 「欠陥のある」 material (ad) [mətíəriəl] 「物質的な」 an achievement [ætʃí:vmənt] 「業績」「功績」 vividly [vívɪdli] 「はっきりと」「鮮やかに」 an element [éləmənt] 「要素」

発展問題

〔英作文〕 《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本文の下線部の意味を英語で表しなさい。

わたしたちはふつう、成長するということはさまざまな属性を身につけていくことと考えているが、ほんとうは逆で、年とともにわたしたちはいろいろな可能性を失っていくのではないだろうか。

私たちは知らないあいだにいろんなものを失っている。失いながら生きていく。いまじぶんにできることのうちからどれかを選ぶことが生きることなら、生きるということはそれ以外のいくつかのなしえたかもしれないことを棄てていくということだ。

NO 8



【1】 [英作文]

解答時間 20分

次の日本語を英訳しなさい。

詩というものは、直接には何の役にも立たないように思える。しかし、人間の精神の歴史を考えると、いちばん役に立たないものが、実はたいへん役に立っている。

【2】 [英語構文] 《動詞の語法①》

解答時間各 10分

次の各英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

(1) [SVOO:deny O O] 《福井県立大》

“Women tend to have a stronger desire to write about and reveal their feelings, and they are also better at talking about their experiences,” she says. Furthermore, Karlin feels “Japan has seen a rising wave of female bloggers because it is the only advanced industrial country where large numbers of highly educated women are unemployed after they get married. Through blogging, these women are expressing the desire to participate in a society that tends to deny them a position outside the home.”

【2】 (1)reveal A [riːvɪ:l] 「A を表現する」 furthermore=moreover 「さらに」 a rising wave 「高波」 unemployed 「仕事についていない」 express A [eksprɛs] 「A を表す」 participate in A [pɑːrtɪsəˈpiːt] 「A に参加する」

(2) [SVOO:ask O 疑問詞SV...] 《北海道大》

When I ask people worldwide what are the three most important things in their lives, 95 percent put “family” or “family relationships” on the top-three list. Fully 75 percent put family first.

Our greatest joys and our deepest heartaches surround what’s happening in our family life. We want things to be right. When we sense a gap between our vision of the rich, beautiful family life we want to have and the reality of every day, we begin to feel “off track.”

(2)a heartache 「悲しみ」 surround A [səraʊnd] 「A を取り囲む」 off track 「何かがおかしい」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

Four and a half billion years ago, the earth was formed. Perhaps a half billion years after that, life arose on the planet. For the next four billion years, life became steadily more complex, more varied, and more *ingenious, until, around a million years ago, it produced mankind — the most complex and ingenious species of them all. Only six or seven thousand years ago — a period that is to the history of the earth as less than a minute is to a year — civilization emerged, enabling us to build up a human world, and to add to the marvels of evolution marvels of our own : marvels of art, of science, of social organization, of spiritual attainment.

(注) ingenious 「利口な」

【3】 emerge [imə:rdʒ] 「現れる」 a marvel [má:rvel] 「驚異」 evolution [èvolú:jən] 「進化」 social organization [sɔ:rgənizéjən] 「社会組織」 spiritual attainment [stéinmənt] 「精神的達成」

NO 9 〈ENGLISH COMPOSITION〉



【1】 [英作文] 《大阪大》

解答時間各 20 分

次の各日本文の下線部の意味を英語で表しなさい。

(1)

最近、若い人たちとのつきあいの中で、「なぜ生きなければならないのか、その理由がわからない」という言葉を耳にすることがしばしばあります。そんなとき、私は「生きることの意味などという命題は、生きて生きて生き抜いてみなければ誰にもわからないでしょう」と答えることにしています。

私たちの人生とは、日々の暮らしの中で、まったく予想もしていなかったこととの遭遇もふくめたいろいろの体験をとおして、 生きていることの意味を問いつづけていくことだと思います。

(2)

人生にさまざまな困難が起こってくると、どうしても人は安易なものに逃避したくなる。無意識のうちに、夢の中に逃げこんで、きびしい現実を忘れたくなる。だが、現実のほうは一向に変わらないのだから、本当は、勇気を出して、それと真正面から取り組むべきだろう。 苦しみもあるが、希望はそこからしか生まれない。

(3)

私は大学時代、優れた先生の授業は、自分ひとりに向かって語りかけてくれているのだと思いながら聴いていた。もちろん話を聴きながら、学生たちみんな
で笑ったりするのは楽しい。そうした連帯感も当然ある。しかし、言葉が深く入る瞬間には、一対一の勝負としてイメージしている。勝ち負けということではなく、真剣勝負で向き合うときの緊張感をもって話を聴くということだ。

発展問題

(4)

一流の職人は、一流の仕事をします。細かいところまで目が行き届き、ていねいな仕事です。最後まで手を抜かずに一所懸命してくれたことがわかります。どんな分野であれ職人として一流になるには、長い修業の期間が必要です。腕の良い一流の職人と言われる人は、何年も何年も誠実に地道に、そのような仕事を積み上げてきたのです。

NO 10



【1】 [英作文]

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

論文を書く際には、「いつも」と「みんな」という言葉をなるべく使わないようにしている。使う時には慎重に考えて、絶対に間違っていないかどうかを、よく検討する。

【2】 [英語構文] 《動詞の語法②》

解答時間各 10 分

次の各英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

(1) [get O C] 《立教大》

Cat rescue volunteer Eddy Sheffield, of Gadsden, Alabama, said she's seen all kinds of cat owners, but can't pin down personality traits that apply to all cat people. Outsiders might label Sheffield herself a "crazy cat lady" because she has 11 cats, she said, but she doesn't view herself that way. "All of them are rescued cats and they need a place to go, and I had room, that's how I ended up with that many," she said. Owning that many has also got her more involved in rescue efforts, which has put her into more contact with other people, not less.

(注) cat rescue volunteer 「猫救援ボランティア」 all cat people 「猫人間:自分を猫タイプの気質と思っている人(犬人間:自分自身を犬タイプと思っている人)」

(2) [have O Ving] 《岐阜大》

There have been times in my life when I have felt truly lost, not just unhappy, but truly out of step with the world. You know those periods when you seem to **have** a dark cloud **following** you around, a cloud so heavy it doesn't even allow you to **perform the simplest of tasks**. You can't find any joy in anything. In fact, just being human is a struggle.

【2】(1) pin down A 「A を突き止める」 a trait 「特性、特徴」 label OC [léibel] 「OC とレッテルを張る、OC と呼ぶ」
end up with A 「結局 A に終わる」 be involved in A 「A に没頭する」 put A into contact with B 「A を B と触れさせる」
(2) out of step with A 「A と調和していない」 perform A 「A を実行する」 struggle [strʌgl] 「戦い」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

If, as I intend, I go on living in New Mexico, I suppose I shall know it far better than I do now, but I suppose I shall never again see it as clearly as during my first year. And what is there about this land which sets travelers to altering their schedules and overstaying? What is there, more forcefully still, that has seized upon astonishing numbers of people who came to look, and then put down their luggage and remained? As it has upon me. I had no intention of living here. When in late August we drove through — a hurricane out of our Connecticut village — my wife, three of my children, with eleven pieces of lightweight baggage, and trustful that though New London* was flooded we might get a train in Hartford* — we were leaving for a year. I had lived all my more than forty years in New England, I wanted a change, and I wanted to see the Southwest.

(注) *New London と Harfold とは、アメリカ合衆国の Connecticut 州の町の名前である。

【3】 alter A [ɔːltər] 「A を変更する」 forcefully 「強く」 seize upon A [siːz] 「A をつかまえる」 astonishing 「驚くべき」 luggage [əstəniʃɪŋ] 「荷物」 have no intention of A 「A するつもりはない」

NO 11 <L & C>



- 【1】 [リスニング選択]
- 【2】 [英作文選択] 《大阪大》

解答時間各 20 分

次の各日本文の全文または下線部を英語に訳せ。

(1)

英語が意思疎通の手段として重要であるのは言うまでもない。しかし、英語を学ぶだけでは国際化時代への対応は不十分だ。国際化とは、英語を話せるかどうかという単純な尺度ではなく、人間としてどれだけ多様な人を受け入れられるかという物差しで測るべきではないか。

(2)

ウィンドウズ 95 の登場から 15 年、情報通信のネットワークは私たちの生活スタイルをも変化させ、なおも止まるところを知らない。そう、人間がより便利な生活のために機器を進化させるのではなく、機器の進化がさらなる進化を生み、それが人間の生活感覚のほうを変えてゆく時代になって久しいのである。

NO 12 《VOCABULARY CHECK》



【1】〔語彙検定〕

第1回 語彙検定

【2】〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

One might say that after billions of years nature, by creating a species equipped with reason and will, turned its fate, which had previously been decided by the slow, unconscious movements of natural evolution, over to the conscious decisions of just one of its species. When this occurred, human activity, which until then had been confined to the historical realm — which, in turn, had been supported by the broader biological current — spilled out of its old boundaries and came to menace both history and biology. Thought and will became mightier than the earth that had given birth to them.

【2】 billions of A 「数十億の」 be equipped with A 「A を生まれながらに持つ」 (equip A with B [ikwíp] 「A に B を備え付ける」) fate 「運命」 unconscious [ʌnkənʃəs] 「無意識の」 natural evolution 「自然の進化」 occur 「生じる」 be confined to A [kənfaɪnd] 「A に制約される」 a realm [reɪlm] 「領域」 in turn 「さらに」 biological [baɪələdʒɪkəl] 「生物学的な」 current [kəːrənt] 「流れ」 spill A [spɪl] 「A をこぼす」 a boundary [baʊndəri] 「限界」 menace A [mɛnəs] 「A を脅かす」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

John was torn between relief and anger. It lightened his spirits to realize that Christmas was the only thing that was the matter with Martha. At the same time, ^(a)he could have screamed at how typical this was of her. She had always made a fuss over Christmas. In her little apartment in New York, they had always had a Scandinavian-style Christmas tree, with round Swedish cookies and coloured candies. There were always heaps of presents, expensive ones, from the very best shops. She rejoiced in having things specially made for him. But he did not care at all about getting presents. This year, her play would be present enough, if she gave it to him in manuscript covers, with a dedication. He had told her this months ago, and she had agreed, but ^(b)now she had gone back on her word, obviously, and was borrowing money they could not afford to give him something he did not want.

【3】 tear A 「A を引き裂く」(tear-tore-torn) lighten A [láitn] 「A を軽くする」 scream [skri:m] 「絶叫する」 Scandinavian [sk`ændənéivjən] 「スカンジナビア風の」 Swedish [swí:diʃ] 「スウェーデンの」 heaps of A 「山のような A」(heap 「積み重ね」) rejoice in A [ridʒɔis] 「A を喜ぶ」 a manuscript [mænʃuskript] 「原稿」

NO 13



【1】 [英作文]

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

人間は今まで森林と調和を保って暮らしてきたが、いまや状況は急速に変わりつつある。事実、地球上から森林が姿を消すにつれて、気候は深刻な影響を受け、飢餓人口が増えている。

【2】 [英語構文] 《動詞の語法③》

解答時間各 10 分

次の各英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

(1) [SVOC:consider O to be C] 《愛媛大》

Generally in the American educational system the emphasis is not on memorizing facts, but rather on learning how to think and to do research. Facts can be looked up in a book anytime and American teachers generally consider rote memorization to be an inferior method of education. Instead of simply memorizing facts, students are expected to learn how to interpret, evaluate, and use facts. Since it is generally felt that an education should prepare a person for life, it is not only important to know what the facts are; it is also important to know how to use those facts and apply them to real-life situations.

【2】(1)emphasis [émfəsis]「強調」 memorize A [méməraiz]「Aを暗記する」 look up A「Aを調べる」 inferior [infieriə]「劣った」 instead of Ving「Vingする代わりに」 interpret A [intə:rprət]「Aを解釈する」 evaluate A [ivéljuèit]「Aを評価する」 prepare A for B「AにBを準備させる」 apply A to B「AをBに応用する」

(2) [SVOC:S enable O to V] 《名古屋大》

Intense focus on our problems may not always lead to immediate solutions. Instead allowing the mind to float freely can enable us to access unconscious ideas hovering beneath the surface — a process that can lead to creative insight, according to psychologist Jonathan Schooler of the University of California, Santa Barbara.

【3】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の意味を日本語で表せ。

Reading is not a passive act. Good writing of any kind will invite you to participate, engaging your senses, emotions, imagination, and intellect. It will trigger your own memories and associations, and it will stimulate your thinking. When you read, you absorb, evaluate, and extend what the writer has articulated, interpreting it in light of who you are and what you know. In this sense, when you read a work of literature, you recreate it.

(2)intense [inténs] 「激しい、熱烈な」 lead to A 「A に至る」 immediate [imí:diit] 「早い、直接的な」 access A 「A に到達できる」 hover [hʌvər] 「漂う」 beneath A [biní:θ] 「A の下で/に」 surface [sə:rfis] 「表面」 insight [ínsàit] 「洞察」

【3】 passive [pæsi:v] 「受動的な」 invite A to V 「A が V するよう誘いかける」 participate (in A) [pɑ:rtisəpèit] 「(A に) 参加する」 engage A 「A に積極的にかかわる」 intellect [intələkt] 「知性」 trigger A [trigər] 「A を刺激する、A の引き金を引く」 an association 「連想」 stimulate A [stímjuleit] 「A を刺激する」 absorb A [əbsɔ:rb] 「A を吸収する」 evaluate A [ivæljuèit] 「A を評価する」 extend A [eksténd] 「A を広げる」 articulate A [ɑ:rtíkjuilit] 「A を説明する」 interpret A [intə:rprət] 「A を解釈する」 in light of A 「A の観点で」 literature [litérətʃər] 「文学」 recreate A 「A を再度創造する」

NO 14



【1】 [英作文]

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

日本語を上手にしゃべる外国人がずいぶん増えてきた。外国語を話すのが苦手な日本人としてはありがたいことだ。しかし同時に、こちらの外国語教授法が間違っているのではないかという疑問もわいてくる。

【2】 [英語構文] 《動詞の語法⑤》

解答時間 10 分

[SV O as C:regard A as B]

Once confidence has been destroyed between children and their parents, it is difficult to recover it. The child will keep even his most ordinary thoughts and feelings to himself, and will turn to other people – not necessarily the best ones – to whom to give his confidence.

If the parents are always applying old ways of thinking to modern conditions, the child will tend to regard mother and father as out of touch with the problems of his own life. This will add to a certain gulf which always seems to exist between parents and children.

【2】once SV...「一度SV...すれば」confidence [kánfədens]「自信」destroy A destroy「Aを破壊する」recover A [rikavər]「Aを回復する」keep A to oneself「Aを秘密にする」turn to A (for B)「Aに(Bを)頼る」not necessarily「必ずしも〜でない」be always Ving「Vingばかりしている」a condition「現状、条件」regard A as B「AをBと見なす」out of touch with A「Aと無縁な」add to A「Aを増す」gulf「溝」[gʌlf] (=gap)exist「存在する」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

A prudent employer would take the time to analyze the incentives workers might list as their reasons for working — and most importantly, the order in which they list them. A recent study disclosed that money was number seven on such a list. Topping it was satisfaction in performing the job. Obviously, that good feeling one gets from having accomplished something is still the best reward for hard labor. But workers also need to know they are doing their job well, and the major deficiency within management today is the failure of telling them so.

【3】 prudent [prú:dent] 「分別のある」 analyze A [é:nəlàiz] 「A を分析する」 an incentive [inséntiv] 「動機」 most importantly 「もっとも重要なこととして」 disclose that SV... [disklóz] 「SV...を明らかにする」 satisfaction [s`ætisfækjən] 「満足」 accomplish A [əkámpliʃ] 「A を達成する」 reward [riwɔ:rd] 「報酬」 deficiency [difjensi] 「欠点、欠陥」 management [mænidʒmənt] 「管理」

【4】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

There can be no human society without conflict: such a society would be a society not of friends but of ants. Even if it were attainable, there are human values of the greatest importance which would be destroyed by its attainment, and which therefore should prevent us from attempting to bring it about. On the other hand, we certainly ought to bring about a reduction of conflict. So already we have here an example of a clash of values or principles. This example also shows that clashes of values and principles may be valuable, and indeed essential for an open society.

【4】 conflict[kə'nflikt] 「紛争」 attainable [ə'teɪnəbl] 「実現可能な」 S prevent O from Ving [pri (:) vént] 「SによってOはVingできない」(無生物主語構文) attempt to V [ətémp't] 「Vしようとする」 on the other hand 「かたや」 reduction [rɪdʌkʃən] 「減少」 a principle [prɪnsəpl] 「原理」

NO 15 〈ENGLISH COMPOSITION〉



【1】 [英作文] 《大阪大》

解答時間各 20 分

次の各日本文の下線部の意味を英語で表しなさい。下線部のないものはすべて英語で表しなさい。

(1)

知性とは、学習し、問題を解き、将来の計画を立て、内面世界と外界を区別する個人的能力を表現するのによく用いられる言葉である。私たち人間は、この知性、つまり他の種と私たちを隔てている能力に誇りを持っている。

(2)

私たちの人生は、ほかならぬその人生から発せられる問いに一つ一つ応答していくことであり、幸福というのは、それに答え終わったときの結果にすぎないので。ですから、幸福は人生の目的ではないし、目的として求めることもできないのです。

(3)

私は科学者のエピソードを読むのが好きである。それも科学史の教科書で語られる偉大な業績ではなく、思い込みや期待から犯してしまった間違いの数々を読むのが楽しい。間違いの中に次の発見へのヒントが隠されていたことがあったり、間違いを克服する努力が新しい分野を拓くきっかけになったこともあったからだ。

NO 16



【1】 [英作文]

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

訪れた外国の印象を語ろうとする時、私がまず思い浮かべるのは、食物でも建物でもなく、私と言葉を交わした人の顔であり、考え方である。出会った人間との付き合いが深いほど、その国に親しみを覚える。

【2】 [英語構文] 《動詞の語法⑥》

解答時間 10 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

[SV O of C:deprive A of B] 《下関市立大》

Experts recommend that women on maternity leave set limits on the work they do for their employers. “Allow yourself at least a few weeks where nobody is allowed to contact you at all, if possible,” Ms. Douglas, the author, said. “Nobody should deprive you of those first magical weeks with your baby.”

【2】 (1)recommend that SV...[rɛkəmənd] 「SV...を進める」 on maternity leave 「育児休暇中」 allow O₁O₂ 「O₁にO₂を与える」 if possible 「可能ならば」 magical 「魔法のような」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

The mass media, printed and broadcast, are probably the most pervasive influences on attitudes and opinions in the modern world. Access to mass media is, in fact, one of the defining characteristics of modernity. Other, more powerful forces may exist within a given region or culture. On a global basis, however, in terms of sheer numbers reached, other forms of communication cannot compete with the words and pictures carried in newspapers, broadcasts, magazines, and advertising. For example, the ways women are presented in the mass media strongly affect people's notions on woman's place, as it is and as it ought to be.

(注) modernity [mádərniti] 「現代性」

【3】 broadcast [brɔ:dk`æst] 「放送」 pervasive [pərvéisiv] 「広がる、普及している」 defining [difáiniŋ] 「明確な」 in terms of A 「A の観点で」 sheer [ʃiə] 「全くの」 compete with A [kəmpi:t] 「A と競い合う」 present A 「A を表す、A を取り上げる」 affect A [əfekt] 「A に影響を与える」 a notion [nóʊʃən] 「考え」

【4】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Any grouping of human beings has its own world: a certain range of knowledge and certain modes of evaluation. Such a worldview is subject to constant modification as time rolls on. Nor can its association with the particular grouping prevent it from being adopted, to a greater or a lesser extent, by members of some other grouping. On the contrary, information, tastes, habits, modes of feeling and judgement can be transmitted from one sociocultural grouping to another, and individuals can in any case have loyalties to more than one grouping, so that they themselves are mobile between different worldviews accordingly.

(注) sociocultural 「社会文化的」

【4】 range [reɪndʒ] 「範囲」 a mode [maʊd] 「方法」 is subject to A 「Aを受けやすい」 constant [kɒnstnt] 「絶え間ない」 modification [mɒdɪfɪkේjən] 「修正」 association [əsoʊsiේjən] 「結合、連想」 adopt A [ədɒpt] 「Aを採用する」 on the contrary 「それどころか」 transmit A from B to C [trænsmit] 「AをBからCへと伝達する」 a loyalty [lɔɪəlti] 「忠誠」 mobile 「移動可能な」 accordingly [əko:rdɪŋli] 「適宜に」

NO 17

【1】 [英作文]



解答時間 20分

次の日本語を英訳しなさい。

知識は必ずしも人間にとってプラスではないが、無知が時には罪を犯す原因にもなりうるということは、考えてみる必要がありそうだ。

【2】 [英語構文] 《動詞の語法⑦》

解答時間 10分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

[V A with B:supply A with B] 《新潟大》

Each of the communities you belong to provides you with certain things. For example, your family and school teach you values, traditions, behavior, and cooperation. The government of your town or city provides laws, police and fire protection, schools, garbage collection, and other services. These things are often called public services. Public means pertaining to the people in a community or for the use of all.

【2】 pertain to A[ɹətéin] 「Aに属する、関係する」

【3】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

The function of the nursery school is not to be a substitute for an absent mother, but to supplement and extend the role which in the child's earliest years the mother alone plays. The nursery school is probably most correctly considered as an extension 'upwards' of the family, rather than an extension 'downwards' of the primary school. It seems desirable, therefore, before discussing in any detail the role of the nursery school and of the teacher in particular, to set down a summary of what the infant needs from the mother, and the nature of the role that the mother plays in fostering healthy psychological development in the child's earliest years. It is only in the light of the mother's role and the child's needs that a real understanding can be gained of the way in which the nursery school can continue the mother's work.

(注) supplement A [sʌplə mɛnt] 「A を補完する」

【3】「延長」 in any detail 「詳しく」 a summary [sʌməri] 「要約」 an infant [ɪnfənt] 「幼児」 foster A [fɔːstər] 「A を育てる」 psychological [saɪkələdʒɪkəl] 「心理的な」 in the light of A 「A を考慮して」

【4】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

For only a tiny fragment of human history has man been aware even that he had a history. During nearly all the years since man first developed writing and civilization began, he thought of himself and of his community in ways quite different from those familiar to us today. He tended to see the passage of time, not as a series of unique, irreversible moments of change, but rather as a continuous repetition of familiar moments. The cycle of the seasons — spring, summer, fall, winter, spring — was for him the most vivid, most intimate sign of passing time.

【4】 tiny [táini] 「小さな」 passage [páesidʒ] 「経過」(pass の名詞形) irreversible [irivə:rsəbl] 「不可逆的な」 continuous [kəntínjuəs] 「絶え間無い」 repetition [rèpətiʃən] 「繰り返し」 intimate [intəmət] 「身近な」

NO 18



【1】 [英作文]

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

友人と同じ本を読むことはとても楽しい。読んだ後で、その本に書かれていることに対する自分の意見をお互いに話すことができるからである。

【2】 [英語構文] 《動詞の語法⑧》

解答時間 10 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

[V A for B:thank A for B] 《新潟大》

次の英文はレーガン元米大統領(Ronnie)の思い出をナンシー夫人が語ったものです。

Ronnie was a very private man but also gregarious*, and he loved seeing and meeting people. After being married to him for 52 years, I have so many memories. He was very sentimental and romantic and tender. On my birthday, he always sent my mother flowers to thank her for having me. And when we had to be apart, he wrote me beautiful, touching letters.

【2】 private 「私生活を大切にする」 gregarious [grə'ɡeəriəs] 「社交的な」 sentimental [sɛntə'mɛntəl] 「センチメンタル、感傷的な」 tender 「優しい」 touching 「感動的な」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間各 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

It was language that, for the first time, enabled our ancestors to teach others, including their children, about objects and events that were not actually present. There are other intelligent animals living today with complex brains and elaborate communication systems, but they cannot, so far as we know, do that. Chimpanzees and other apes can be taught many of the signs of American Sign Language, ASL. They have acquired three hundred or more, and can use them in new contexts and with each other as well as their trainers. But they did not, during their evolution, develop the uniquely human ability to talk about that which is not present, share events of the distant past, plan for the far-off future, and, most important, discuss ideas, exchanging them to share the accumulated wisdom of an entire group.

【3】 an ancestor [ˈænsɛstər] 「祖先」 elaborate [ɪləˈbeɪrɪt] 「複雑な」 a context [kɑntɛkst] 「文脈」 evolution [ˌɛvəlúːʃən] 「進化」 uniquely [ju(:)ní:k] 「独自の、特有の」 exchange A [ɛkstʃéɪndʒ] 「A を交換する」 accumulate A [əkjuːmjulèɪt] 「A を蓄積する」 (B) interact with A [ɪntərækt] 「A と交流する」 immediately [imíːdiətli]

【4】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

New techniques used in film-making have made movies more vividly lifelike in recent years and further developments may make it possible to copy reality still more closely. Even so, there will always be a distinct difference between experience of the real world and the experience in the cinema. Perception of reality is an active process whereas our activity while watching a movie is strictly limited. What we see in the real world is the product of our own will and choice. In the cinema we have to accept the point of view given to us. The making of a film requires the choice of a viewpoint which controls what is shown on the screen, thus limiting our normal freedom to survey what is in front of us, to select and examine what catches our attention or interest. We can watch. We can listen. We cannot investigate for ourselves.

【4】 lifelike 「生きているような」「生き生きとした」 distinct [distɪŋkt] 「際立った」 whereas SV...[hwe (:) ræz] 「かたや SV...」 (=while SV...) strictly [striktli] 「厳密に」 require A [rikwaɪə] 「A を必要とする」 survey A [sərvéi] 「A を調査する」 investigate [invéstəgèit] 「詳しく調べる」

NO 19 《ENGLISH COMPOSITION》



【1】 [英作文] 《九州大》

解答時間 20 分

次の文の下線部(1), (2)を英語に訳しなさい。

「継続」を求める幸福に対し、希望は「変化」と密接な関係があります。夢とちがって希望は、苦しい現実のなかで意識的にあえて持とうとするものであるといいました。過酷な現在の状況から良い方向に改善したい。苦しみから少しでもラクになりたい。もしくは誰かをラクにしてあげたい。そんな思いが、希望という言葉には宿っているのです。

(1) 希望は、現状の継続を望むというよりは、現状を未来に向かって変化させていきたいと考えるときに表れるものなのです。

だとすれば、希望を持つためには、きびしい現実から目を背けないことが、まず重要になってきます。過去から現在まで続いている挫折や試練を正面から受け止めることで、その状況を変えるんだという思いは、生まれます。

ただ、変化を起こすことが、一人ひとりの力だけではむずかしいこともあります。そんなときは、(2) 同じ変化を希望する人たちと、どんな方向に変えていきたいのかという希望をともにしながら、一緒に行動できるかどうか、変化の実現はかかってきます。

【2】 [英作文] 《九州大》

解答時間 20 分

次の文の下線部(1), (2)を英語に訳しなさい。

最近, もの忘れが急激にひどくなった。新幹線の車両に乗るときなども, 乗車の間際までおぼえていたはずの座席の番号が, すぐに頭から抜けてしまう。昔からの知人は別として, 人の名前がなかなか出てこない。

しかし, 固有名詞や数字などは確かめてみればすむことだ。(1)問題なのは, もっと深いところで大事なことを忘れてしまうことではあるまいか。

忘れた頃にやってくるのが天災だとは, 周知の名言だが, 大事なことは天災を身にしみて恐ろしいと思った, その時の感覚である。しかし心と体の両方で恐怖を感じた記憶が薄れていくのも, 生身の人間としては仕方のないことかもしれない。

天災を忘れることより, 天災の恐ろしさを忘れることが問題なのだ。(2)私たちの記憶のなかから, そのなまなましい感覚が忘れられた時に, 災害はふたたびおこるだろう。

NO 20



【1】 [英作文]

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

大都会の若い世代は次第に木や鳥や魚の名を忘れていった。かれらは土、池、川、そして森との親しみを失い、人工的な環境に住んでいる。

【2】 [英語構文] 《動詞の語法⑨》

解答時間 10 分

次の英文の下線部を和訳しなさい。

[V A of B:remind A of B] 《センター》

Bamboo trees have been used in gardens so that people can listen while the wind blows through them or the June rain falls steadily on their leaves. The beauty of bamboo lies, perhaps, in its simplicity, a simplicity which artists have tried to express through the years. The skill of artists has served to bring bamboo indoors to remind us of the beauty of nature and to make it so familiar that in the West it has come to symbolize the Orient.

【2】 S lie in A 「SはAにある」 simplicity [simplisəti] 「簡潔さ」 serve to V 「Vするのに役立つ」 come to V 「Vするようになる」 symbolize [sɪmbəlaɪz] 「Aを象徴する」

【3】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

As a beginning we should try to clarify our thinking by looking, in some historical depth, at the presuppositions that underlie modern technology and science. Science was traditionally aristocratic, speculative, intellectual in intent; technology was lower-class, empirical, action-oriented. The quite sudden fusion of these two towards the middle of the nineteenth century, is surely related to the slightly prior and contemporary democratic revolutions which, by reducing social barriers, tended to assert a functional unity of brain and hand. Our ecological crisis is the product of an emerging, entirely novel, democratic culture. The issue is whether a democratized world can survive its own implications. Presumably we cannot unless we rethink our axioms.

(注) a presupposition [pri:s`ʌpəzɪʃən] 「前提」 aristocratic [əristəkrætɪk] 「貴族的」 speculative [spékjuleɪtɪv] 「思索的」 empirical [empírɪkel] 「経験主義的な」 action-oriented [ækʃən [ɔ(:)riəntɪd] 「行動中心的な」

【3】 as a beginning 「最初に」 clarify A [klærəfài] 「A を明らかにする」 underlie A [ʌndərlai] 「A の根底にある」 traditionally [trədjɪənəli] 「伝統的に」 in intent 「意味合いが」 prior 「より前の」 contemporary [kəntəmperəri] 「同時代の、同時期の」 a revolution [rɪvəlú:ʃən] 「革命」 reduce A [ridjú:s] 「A を減少させる」 assert A [əsə:rt] 「A を主張する」 functional [fʌŋkʃənəl] 「機能的な」 ecological [ækələdʒɪkəl] 「生態(学)の」 emerge [ɪmə:rdʒ] 「現れる」 democratized [dɪmákretàɪzd] 「民主化された」 an implication [ɪmplíkəɪʃən] 「影響」「包含」(注: 複数形で「影響、連座」) an axiom [æksɪəm] 「真理」

【4】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Did you ever think, when you held or looked at a beautiful pearl, that its origin was irritation? An oyster, in response to the irritating presence of sand within its shell, creates a thing of beauty. Not only is the conflict resolved but value is created. When we understand that conflict includes the potential for us to create beautiful pearls and contribute to the world and to ourselves, then we begin to open up our shells, less concerned about letting life in. Embracing conflict can become a joy when we know that irritation and frustration can lead to growth and fascination.

【4】 irritation [ɪrɪ'teɪʃən] 「刺激、苛立ち」 oyster [ɔɪstər] 「二枚貝」 in response to A 「A に反応して」 irritating [ɪrɪ'teɪtɪŋ] 「刺激的な」 presence [prezəns] 「存在」 conflict[kən'flɪkt] 「衝突」「対立」 resolve A [rɪzəlv] 「A を解決する」 potential [pə'tenʃəl] 「可能性」 contribute to A [kən'trɪbjʊ:t] 「A に貢献する」 embrace A [embrə'seɪs] 「A を受け入れる」「A を大切にする」 frustration [frʌ'streɪʃən] 「欲求不満」 fascination [fæ'seɪʃən] 「魅力」

NO 21



【1】 [英作文]

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

私たちの住む日本の社会は個性を重んじるよりも、むしろ他の人とうまくや
ってゆくことに、より大きな価値を置く社会のようだ。

【2】 [英語構文] 《動詞の語法⑨》

解答時間 10 分

次の英文の下線部を和訳しなさい。

なお、本英文は、反省(reflection)の方法について述べたものである。

[V A into B:transform A into B] 《東京工業大学》

The point is not to be the victims of our feelings, jerked this way and that by unresolved emotions, not to be used by our experiences, but to use them and to use them creatively. Just as writers turn experiences from their lives into novels and plays, we can each transform our experiences into something practical and usable. Isak Dinesen* said, “Any sorrow can be borne if we can put it in a story.” Your total experience becomes your life, and that base is solid and sound to the degree that you have reflected on it, understood it, and arrived at a workable resolution.

(注) jerked this way and that by A 「A によって翻弄される」

*Isak Dinesen デンマークの作家(1885-1962)。

【2】 The point is to V 「肝心なのは、toV である」 a victim [vɪktəm] 「犠牲者」 unresolved 「解決できない」 to the degree that SV... 「SV...する程度」 solid 「堅牢な」 sound 「健全な」 reflect on A 「A について反省する」 a workable resolution 「解決策」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

What is new to our time is the realization that, acting quite independently of any good or evil intentions of ours, the human enterprise as a whole has begun to strain and eat away at the natural terrestrial world on which human and other life depends. Taken in its entirety, the increase in mankind's strength has brought about a decisive, many-sided shift in the balance of strength between man and the earth. Nature, once a harsh and feared master, now lies in subjection, and needs protection against man's powers. Yet because man, no matter what intellectual and technical heights he may attain, remains embedded in nature, the balance has shifted against him, too, and the threat that he presents to the earth is a threat to himself as well.

【3】 the realization that SV...[ri:əlizéifən] 「SV...という認識」(同格の that)independently of A[ɪndɪpɛndəntli] 「A と無関係に」an intention [ɪnténʃən] 「意図」an enterprise [ɛntərpraɪz] 「企て」as a whole 「全体として」strain A [streɪn] 「A を痛めつける」eat away at A 「A を侵食する」terrestrial [tərəstriəl] 「地球の」entirety [ɪntáɪərti] 「完全無欠」(take A in one's entity 「A を全体的に捉える」)harsh [hɑ:rʃ] 「厳しい」in subjection[səbdʒɛkʃən] 「従属的な」embed A [embéd] 「A を埋め込む」a threat [θret] 「脅威」present A to B[pri (:) zént] 「A を B に与える」

【4】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

Lectures on videotape, on audiotape and — if delivered from detailed, antique notes — even in the lecture hall, come closer to the way knowledge is stored in books or on the Internet than to the manner in which it can be created and obtained through open questions and collaboration. As a method of conveying information, lectures lack the speed and the free-ranging exploration typical of computer access to data. The information they contain is rarely the reason for our interest in them; the source of their fascination is the eloquence and angle of vision of the lecturer. What makes such presentations worthwhile is the opportunity they afford of seeing, and asking questions about, how another human being perceives the world.

【4】 deliver A [dɪlɪvə] 「A を届ける」 detailed [diːteɪld] 「詳細な」 antique [æntɪːk] 「古い」 store A [stɔːr] 「A を蓄える」 obtain A [əbteɪn] 「A を獲得する」 collaboration [kəlˈæbərəɪʃən] 「協力、共同」 convey A [kənveɪ] 「A を伝える」

NO 22

【1】 〔英作文〕



解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

今日、われわれは国際社会の現実をありのままに理解できる人々を必要としている。教育もそのような人々の養成に力を注ぐべきである。

【2】 〔英語構文〕《動詞の語法⑩》

解答時間 10 分

次の英文の下線部を和訳しなさい。

[distinguish A from B...] 《福島大》,

Reading is generally regarded as an act of interpreting printed and written words. It is a basic tool of education and one of the most important skills in everyday life. We live in a world of printed words. Through reading we acquire new ideas, obtain needed information, seek support for our ideas, add to our personal pleasure, and broaden our interests. Reading performs many important functions in our life. The ability to read helps distinguish human beings from other animals.

【2】 regard A as B [rɪɡɑːrd] 「AをBと見なす」 generally [dʒenərəli] 「一般的に」 interpret A [ɪntəːprət] 「Aを解釈する」 obtain A [əbteɪn] 「Aを獲得する」 add to A 「Aを増す」 broaden A [brɔːdn] 「Aを広げる」 perform A [pɜːfɔːrm] 「Aを行う」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み、下線部の意味を日本語で表しなさい。

Colors have specific significance based on the various meanings our culture associates with them, and we use them like a simple language. Blood is red, for example, so red in many cultures is seen to be an aggressive color and is used both as a warning, as in the sign system used for road traffic, and to signify passion, as in the gift of a red rose. In traffic signs, green, the color of nature and harmony, is used as the opposite of red to mean ‘safe to go’. Perhaps because we associate darkness and ‘the night’ with death, clothes at funerals are black to acknowledge mourning, whereas at carnivals we put together as many bright, primary colors as possible.

【3】 specific [spəsɪfɪk] 「特定の」 associate with A [əsəʊʃiəɪt] 「A と結びつく」 aggressive [əɡrɛsɪv] 「積極的な」 signify A [sɪɡnəfaɪ] 「A を表す」 passion [pæʃən] 「情熱」 harmony [hɑːrmoni] 「調和」 opposite [əpəzɪt] 「逆の」 a funeral [fʊːnərəl] 「葬儀」 acknowledge A [əknaɪlɪdʒ] 「A を認める、A を示す」 mourning [mɔːrniŋ] 「哀悼」 SV...whereas SV～ [hwe(ɔ)rəz] 「SV...である、一方、SV～だ」 a carnival 「祭り」 put together A 「A を組み合わせる」 primary [praɪməri] 「主たる、原色の」

【4】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の意味を日本語で表しなさい。

One of the most interesting forms of insect behavior is exhibited by the social insects, which, unlike the majority of insect species, live in organized groups. The social insects include wasps, bees, and ants. Characteristically an insect society is formed of a parent or parents and a large number of offspring. The individual members of the society are divided into groups, each having a specialized function and often exhibiting markedly different bodily structures.

【4】 exhibit A [egzɪbɪt] 「A を示す」 organized [ɔ:rgənəɪzd] 「組織だった」 Characteristically [kʰærəktərɪstɪkəli] 「特徴的には」 offspring 「子孫」「子供」 divide A into B [dəvaɪd] 「A を B に分割する」 specialized [spɛʃləlaɪzd] 「特化した」「特殊化した」 markedly [ma:rkɪt -ɪdli] 「著しい」 a bodily structure 「肉体構造」

NO 23



【1】 [英作文]

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

科学の進歩によって、自然が破壊され、我々の住む環境は危険にさらされている。しかし、残念なことに、環境問題について真剣に考えている人の数は少ないように思える。

【2】 [英語構文] 《動詞の語法①》

解答時間 10 分

次の英文の下線部を和訳しなさい。

[associate A with B] 《信州大》

Word learning is often characterized as a kind of mini-linguistics lesson, similar to vocabulary lessons in a foreign language classroom, in which adults point to and name objects for children. In this pointing-and-naming game, the process seems relatively simple. The child only has to **associate** the word she is currently hearing **with** the thing she is currently seeing.

【2】 characterize A as B [kærəktəraɪz] 「A を B と特徴づける」 similar to A [sɪmələ] 「A に似ている」 vocabulary [vɒkəbjʊləri] 「語彙」 point to A 「A を指さす」 process [práses] 「過程」 relatively [rélətɪvli] 「比較的」「相対的」 associate A with B [əsóʊfíèit] 「A を B と結びつける」 currently [kə:rentli] 「現在」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Scientists and animal trainers have devoted their lives to trying to understand what the world looks like to animals. After all, the planet is full of perceptive creatures — of whom we are a small minority — and it's more than a matter of idle curiosity to consider how life appears to them. Humans can't help approaching this problem from a human perspective. We posit our own intelligence, our behavior, emotions, and language skills, as the norm. A horse-trainer friend of mine is often asked if horses are intelligent. “It depends who's writing the test,” he likes to say. I've often wondered how it would turn out if humans weren't the ones writing the tests, defining the norm.

(注) posit [pázit] A as B 「A を B とみなす」

【3】 devote A to B [divóut] 「A を B に捧げる」 perceptive [pərséptiv] 「知覚能力を持つ」 a creature [krí:tʃə] 「生き物」 idle [áidl] 「怠惰な」 approach A 「A に取り組む」 norm [no:rm] 「基準」 turn out 「(結局)～となる」 define A [difáin] 「A を定義する」

【4】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Communication is far more than speech and writing. Most of us are unaware that we are communicating in many different ways even when we are not speaking. The same goes for other social animal species. We rarely learn about this mostly non-verbal human communication in school even though it is very important for effective interaction with others. Growing up in a society, we learn how to use gestures, glances, slight changes in tone of voice, and other auxiliary communication devices to modify or emphasize what we say and do. We learn these highly culture-bound techniques over years largely by observing others and imitating them.

(注) auxiliary [ɔːgzɪljəri] 「補助的な」 culture-bound 「文化と結びついた」

【4】 go for A 「A に当てはまる」 non-verbal 「非言語の」 interaction [ɪntəræksjən] 「相互作用、意思疎通」 a glance [glæns] 「ちらりと見ること、目配せ」 modify A [mɒdɪfaɪ] 「A を修正する」 emphasize A [ɛmfəsaɪz] 「A を強調する」 observe A [əbzəːrv] 「A を観察する」 imitate A [ɪmɪteɪt]

NO 24 <L&C>



【1】 [リスニング選択]

【2】 [英作文選択] 《九州大》

解答時間各 20 分

次の文(1)(2)の下線部を英語に訳しなさい。

(1)

①身近で目につく生き物と言えば、何と云っても昆虫であろう。現在までに 100 万種ほどの生き物が知られているが、その 70%が昆虫である。種類の多さから言え

ば、地球を支配しているのは昆虫の仲間である。このような繁栄はどうして可能になったのだろうか。

②非常に多くの種類がいることには、サイズが関係するだろう。昆虫のように小さければ多くの変異を短時間で生み出すことができる。これは小さいことの長所だ。

(2)

では、平等とはなにか。①平等とは、人々が体力、知力、容姿、財産、社会的地位において等しいという意味ではない。そんなことはありえない。そうではなくて、平等とは、人が自由であることにおいて等しい、という意味である。すなわち、自由であるとは、各人が自分自身の善の観念をもち、それを実現しようとする意志をもち、さらに、公共的理性の所有によって自分の生きる社会の在り方に責任をもつ、ということであるが、②このことをすべての人に確保することが、平等の実現ということなのである。

NO 25



【1】 [英作文]

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

子どもができるだけ早く自立するよう手助けすることは大切だ。しかし、これは、子どもを手放したがる多くの日本の母親にとっては難しいようだ。

【2】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Animals that are active at night usually have large eyes that let them make use of any available light. With owls, the eyes are so big in comparison to the head that there is little room for eye muscles, meaning owls can't move their eyes. Instead, owls must move their entire head to follow the movement of prey. However, having fixed eyes gives owls better focus, with both eyes looking in the same direction. And even though it seems that owls can twist their head completely around, most owls turn their head no more than 270 degrees in either direction.

(注) a baby harp seal 「タテゴトアザラシの赤ちゃん」

【2】 available[ə'veɪləbl̩] 「利用できる」 in comparison to A 「A に比べて」 prey[preɪ] 「獲物」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

How we handle our own feelings of impatience, hostility, and anger is a far more powerful example to our children than what we tell them to do with theirs. We don't want to impose our black moods on our children, but neither do we want to pretend that our angry feelings don't exist. In any case, we may as well be honest, for even when we try to cover up our anger, our children sense how we feel.

【3】 handle A [hændl] 「A に対処する」 impatience [impéifens] 「いらだち」 hostility [hastíleti] 「敵意」 impose A on B [impóuz] 「A を B に押し付ける」 pretend that SV...[pri(:)ténd] 「SV...の振りをする」

【4】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部(A)(B)の意を日本語で表せ。

There is an extremely powerful conceptual connection between our idea of *mind* and our idea of *writing*. Records are understood as a sort of external memory, and memory as internal records. Writing is understood as thinking on paper, and thought as writing in the mind. By means of this conceptual connection, the written work is taken as a substitute for or even as the essence of the author: (A)the author's mind is an endless paper on which he or she writes, making mind internal writing ; and the book the author writes is external mind, the external form of that writing. The writing is therefore conceived of as having a voice, one that speaks to us, and to which we respond. The author is understood as the self thinking. The self is understood as an author writing in the mind. Sometimes, the self is an author writing thoughts externally on paper. (B)This makes it extremely easy for us to talk about "putting our thoughts down on paper" and to see the author's self as contained in the writing. This makes the everyday reference to writing by its author's name — as in "Pascal is on the top shelf" — seem so natural.

【4】 extremely [ekstriːmli] 「極めて」「極端に」 conceptual [kɒnsɛptʃuəl] 「概念上の」「認識上の」 external [ekstəːrniəl] 「外部の」 internal [intəːrniəl] 「内部の」 by means of A 「Aによって」 a substitute [sʌbstɪtjuːt] 「代用品」 essence [ésens] 「本質」 conceive of A as B [kɒnsiːv] 「AをBと見なす」 reference to A [réfərəns] 「Aに言及(すること)」

NO 26 <ENGLISH COMPOSITION>



【1】 [英作文]

解答時間各 20 分

次の文 (A) (B) の下線部を英語に訳しなさい。

(A)

学生時代をふりかえってみて、「もっとああしておけばよかったな」と思っていることが、私にもいくつもある。「もっと(貧乏)旅行をしておけばよかったな」とか、「いろいろな人たちに、思い切って会いにいけばよかった」など。そのときは「そのうちいつかは、できるだろう」と高をくくっていたのだが、実際はそうもいかない。思ったときに行動に移さない限り、だいたいのは、後々に叶いはしない。

① そんな少くない後悔のなかでも、最近とみに思うのは「もっといろいろな古典に触れておけばよかった」ということだ。 古典といっても、必ずしも文学や芸術などの作品に限らない。映画でも、音楽でも、落語でも、芸能でも、なんでもかまわない。若いうちに、目からでも、耳からでもいい、古典というものに触れておくことは、将来、必ず良い影響を及ぼすと思うのだ。

私はそれほど読書好きの子どもではなかった。もっと正直に言えば、本を読むのはどちらかというと億劫でたまらなかった。テレビのほうが何倍も好きだった。だからだろう、ずっと国語は苦手科目。そんな私が、今ごろになって、古典が大事と痛感するようになったのは、どうしてなのか。それは、いつからか日本にすっかり定着した「わかりやすさ」ブームと関連している。わかりやすいという基準や価値観が支配的である世間へのささやかな反抗である。

② 古典というのは、だいたいわかりにくいものだ。わかりにくければ、すべてが古典になるというのでは無論ないが、すぐにすべてが理解できる古典など、ないように思う。 単純明快な理解を拒絶する、多様さや複雑さを内包するエネルギーをたたえている作品だからこそ、古典になるのだ。

(B)次の文の下線部を英語に訳しなさい。

(1)「効率性」には万事慌しいイメージがつきまとう。この言葉に嫌悪感を抱く人が多いのもそうした所に由来するに違いない。しかしながらもともと経済学において効率性は、人々の「効用」、つまり「満足」を基礎において定義される概念である。(2)言い換えれば人々が速いのが良いと思えば速いのが効率的になるのに対して、ゆっくりなのが良いと思うのならゆっくりなのが効率的になるわけだ。効率はいくまでも人々の価値観に依存する相対的な概念なのである。

【2】 [英作文]

解答時間 20 分

次の下線部①②を英語に直しなさい。ただし、文中の「学歴偏重」も英語に直すこと。

ヨーロッパに赴任した日本のビジネスマンたちが、次第に任地の社会構造を理解してくると、おどろくことのひとつは、ヨーロッパ社会の“学歴偏重”だという。①渡欧前に、日本の新聞雑誌などで“学歴偏重をただせ”というような論調に接していたから、日本は世界に冠たる“学歴偏重社会”で、欧米にはそんな風潮はないのだろうと漠然と考えていたのが、②むしろ、ヨーロッパのほうがはるかに“学歴偏重”だと知って愕然とするのだそうだ。

だいたい、ヨーロッパの大学の数は人口比でも日本に比べると圧倒的に少ない。少なれば進学する人数も当然のことながら多くない。高校を出たら大学を受験するのが常識とはされていない。大学に進む若者はエリートである。家庭環境もさることながら、本人にエリートたる自覚がある。入学後の努力が並たいていでないことも知っている。

NO 27



【1】 [英作文]

解答時間 20分

次の日本語を英訳しなさい。

異文化を経験することの感動は、自分にとって異質なものを体験する魅力にあるのではない。その体験を通じて、いままで当然のように思ってきた何かに気付くことにある。

【2】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Only the smallest fraction of the human race has ever acquired the habit of taking an objective view of the past. For most people, even most educated people, the past is merely a prologue to the present, not merely without interest in so far as it is independent of the present, but simply inconceivable except in terms of the present. The events of our own past life are remembered, not as they seemed to us at the time, but merely as incidents leading up to our present situation. We cannot persuade ourselves — in fact, we make no attempt to do so — that undertakings which ended in failure were entered upon with just as much forethought and optimism as those which have profoundly affected our lives.

【3】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

The people that Butcher photographed were intensely aware of the ability of the photograph to freeze time and, in a sense, provide immortality. In a number of his pictures, people hold photographs to replace deceased or absent family members. In such cases photographs ascend to the status of a real person. It is perhaps because of this respect for the image that people were seldom photographed in less than their best clothing. In fact, there are records of family members' being excluded from family photographs because they did not own proper attire.

Butcher=Solomon D. Butcher (1856-1927) アメリカの写真家)

【2】 a fraction [frækʃən] 「ひとかけら」 「ひと握り」 acquire A [əkwáɪər] 「A を得る」 objective [əbdʒéktiv] 「客観的な」 a prologue [próulo:g] 「序幕」 in so far as SV... 「SV するかぎり」 be independent of A [ɪndɪpéndənt] 「A から独立して」 inconceivable [ɪnkənsí:vəbl] 「想像できない」 in terms of A 「A の観点で」 「A の立場で」 an incident [ɪnsədent] 「出来事」 persuade A that SV... [pərsweɪd] 「A を説得する」 a undertaking [ʌ`ndərtéikɪŋ] 「仕事」 enter upon A 「A を始める」 forethought [fɔ`rθɔ`t] 「予測」 optimism [əptəmizəm] 「楽観」 profoundly [proufáundli] 「深く」 affect A [əfékt] 「A に影響を与える」

【3】 freeze A [fri:z] 「A を凍結させる」 intensely [ɪnténsli] 「強く」 in a sense 「ある意味で」 immortality [ɪmɔ:rtæletɪ] 「永遠性」 「不死」 replace A [ripléis] 「A と置き換える」 deceased [disí:st] 「亡くなった」 exclude A [eksklú:d] 「A を除外する」 attire [ətáɪər] 「衣服」

【4】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Some people still persist in a view of the natural world and its inhabitants as having no other value than to serve humans as tools, objects, and resources. This approach is very different from that of indigenous people who recognize no such hierarchy and do not see a separating wall between humans and the animal and plant kingdoms. They regard all creatures of the earth as fellow travelers and spiritual teachers.

【4】 persist [pə'sɪst] a resource 「資源」 an inhabitant [ɪnhæ'bɪtənt] 「住人」 (inhabit A 「A に住む」 indigenous people [ɪndɪ'dʒɪnəs] 「原住民」 hierarchy [haɪə'rɑ:kɪ] 「階層、階級」 separating [sə'pærətɪŋ] 「分け隔てている」 a kingdom [kɪŋdəm] 「界」

NO 28



【1】 [英作文] 《大阪大》

解答時間 20分

次の日本語を英訳しなさい。

私はいまの日本で、ひとつ大切なことは、「自然へ帰れ」ということだと思う。休日になると、実に大勢の人々が山へ登ったり海へ行ったりする。観光シーズンともなれば大変な混雑だ。都会人ほど自然にあこがれているのは事実だが、それなら自然を愛しているかという点、この点は大いに疑問である。山や野や公園などを平気で荒らす人が少なくないからである。つまりレジャーがあるだけで、自然への愛のないところに、今日の私たちの欠点があるのではなかろうか。

【2】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

“What would you like for Christmas?” Mrs. Deverell asked. Angel had scarcely spoken a word all day, was lying there, fuming, frustrated by this intrusion. For once, she did not know what she would like. It was only a matter of time before she would have everything she wanted. As a famous novelist, she could buy herself jewellery, expensive clothes, a fur coat, her own car. All that separated her from such riches was the time it would take to transfer what was in her head to the pages of the exercise-book — time which her mother’s unexpected visit was causing her to lose.

【2】 fume [fju:m] 「ブンブンと起こる」 frustrated [frʌ'streɪtɪd] 「欲求不満な」 intrusion [ɪn'tru:ʒən] 「邪魔」 It was only a matter of time before SV... 「SV...は時間の問題だ」 transfer A to B [trænsfə:r]

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Time scales have changed dramatically in the twentieth century. The biggest changes in our interpretation of the distant past have taken place within the last twenty years as new schemes of dating, new discoveries of material remains and new evaluations of evidence have come so fast that earlier surveys have been rapidly outdated. It is through our late-twentieth-century sense of time and space, so different from that of previous centuries in that it is governed by science, that we now step backwards and reach out to our most remote ancestors. This does not mean that we should ignore the journeys of past explorers of history when we make our own journey through time, for the social historian learns much about social history from out-of-date and discarded explanations.

【3】 dramatically [drəmə'tɪk] 「劇的に」 an interpretation [ɪntəːrprə'teɪʃən] 「解釈」 a scheme [skiːm] 「体系」「設計」「計画」 remains [rɪ'meɪn] (名詞) 「残り物」「遺物」 an evaluation [ɪvəˈljueɪʃən] 「評価」 survey A [sərvéɪ] 「Aを調査する」 outdated [aʊtdetɪtɪd] 「時代遅れの」 govern A [gʌvərn] 「Aを支配する」 remote [rɪ'məʊt] 「辺鄙な」「離れた」 an ancestor [ænsɛstə] 「祖先」 an explorer [ɛksplɔːrə] 「探検家」 out-of-date 「時代遅れの」 discard A [dɪskɑːrd] 「Aを捨て去る」

【4】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Silence is an act of nonverbal communication that transmits many kinds of meaning dependent on cultural norms of interpretation. Our tendency to describe silence as an absence of speech reveals a particular cultural bias, implying that something is missing, but silence is a “something” with purpose and significance. Silent behavior occurs in all societies, although its message varies both between and within different groups. It conveys meaning, as does all communication, partly from the situational and interactional contexts of its use. Emphasizing the “use” of silence also focuses on the fact that silence does not simply exist but is actively created by participants.

【4】 nonverbal [nʌn vɜːrbel] 「非言語の」 transmit A [trænsmít] 「A を伝達する」 a norm [nɔːrm] 「基準」 interpretation [ɪntəːrprətéɪʃən] 「解釈」 reveal A 「A を明らかにする」 imply [impláɪ] 「A を含意する」「A を暗に示す」 significance [sɪgnífəkens] 「意義」 interactional [ɪntərəktʃənel] 「相互作用の」「相互やりとりの」

NO 29 <LISTENING//ENGLISH COMPOSITION>



【1】 [リスニング選択]

【2】 [英作文選択] 《京都府立医科大》

解答時間 20 分

次の下線部①②を英語に直しなさい。

①日本人は完全な否定を言明することをためらい、つねにいくばくかの肯定の余地を残すのを美德と考えるから、外国人とのあいだでしばしばトラブルが起きる。たいていの民族は、否定は否定、肯定は肯定と、それこそイエス・ノーをはっきりと区別している。否定だか肯定だかわからないと、いらいらし、勝手にどちらかにきめて行動する。すると日本人はびっくりして、じつはそうではないんです、などと訂正する破目になる。②外国人のあいだで通念のようになっている日本人は不可解だというイメージは、このような日本人の否定のあいまいさに大半を負っている。

【3】 [英作文選択] 《京都府立医科大》

解答時間 20 分

次の下線部①～③を英語に訳しなさい。

①昆虫の成功の秘訣は、大量にありながら、ほかの動物たちがあまり手をつけなかった、葉っぱという食物に目をつけたところにある。②しかし、草を食うということは、重い胃袋をかかえるわけで、移動性を犠牲にする。1本の草を1匹の虫が食いつくしてしまったら、草も虫もおしまいであろう。イモムシのような動きののろいものが、草を食いつくしながら、新しい草を求めて這いまわるのは、現実的でない。③昆虫の小さいサイズは、1本の草で満足できる程度の、てごろなサイズだと思われる。

NO 30 《VOCABULARY CHECK》



【1】〔語彙検定〕

第2回 語彙検定

【2】〔英作文〕《大阪府立大》

解答時間 20分

次の日本語の下線部(1)と(2)を英語に訳せ。

日本では、英会話をはじめ英語にかかわるマーケットの規模は、おそらく1兆円を上回っています。にもかかわらず、日本人の英語能力はアジアの中でも決して高いほうではありません。(1)こんな不思議な現象がなぜ起きているのか、多くの人々が頭を抱えています。

確かに日常の生きた言語としての英語に慣れ親しむことは重要でしょう。(2)しかし、話し言葉が貧弱でも、内容が洗練されていれば、異文化の人々とのコミュニケーションは豊かになるものです。であれば、やはりその文化を支える古典を原書で読み込む必要があります。

読む力は考える力です。外国語の会話力も大事ですが、読解力をつける科目こそ高等教育機関は充実させるべきです。

NO 31



【1】 [英作文] 《大阪大》

解答時間 20分

次の日本語を英訳しなさい。

私はいまの日本で、ひとつ大切なことは、「自然へ帰れ」ということだと思
う。休日になると、実に大勢の人々が山へ登ったり海へ行ったりする。観光シー
ズンともなれば大変な混雑だ。都会人ほど自然にあこがれているのは事実だが、
それなら自然を愛しているかという、この点は大いに疑問である。山や野や公
園などを平気で荒らす人が少なくないからである。つまりレジャーがあるだけ
で、自然への愛のないところに、今日の私たちの欠点があるのではなかろうか。

【2】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20分

Freedom of the mind requires not only, or not even especially,
the absence of legal constraints but the presence of alternative
thoughts. The most successful tyranny is not the one that uses
force to assure uniformity but the one that removes the awareness
of other possibilities, that makes it seem inconceivable that other
ways are viable, that removes the sense that there is an outside.
It is not feelings or commitments that will render a man free, but
thoughts, reasoned thoughts.

【2】 a constraint [kənstréint] 「制約」 tyranny [tírəni] 「独裁政治」 assure A [əʃúə] 「Aを確保する」 remove A [rímú:v] 「Aを取り除く」 inconceivable [inkənsi:vəbl] 「考えられない」 viable [váíəbl] 「実現可能な」 render AB [réndə] 「AをBさせる」

【3】 leave A behind 「Aをあとに残す」「Aを捨て去る」 at every moment 「刻一刻」 modify A [mádefài] 「Aを修正する」 Hence S V... 「したがって、SV...」 hitherto 「これまで」 adequate [ædikwit] 「十分な」 symbol [símbel] 「象徴」 purposive [pə:rpəsiv] 「目的意識がある」 endure [endjúə] 「耐える」「持続する」 wilderness [wíldərnis] 「荒野」 in particular 「特に」 an animal trail 「獣道」

【3】 〔英文解釈〕《京都大》

解答時間 40分

次の文の下線部をほどこした部分(1)(2)を和訳しなさい。

Man is a history-making creature who can neither repeat his past nor leave it behind; at every moment he adds to and thereby modifies everything that had previously happened to him. Hence the difficulty of finding a single image which can stand as an adequate symbol for man's kind of existence. ⁽¹⁾If we think of his ever-open future, then the natural image is of a single pilgrim walking along an unending road into hitherto unexplored country; if we think of his never-forgettable past, then the natural image is of a great crowded city, built in every style of architecture, in which the dead are as active citizens as the living. The only feature common to both images is that both are purposive; a road goes in a certain direction, a city is built to endure and be a home. The animals, who live in the present, have neither cities nor roads and do not miss them; ⁽²⁾they are at home in the wilderness and at most, if they are social, set up camps for a single generation. But man requires both; the image of a city with no roads leading away from it suggests a prison, the image of a road that starts from nowhere in particular, an animal trail.

(注) a pilgrim [pɪlgrəm] 「さすらい者」 「巡礼者」

NO 32



【1】〔英作文〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

平凡きわまる会話でも、それを交わす当事者たちには実に面白いということが常に生じる。会話する人たちのいる状況次第で、その人たちはそれを実に面白いと思い、熱中して語りあう。これも日常会話の大切な一面だ。

【2】〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

A legacy of humans' evolutionary past is the fact that extensive brain development occurs after a child is born. Other creatures have a genetic inheritance that includes a specialized body and mind fitted to a specific environment, but humans have a brain that grows while exposed to the environment. Brain development and the environment interact. A child is born with an ability to grasp complex patterns and learn from a wide number of possible environments. Interaction with the environment shapes a child's brain, narrowing its learning potential to fit the actual community in which the child lives.

【2】 legacy [légəsi] 「遺産」 evolutionary [evələú:ʃənəri] 「進化の」 inheritance [inhéritens] 「遺伝」 specific [spesífik] 「特有の」 be exposed to A [ekspóuzd] 「Aに曝される」 interact [intərəékt] 「相互作用する」 grasp A [græsp] 「Aを理解する」 narrow A [nærou] 「Aを狭める」

【3】 〔大意要約〕《東京大》

解答時間 10 分

次の英文を読んで下記の設問に答えなさい。

A child is most intelligent when the reality before him arouses in him a high degree of attention, interest, concentration, involvement — in short, when he cares most about what he is doing. This is why we should make schoolrooms and schoolwork as interesting and exciting as possible, not just so that school will be a pleasant place, but so that children in school will act intelligently and get into the habit of acting intelligently. The case against boredom in school is the same as the case against fear; it makes children behave stupidly, some of them on purpose, most of them because they cannot help it. If this goes on long enough, as it does in school, they forget what it is like to grasp at something, as they once grasped at everything, with all their minds and senses; they forget how to deal positively and aggressively with life and experience to think and say “I see it! I get it! I can do it!”

設問 1 次の英文の下線部を和訳しなさい。

設問 2 次の文の要旨を 50～70 字の日本語で書け。句読点も文字数に数える。

【3】 arouse A [ə'raʊz] 「A を喚起する」 concentration [kənsent'reɪʃən] 「集中力」 involvement [ɪnvɔlvmənt] 「参加意識」 get into the habit of A 「A する習慣を身に付ける」 boredom [bɔːr dəm] 「退屈」 on purpose [pəːrpəs] 「故意に」 aggressively [ə'grɛsɪvli] 「積極的に」

NO 33



【1】 [英作文] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

本を読むことは楽しい。本の中で、実生活では会えぬような人に出会える。
行けない場所に旅ができる。思いもよらぬ事態に遭遇し、考える。日常とは離れた境地で、様々な感情を味わう。想像力をかき立てられる。 むろん、知識を得るのに役立つ読書もある。そういう体験を、若者たちが食わず嫌いで避けているとしたら、もったいない。

【2】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間各 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表しなさい。

Culture is not something in opposition to biology; rather, culture is the form that biology takes in different communities. One culture may differ from another culture, but there are limits to the differences. Each must be an expression of the underlying biological commonality of the human species. There could not be a long-term conflict between nature and culture, for if there were, nature would always win; culture would always lose.

【2】 in opposition to A [ɪpəzɪʃən] 「A と対立する」「A と反対の」 underlying [ʌndərlaɪɪŋ] 「根底にある」 commonality [kɒmənɪ'ti] 「共通性」 conflict [kɒnflɪkt] 「対立」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

Acquiring a knowledge of history is a pleasant and safe pastime for the amateur. Developing an understanding of history is essential for those who would influence the future. It is not only on the lessons that history has to teach, valuable though they are, that this claim lies. It is rather because history, by making us aware how we arrived where we are today, gives us our bearings so that, like any traveller, we may venture into the unknown confident at least of our direction. When we meet the future by reacting to the present, how we react is largely determined by the past — our history.

【3】 acquire A [əkwáɪər] 「A を得る」 pastime [pæstáɪm] 「娯楽」 an amateur [æmət,ʃə:r] 「アマチュア」「素人」 essential [esén,ʃel] 「本質的な」 valuable [væljuəbl] 「価値のある」 be aware 疑問詞 SV... 「SV...に気付く」 bearings 「関係」(複数形) venture into A [vént,ʃər] 「思い切って A に入る」 be confident of A [kánfədent] 「A に自信を持つ」 react to A [ri(:) ákt] 「A に反応する」 determine A [dítə:rmin] 「A を決定する」

【4】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文を読み下線部の意味を日本語で表せ。

What is cinema and what is a film? A mere hundred years old, the cinema has — in its different manifestations — become at once so obvious and so ubiquitous that one hardly appreciates just how strange a phenomenon it actually is. Not only an extraordinary entertainment medium, a superb storytelling machine, it also gives a kind of presence and immediacy to the world unparalleled elsewhere, and undreamt of before the cinema was invented. Nothing else seems to give such intense feelings; nothing involves people so directly and tangibly in the world out there and in the lives of others.

【4】 a manifestation [m`ænəfəstéɪʃən] 「表現」 (manifest A 「A を現す」 ubiquitous [ju:ˈbɪkwətəs] 「いとるところにある」 appreciate A [əˈpri:ʃi:ɪt] 「A を正しく理解する」 phenomenon [fənámənən] 「現象」 extraordinary [ekstro:ˈrdenəri] 「異常なほどの」 「他に類を見ない」 immediacy [imí:di:ɪt] 「直接性」 unparalleled 「並ぶものがない」 undreamt of 「夢にも思わない」 tangibly [tændʒəbli] 「現実的な」

NO 34



【1】 [英作文] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本文の下線部を英訳しなさい。

もし自分の計画通りの人生を生きただけの人がいるとしたら、それはたぶん、つまらない人生を生きただけの人なのです。その人も、人生の初歩の段階で、計画とは別の方向に自分を導く岐路に何度か出会っているはずです。その度にその人は、自分の計画に合わせて自分の方向を選択してきたのでしょう。しかし、自分が選ばなかった方向に、その人のもっと大きな可能性があったかもしれない。そういう可能性は、本人の目にも見えていたはずです。しかしその人は、そういう可能性にすべて目をつぶることによって、自分の人生計画を実現したのに相違ないのです。果たして、それが正しい判断といえるのでしょうか。

【2】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

The fundamental reason why exceptional creativity and genius tend to elude* institutional training is that they arise from many elements, such as motivation and personality, whereas schools, colleges, and universities focus chiefly on only one element: intelligence. Whatever intelligence consists of — and there is still no consensus after a century of intelligence testing — it does not appear to be the same as creativity. Intellectual skills and artistic creativity surely do not mutually exclude each other, but neither do they necessarily accompany each other.

(注) elude A[ilú:d] 「A をのがれる」

【3】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Human beings are good at finding all the ways in which to be creative within prescribed limits — painting inside a rectangular frame, writing in iambic pentameters or composing a sonnet. Scientists sometimes like to study how that creativity occurs, what it achieves, and where else to look for inspiration. Many artists are nervous about scientific analysis. They fear its success, worried that art might lose its power, or they might be diminished, if the

psychological roots of their work and its impact on us were exposed.

(注)iambic[aiámɪk]「短長格の、弱強格の」pentameters[pentámətər]「五歩格」

【4】〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

From a broad range of early cultures, extending back to about a million years, natural objects began to be used as tools and implements to supplement or enhance the capacities of the hand. For example, the hand is capable of clawing soil to dig out an edible root, but a digging stick or clam shell is also capable of being grasped to do the job more easily, in a sustainable manner, reducing damage to fingers and nails.

【2】 exceptional [eksépjənel] 「特異な」「並外れた」 institutional [ɪnstətjú:fənel] 「組織的な」 mutually [mjú:tʃuəli] 「相互に」 exclude A [eksklú:d] 「A を排除する」 accompany A [əkampeni] 「A に伴う」

【3】 prescribe A [prískraɪb] 「A を処方する」

rectangular [rektæŋgjulər] 「長方形の」 compose A [kəm-póuz] 「A を組み立てる」 inspiration [ɪnspərəɪʃən] 「奮い立たせること」「ひらめき」「インスピレーション」 diminished [dɪmɪniʃ] 「減少させる」 psychological [saɪkələdʒɪkəl] 「精神の」「心理的な」 expose A [ɪkspóuz] 「A をさらす」

【4】 extend A [ɪksténd] 「引き伸ばす」 implement [ɪmpləmənt] 「道具」「用具」 supplement A [sʌpləmənt] 「A を補う」 enhance A [ɪnháens] 「高める」「強める」 edible [édəbl] 「食用の」 grasp A [gráesp] 「しっかりつかむ」 sustainable [səstéɪnəbl] 「維持できる」 reduce A [rɪdjú:s] 「A を減らす」

発展問題

【1】 [英文解釈] 《京都大》

解答時間 40分

次の文の下線部をほどこした部分(1)(2)(3)を和訳しなさい。

Quantitative changes suddenly become qualitative changes. Water grows colder and colder and colder, and suddenly it's ice. The day grows darker and darker, and suddenly it's night. Man ages and ages, and suddenly he's dead. Differences in degree lead to differences in kind.

(1)All my life I'd been deciding that specific things had no *intrinsic value — that things like money, honesty, strength, love, information, wisdom, even life, are not valuable in themselves, but only with reference to certain ends — and yet I'd never considered generalizing from those specific instances. (2)But one instance was added to another, and another to that, and suddenly the total realization was effected — nothing is valuable in itself; the value of everything is attributed to it, assigned to it, from outside, by people.

I must confess to feeling in my tranquil way some real excitement at the idea. Doubtless (as I later learned) this idea was not original with me, but it was completely new to me, and I delighted in it like a child turned loose outdoors for the first time, full of scornful pity for those still inside. Nothing is valuable in itself. Not even truth; not even this truth.

(3)On that morning I had opened my eyes with the resolution that I would destroy myself; here the day was half spent, and a premise was springing to my mind, to justify on philosophical grounds what had been a purely personal decision. To realize that nothing is intrinsically valuable had such an overwhelming effect. But if one goes no further and destroys oneself on principle, one hasn't reasoned completely. The truth is that nothing makes any difference, including that truth. Hamlet's question "to be or not to be" is absolutely meaningless.

(注)*intrinsic: inherent or essential

【1】 quantitative changes [kwántətətítiv] 「量的な変化」 qualitative changes [kwálitètítiv] 「質的な変化」 in degree 「程度」 in kind 「種類」 specific [spəsífik] 「個別の」「具体的な」 with reference to A [réfərəns] 「Aを参照して」 generalize [dʒénerəlaiz] 「一般化する」「普遍性を見出す」 effect A [ifékt] 「Aをもたらす」 attribute A to B [ətríbju:t] 「AをBに帰する」 assign A to B [əsáin] 「AにBを割り当てる」 confess A [kənfés] 「Aを告白する」 tranquil [tráenkwi] 「静かな」「安らかな」 doubtless [dáutlis] 「無論」 scornful [skɔ:rnfəl] 「嘲る」 a premise [prémis] 「前提」「考え」 spring to my mind 「心に浮かぶ」 justify A [dʒʌstəfài] 「Aを正当化する」 overwhelming [əuvərhwélmiŋ] 「圧倒的な」 on principle [prínsəpl] 「原理に基づいて」 absolutely [æbsəlu:tli] 「全く」

NO 35 <ENGLISH COMPOSITION>



【1】 [英作文] 《神戸大》

解答時間 15分

次の文章は「徳川家康御遺訓」の一部です。下線部を英語に訳しなさい。

①人の一生は重荷を負うて遠き道をゆくがごとし。急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし。心に望みおこらば困窮したる時を思い出すべし。堪忍は無事長久の基^{もとい}。怒りは敵と思え。②勝つ事ばかり知りて負くる事を知らざれば、害その身にいたる。己を責めて人をせむるな。及ばざるは過ぎたるよりまされり。

【2】 [英作文] 《神戸大》

解答時間 15分

次の文章の下線部(1), (2)を英語に訳しなさい。

①自分は中流である, と思っている人が 91 パーセントを占めているという。この統計を新聞で見たとき, 私はこれは学校給食の影響だと思った。

毎日一回, 同じものを食べて大きくなれば, そういう世代が増えてゆけば, そう考えるようになって無理はないという気がした。

②小学校の頃, お弁当の時間というのは, 嫌でも, 自分の家の貧富, 家族の愛情というか, かまってもらっているかどうかを考えないわけにはいかない時間であった。

向田邦子『無名仮名人名簿』(一部改変)

【3】 [英作文] 《神戸大》

解答時間 15分

次の文章の下線部(1), (2)を英語に訳しなさい。

読書の面白さの一つは、読んだ本について、他の人とコミュニケーションが取れるということだ。

相手がその本を読んでいないときには、是非にと推薦する楽しみがある。

(1)自分の感動したものについて、それを誰かに教え、その人にも感動を味わってもらいたいという気持ちを抱く人は多いだろう。

また、すでに読んだという人と、感想を語り合うことも、もちろん楽しいことだ。(2)見ず知らずの人とでも、同じ本を読んでいたというだけで、仲良くなれることもある。同じ感想を抱いていれば、それで大いに盛り上がるだろうし、違っているなら、どう違うのかを話し合うことで、自分の考えの幅を広げることができるだろう。

NO 36



【1】 〔長文英作文〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本語の下線部を英訳しなさい。

生き物の生命の営みの奥深さを知ると、生命がいとおしく思えてくる。人間だけが特別ではないと分かる。それによって、自分が人生の中心という考え方に陥らないでいられる。命の実感を失いがちな現代の子どもたちには最も必要なことかもしれない。

【2】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部の意味を日本語で表せ。

Like Galileo, Newton stressed the importance of comparing theories and models with experiments and observations of the real world, and always carried out relevant experiments himself, whenever possible, to test his ideas. This is so deeply ingrained* as part of the scientific method today that it may seem obvious, even to non-scientists, and it is hard to appreciate the extent to which, even into the seventeenth century, many philosophers would speculate about the nature of the physical world in an abstract way, without ever getting their hands dirty in experiments. The classic example is the argument about whether two different weights dropped from the same height at the same time would hit the ground together.

(注) ingrained [ingréind] 「深く染み込んだ」「根深い」

【3】 〔長文総合〕《東京大》

解答時間 30 分

次の英文を読み、以下の設問に答えよ。

Mrs Stone drove the grey car through the flat country interlaced with tumbledown stone walls. Her son sat stiffly beside her. Both he and his mother felt sick with dread. To whatever she said, he answered nervously, ‘Yes, but ...’

‘Father and I are coming ((1)) three weeks. Mr Jennings said that was the earliest we could. Now, that isn’t very long, is it, my boy?’

(2) Yes, but...’ What he meant to say was, ‘It is ages.’ Every now and then Mrs Stone had to stop the car so that James could relieve himself behind a hedge. ‘What will happen,’ he said, suddenly desperate, as he climbed back into the warm car, ‘if I want to do that in class?’ ‘I suppose you’ll ask the teacher and he’ll let you (3) go.’

‘But suppose he won’t let me go?’

‘Of course he will. Teachers are quite kind, darling.’

‘Father said they weren’t.’

‘Schools were different when he was a boy.’ Mrs Stone was praying to God, (4) Make it go off all right. Make him not cry.’ But James was thinking, ‘I wish the car would crash, and I was killed.

No, not killed, but very badly hurt, and taken to hospital in an ambulance, and ⁽⁵⁾fussed over.' For the last few days, while his trunk was being packed, and name-tapes being ⁽⁶⁾sewn on his clothes, he had hoped to die before being delivered into the terrible unknown, and had several times thought of suicide; but he had always realised in time that there were a few days, or even hours, left in which the (7) for which he prayed might happen — an earthquake might swallow up the school, killing the Jenningses and all the teachers.

'Look, there's an airport,' said Mrs Stone. James would not look at it, but murmured, 'That means we must be nearly there.' An aeroplane flew low over their heads as they turned a corner, and saw the grey solid school-house standing beyond stretches of playing fields. This was James's last moment; thirteen weeks was forever, too long to wait before resuming a life which, ⁽⁸⁾although not appreciated at the time, now seemed Heaven. His mother had told him often that the school was more like a private house than a school; he saw now that this was not true. It might have reminded other boys of their homes, but to James it was obviously an institution, for even at a distance it lacked the luxurious air of a hotel. He clasped his mother's tweed sleeve and said, 'Stop the car.'

(1) 空所(1)を埋めるのもっとも適当な語は次のどれか。

- (a) before (b) during (c) for (d) in (e) within

(2) 下線部(2)で少年が言おうとした内容にもっとも近い意味をもつ言い方は次のどれか。

- (a) 'Yes, it is, but I am old enough to bear it.'
(b) 'Yes, you are right, but it is too long for me to bear.'
(c) 'Yes, it isn't very long, but we live in different ages.'
(d) 'Yes, I think so, but Father is too old to come all the way.'
(e) 'Yes, I understand, but you are saying so because of your age.'

(3) 下線部(3)で想定されている行き先はどこか。日本語で書け。

(4) 下線部(4)を日本語に訳せ。

(5) 下線部(5)の意味は次のどれか。

- (a)ぐっすり眠らせてもらう (b)まったくほうっておかれる
(c)おおげさに騒ぎ立てられる (d)とりあえず手当てを受ける
(e)じっくり相談にのってもらう

(6) 下線部(6)の動詞の原形と同じ発音をもつ語は次のどれか。

- (a) saw (b) sea (c) sigh (d) so (e) sue

(7) 空所(7)を埋めるのにもっとも適当な語は次のどれか。

- (a) catastrophe (b) goodwill (c) murder
 (d) schedule (e) struggle

(8) 下線部(8)を日本語に訳せ。

(9) 次の(a)から(e)のうち本文の内容と合致するものを1つ選べ。

- (a) Both James and his mother were dreadfully tired of driving through the flat country and wished to stop if they could.
- (b) James thought he might as well have died as be taken to hospital in an ambulance before entering the school.
- (c) When Mrs Stone tried to turn her son's attention to an airport, her words were ignored by the boy, who had never expected that there was any airport near the school.
- (d) James felt that this was his last moment because he saw the school-house standing inescapably before him after all his desperate prayers.
- (e) Unlike other boys James was disgusted with the appearance of the school, all the more as it reminded him of his own home rather than a hotel.

【2】 relevant [réləvənt] 「関連する」 whenever possible 「可能な場合は」 appreciate A [ə'pri:ʃi:ɪt] 「Aを評価する」 speculate about A [spékjʊləit] 「Aについて思索する」 abstract [æbstrækt] 「抽象的な」

【3】 interlace A with B [ɪntə'leɪs] 「AとBを組み合わせる」 「AとBを織り交ぜる」 tumbledown 「朽ち果てた」 stiffly [stɪf] 「硬い」 「こわばった」 dread [dred] 「恐怖」 nervously [nə:'rvəslɪ] 「神経質に」 「ピリピリと」 relieve A [rɪli:v] 「Aを解放する」 a hedge [hedʒ] 「垣根」 desperate [déspərit] 「絶望して」 ambulance [æmbjələns] 「救急車」 deliver A [dɪlɪvər] 「Aを配送する」 suicide [sú:əsàid] 「自殺」 murmur [mə:'rmər] 「つぶやく」 stretch [stretʃ] 「拡張」 「広がり」 resume A [rizjú:m] 「Aを再開する」 lack A 「Aを欠いている」 clasp [klæsp] 「留める」 「締める」

NO 37



【1】 〔長文英作文〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本文の下線部の意味を英語で表しなさい。

変化をどう受け入れていくかで人生が変わっていきます。変化を拒絶すれば、思いどおりにならない現実に直面し、ストレスを感じることでしょう。「昔は良かったのに」といつまでも悔やんだり、懐かしんで過ごすことになります。「変化は当たり前のこと」と柔軟に受け入れていけば、人生の流れと調和しながら生きることができます。

【2】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の意味を日本語で表せ。

It is true that science requires analysis and that it has fractured into microdisciplines. But because of this, more than ever it requires synthesis. Science is about connections. Nature no more obeys the territorial divisions of scientific academic disciplines than do continents appear from space to be colored to reflect the national divisions of their human inhabitants.

【2】 analysis [əˈnæləsɪs] 「分析」 synthesis [sɪnθəˈsɪs] 「統合」 territorial [təˈrɪtɔːriəl] 「領域」 a discipline [dɪˈsɪplɪn] 「区分」 an inhabitant [ɪnˈhæbɪtənt] 「住人」

【3】 〔英文解釈〕《京都大》

解答時間 40 分

次の文の下線部をほどこした部分(1)(2)を和訳しなさい。

‘But what can we do?’ This is the question that is likely to be asked by those who are at all sensitive to the avoidable suffering that is being endured today throughout the world. Some will be impatient at the suggestion that, if we seek to bring about some widespread and permanent improvement in the conditions responsible for this suffering, we must pause to think. ⁽¹⁾They would be even more impatient if they were told that, in a time of such stress, it is nevertheless worth while for us to overhaul our mental habits, to attempt to find reasons for our beliefs, and to subject our assumptions to rigorous criticisms. Yet, apart from idle thinking more aptly described as daydreaming, thinking is always purposive. To think effectively is to think to some purpose.

Now, if we wish to play an effective part as members of a community, we must avoid two opposed dangers. ⁽²⁾On the one hand there is the danger of rushing into action without thinking about what we are doing, or — which in practice comes to the same thing — by taking it for granted that it is all right to do as others do, although we don’t in the least know why they act thus. On the other hand, there is the danger of indulging in an academic detachment from life. This is the peculiar temptation of those who

are prone to see both sides of a question and are content to enjoy an argument for its own sake. But thinking is primarily for the sake of action. No one can act wisely who has never felt the need to pause to think about how he is going to act and why he decides to act as he does.

【3】 avoidable [əvɔɪdəbl] 「避けることができる」 endure A 「Aに耐える」 impatient [ɪmpéɪfənt] 「我慢できない」 the suggestion that SV... 「SV...という提案」 widespread [wáɪdspréd] 「広範囲な」 permanent [pə:rmənənt] 「永続的な」 pause [pɔ:z]to V 「立ち止まってVする」 overhaul A 「Aを検討する」 subject A to B 「AをBに従わせる」 assumption [əʃʌmpʃən] 「前提」 rigorous [rígərəs] 「厳密な」 aptly [æptli] 「妥当な、適切な」 purposive [pə:rpəsɪv] 「目的を持つ」 effective [ɪféktɪv] 「効果的な」 opposed [əpóuzd]to A 「Aに反する」 in practice 「実際」 indulge in A[ɪndʌldʒ] 「Aに耽る」 detachment [dɪtætʃmənt] 「遊離」 peculiar [píkju:ljər] 「妙な、変な」 temptation [temptéɪfən] 「誘惑」 be prone to V[proun] 「Vしがちである」 be content to V 「Vして満足する」 for one's own sake 「～自身のため」

NO 38



【1】 [長文英作文] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本語の下線部を英訳しなさい。

自宅でくらししていると、いろいろなものがほとんど自動的にすすんでいるように思えたよね。食事だって洗濯だって、みんなお母さんまかせだった。あの人、そんなことを子どもに恩着せがましく言う人じゃないから、きみだってそう気にもとめなかったんじゃないかな。

でも、ひとりぐらしを始めると、まあいろいろとわかってくるじゃない、そういうことが。それで両親に感謝!っていうのがぼくの言いたいことじゃない。感謝なんかしなくていいから、ちょっと呆然としてほしいんだ。そうか、そういうわけだったのか。世の中そんなふうにできていたのかって。

【2】 [英文解釈] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の意味を日本語で表せ。

One way in which we evade responsibility for our actions is to hide behind the advice of others. Indeed, one of the main reasons we ask other people what they think is that we hope they agree with what we want to do, and so provide external validation for our choice. Lacking the courage of our own convictions, we seek strength in those of others.

【2】 evade A[livéid] 「Aを逃れる」 external [ekstə:rnel] 「外の」 validation [v`ælədèiʃən] 「妥当性」 (validate A[v`ælədèit] 「Aを正当化する」) a conviction [kənvikʃən] 「確信」「信念」

【3】 〔英文解釈〕《京都大》

解答時間 40 分

次の文の下線部をほどこした部分(1)(2)(3)を和訳しなさい。

(1)The whole notion of admiring Nature, and feeling a sort of religious awe in the presence of glaciers, deserts or waterfalls, is bound up with the sense of man's littleness and weakness against the power of the universe. The moon is beautiful partly because we cannot reach it, the sea is impressive because one can never be sure of crossing it safely. Even the pleasure one takes in a flower — and this is true even of a botanist who knows all there is to be known about the flower — is dependent partly on the sense of mystery. But meanwhile man's power over Nature is steadily increasing. With the aid of technology we could literally move mountains: we could even, so it is said, alter the climate of the earth by melting the polar ice-caps and irrigating the Sahara. Isn't there, therefore, something sentimental in preferring bird-song to swing music and in wanting to leave a few patches of wildness here and there instead of covering the whole surface of the earth with a network of motorways flooded by artificial sunlight? The question only arises because in exploring the physical universe man has made no attempt to explore himself. Much of what goes by the name of pleasure is simply an effort to destroy consciousness. (2)If one started by asking, what is man? what are

his needs? how can he best express himself? one would discover that merely having the power to avoid work and live one's life from birth to death in electric light and to the tune of tinned music is not a reason for doing so. Man needs warmth, society, leisure, comfort and security: he also needs solitude, creative work and the sense of wonder. If he recognized this he could use the products of science and industrialism eclectically*, applying always the same test: does this make me more human or less human? He would then learn that the highest happiness does *not* lie in relaxing, resting or playing poker. And the instinctive horror which all sensitive people feel at the progressive mechanization of life would be seen not to be a mere sentimental archaism**, but to be fully justified. (3)For man only stays human by preserving large patches of simplicity in his life, while the tendency of many modern inventions is to weaken his consciousness, dull his curiosity, and, in general, drive him nearer to the animals.

*eclectically: selectively

**archaism: preservation of what is old

【3】 notion 「概念」「考え」 religious [rɪlɪdʒəs] 「宗教的な」 awe [ɔ:] 「畏怖」 in the presence of A 「Aを前にして」 glacier [glɪʃɪər] 「氷河」 waterfall 「瀑布」 impressive [ɪmˈprɛsɪv] 「印象的な」 a botanist [bəˈtænɪst] 「植物学者」 literally [lɪˈtərəli] 「文字通り」 alter A [ɔ:lter] 「Aを変える」 irrigate A [ɪrəˈɡeɪt] 「Aに水を引く」 sentimental [sɛntəˈmɛntəl] 「感傷的な」 patch [pætʃ] 「部分、つぎはぎ」 explore A [ɪksplɔ:r] 「Aを探検する」 consciousness [kənˈʃənsɪs] 「意識」 tinned [tɪnd] 「缶に入った」 solitude [səˈlɪtju:d] 「孤独」 instinctive [ɪnˈstɪŋktɪv] 「本能的な」 progressive [prəʊˈɡresɪv] 「進行する」

NO 39



【1】 〔長文英作文〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本語の下線部を英訳しなさい。

虹にはいくつの色があるかと日本人に尋ねれば、7に決まっているさという
答えが返ってくるだろう。だが世界のいろいろな言語を視野におくと、この問い
に対する答えは、実は思ったほど簡単ではないのである。空にかかる美しい虹の
色の数は言語により異なるのだ、ということを知っている人は今でも少ない。

【2】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の意味を日本語で表せ。

Of the total energy produced on Earth since the industrial revolution began, half has been consumed in the last twenty years. Disproportionately it was consumed by us in the rich world; we are an exceedingly privileged fraction.

Today it takes the average citizen of Tanzania almost a year to produce the same volume of carbon emissions as is effortlessly generated every two and a half days by a European, or every twenty-eight hours by an American. We are, in short, able to live as we do because we use resources at hundreds of times the rate of most of the planet's other citizens.

【2】 industrial revolution [rɪˈvɒlúːʃən] 「産業革命」 disproportionately 「バランスの悪いことに」 (disproportionate [dɪsˌprɒpɔːrʃənɪt]) exceedingly 「非常に」 (exceeding [ɪkˈsiːdɪŋ]) privileged [ˈprɪvəlɪdʒd] 「特権的な」 Tanzania [tænˈzɑːniːə] 「タンザニア」 an emission [ɪmɪˈʃən] 「排出」 in short 「要するに」

【3】 〔英文解釈〕《京都大》

解答時間 20 分

次の文を和訳せよ。

History begins when men begin to think of the passage of time in terms not of natural processes — the cycle of the seasons, the human life-span — but of a series of specific events in which men are consciously involved and which they can consciously influence. History, says *Burckhardt, is “the break with nature caused by the awakening of consciousness”. History is the long struggle of man, by the exercise of his reason, to understand his environment and to act upon it. But the modern period has broadened the struggle in a revolutionary way. Man now seeks to understand, and to act on, not only his environment but himself; and this has added, so to speak, a new dimension to reason, and a new dimension to history.

*Burckhardt ブルクハルト(1818-97) : スイスの歴史家

【3】 the passage of time 「時の経過、時の流れ」 in terms of A 「Aの観点で」 by the exercise of A 「Aを行使して」 broaden A 「Aを広げる」 so to speak 「いわば」 dimension [də'mɛnʃən] 「次元」

NO 40



【1】 〔長文英作文〕 《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本文の下線部を英訳しなさい。

友達を持つとき、次のことを考えたいものだ。まずは一人くらい「冷たい友達を持つ」ことがたいじである。困ったときに助けるのが友達であるが、ほんとうの友は、こきざみに助けるのではなく、たいじなときにたけ助け、ふだんは知らんふり。本人が自力できりぬけるよう遠くで見えていてくれるのだ。

【2】 〔英文解釈〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の英文の意味を日本語で表せ。

Humor is the broad term used to describe situations, characters, speech, writing or images that amuse us. At the physical level, it is no more than an involuntary response to a stimulus — laughter. Although we can imitate this in social contexts where we feel an obligation to be polite, genuine laughter comes upon us spontaneously; it is beyond our control. It may be a motor response, but we seek out experiences that will result in laughter, and if we don't get the physical reaction, we don't feel that we have been amused.

【2】 involuntary [inváləntəri] 「無意識の」 a stimulus [stímjʊləs] 「刺激」 a context [kántekst] 「文脈」「場」 genuine [dʒénjuɪn] 「本当の」 spontaneously 「自然に」「自発的に」 result in A 「結局 A となる」 physical [fízikel] 「身体的な」

【3】 〔英文解釈〕《京都大》

解答時間 40 分

次の文を和訳せよ。

Nowadays we speak quite easily and naturally of the crisis through which our civilization is passing. Without questioning the assumption that we are in the midst of a crisis, I should like to ask whether this feeling of crisis is not something inseparable from human life in any historical period. The more closely we examine the past, the more we find that it, too, is uneasy with its own sense of historical crisis and urgency. Sometimes, in retrospect, these crises look illusory, for mankind has survived some of its worst apprehensions; and then we have to remind ourselves that these men and women of the past felt their crisis with the same intimate uneasiness with which we feel ours.

【3】 naturally 「自然に」 assumption [ə'sʌmpʃən] 「前提」 inseparable [ɪnsə'perəbəl] 「切り離せない」 urgency [ə:'rdʒənt] 「緊迫性」 in retrospect [rɪ'trɒspɛkt] 「振り返ってみれば」 illusory [ɪ'lú:'seri] 「幻想の」 an apprehension [ə'pɹi'hɛnʃən] 「苦悩、不安感」 intimate [ɪntə'mət] 「身に迫る」

NO 41 <LISTENING//ENGLISH COMPOSITION>



【1】 [リスニング選択]

【2】 [英作文選択] 《神戸大》

解答時間 15 分

次の文章の下線部を英語に訳しなさい。

自分が自分について語ることは、つねに語り足りないか、語りすぎるかどちらかで、(1)自分の思いを過不足なく言葉にできるなんてことは起こりえない。だから、ぎりぎりのところでそれに触れそうな言葉を次々とつなげてゆくしか手がない。そして、(2)逆説的なことだが、言葉による完全な表現を断念した人間だけが、豊かな言葉を獲得してゆくことができる。

【3】 [英作文選択] 《神戸大》

解答時間各 20 分

次の文章の下線部(1)、(2)を英語に訳しなさい。

(1)人間と他の動物とを分け隔てる大きな特徴のひとつは、見たり聞いたりしたことをそのまま鵜呑みにして行動するのではなく、いろいろな概念やことばによって意味をつかむことができる点にある。また、多くの経験を知識に変え、その知識を実践に応用することによって、さらにしっかりした知識を創り出していくことができる点にある。

(2)自分で勉強して新たに何かがわかったり、何かができるようになると、うれしいし、もっと学びたくなる。身につけた知識やスキルを使いたくなる。学んだ知識やスキルの意味を理解し、さらに新しいことを学び、それを他の人々や社会のために使っていけるのは、人の心の素晴らしいはたらきである。

(安西祐一郎『心と脳－認知科学入門』[一部改変])



【1】 no more … than ～

(1) [CHECK]

- 1 A whale is **no more** a fish **than** a horse is.
鯨が魚でないのは、馬が魚でないのと同じことである。
- 2 I can **no more** swim **than** a hammer.
私は金づちと同様泳げない。
- 3 I **no more** believe in UFO's **than** you do.
私は君と同じで UFO が実在するなんて信じない。
- 4 I know **no more** about him now **than** when I first met him.
私ははじめて彼に会ったとき同様、今も彼についてよく知らない。
- 5 The country is **no more** secure now **than** it was previously.
その国は以前と同様に今も安全ではない。

(2) [CHALLENGE1]

Computers store whatever information they are told to store. A video camera is designed with the sole purpose of capturing light and sound information within its field of view. The brain, however, is something we have very little direct control over. So you have **no more** direct control over how much of a textbook you can remember **than** you do over your blood pressure.

〈関西大〉

(3) [CHALLENGE2]

The behavior of many animals looks very clever, but often the cleverness is something that is automatic and cannot be varied. Such behavior is called a fixed-action pattern. For instance, wasps could **no more** alter the way they build their beautiful, complex paper nests **than** they could change their yellow and black colors. Wasps do not always understand how to make their nests. There are many examples of such unlearned activities, which are often called innate behavior, or instinct.

〈大阪市立大〉

(4) [CHALLENGE3]

I remember on my first trip to Europe going alone to a movie in Copenhagen. In Denmark you are given a ticket for an assigned seat. I went into the cinema and discovered that my ticket directed me to sit beside the only other people in the place, a young couple locked in the sort of passionate embrace associated with dockside* reunions* at the end of long wars. I could **no more** have sat beside them **than** I could have asked to join in — it would have come to much the same thing — so I took a place a few quiet seats away.

dockside* 波止場 reunion** 再会 〈福井大〉

【2】 not … any more than ～

(1) [CHECK]

- 1 A whale is **not** a fish **any more than** a horse is.
鯨が魚でないのは、馬が魚でないのと同じことである。
no more A than B = not A any more than B
- 2 I **don't** understand it **any more than** you do.
君(がわからないの)と同様私にも理解できない。

(2) [CHALLENGE]

Moments of silence in human encounters do **not** signal the interruption of communication **any more than** a rest in music or a pause in dance is devoid of meaning. Speech and silence are complementary forms of communication; each acquires significance from the other. Silence is often as eloquent as speech. Silence can signal apathy, confusion, repressed hostility, thoughtfulness, sadness, or awe; it can voice an infinity of meanings.

〈防衛大〉

(3) [CHALLENGE]

If humans were truly at home under the light of the moon and stars, we would go in darkness happily, the midnight world as visible to us as it is to the vast number of nocturnal species on this planet. Instead, we are diurnal creatures, with eyes adapted to living in the sun's light. This is a basic evolutionary fact, even though most of us **don't** think of ourselves as diurnal beings **any more than** we think of ourselves as primates or mammals or earthlings. Yet it's the only way to explain what we've done to the night: we've engineered it to receive us by filling it with light.

〈京都府立大〉

(4) [CHALLENGE]

Piaget argued children's understanding of morality was like their understanding of those water glasses. We cannot say that it is inborn, and we cannot say that children learn it directly from adults. It is, rather, self-constructed. Taking turns in a game is like pouring water back and forth between glasses. No matter how often you do it with three-year-olds, they are just **not** ready to digest the concept of fairness, **any more than** they can understand the idea of volume conservation. After surpassing the age of five or six, the children will play games, have arguments, and work things out together, thereby develop notions of fairness without the help of adults.

〈京都大〉

NO 43 《強調構文》



【1】 [英文解釈 I : 基本の確認]

次の英文(1)(2)(3)の下線部を和訳しなさい。

解答時間各 10 分

(1) [強調構文と関連語句]

It is probable that we have all at some time or other had the experience of chancing upon a passage quoted without indication of authorship, and exclaiming — “So-and-so must have written that.” In such a case, it is often not the thought that strikes us as familiar so much as the way in which the thought is expressed.

(注) quote A [kwout] 「A を引用する」 authorship [ɔ':θər:ʃɪp] 「原作者」 exclaim [ekskléim] 「叫ぶ」「絶叫する」

(2) [which/who を用いた強調構文]

There are many reasons for wanting to be honest. For some people it is a matter of trying to keep life simple; it is difficult for a habitual liar to remember what he or she said to whom. For others it is the anxiety or the threat of being found out which creates a keen desire to be honest in order to escape the consequences.

(注) habitual [həbɪtʃuəl] 「習慣的な」「いつもの」 threat [θret] 「脅威」

【1】 (1)chance upon A 「A に偶然出会う」 an indication [ɪndɪkɪ'eɪʃən] 「表示」 strike A as B [straɪk] 「A に B と思わせる」

(3) [疑問詞の強調構文] 《長崎大》

“I am a modern lady,” she said. “So perhaps we have different ideas. But that has nothing to do with it. I have agreed to do as you have asked me. Now all that you need to do is to let me see a photograph of this girl, so that I can know **who it is** I am going to be watching.”

【2】 [英文解釈Ⅱ：標準]

次の英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

解答時間 20 分

(1) 《長崎大》

次の英文は、「自分を物事を中心に」を置くことを勧めた英文である。

Staying centered is what enables you to maintain your identity within the context of a “we” reality. It requires that you remember what it is that makes you uniquely you and enables you to stay on course with your own path. It means that you continually ask the question “Who am I in relation to you?” and are clear about the answer. While it will be necessary, and even desirable at times, for you to be flexible, accommodating*, and adaptive*, it will be your responsibility to make sure not to become overly pliant*. The only thing you have to lose by not being vigilant* about this is yourself.

(注) accommodating[ə'kʌmədeɪtɪŋ]「協力的な」adaptive [ədæptɪv]「順応的な」pliant [pláɪənt]「従順な」「言いなりになる」vigilant [vɪdʒɪlənt]「用心深い」

【2】(1) maintain A [meɪntéɪn]「Aを維持する」context [kántekst]「文脈」continually [kəntínjuəli]「絶えず」in relation to A「Aとの関係で」flexible [fléksəbl]「柔軟な」make sure to V「確実にVする」

(2) 《慶應大》

Our brains are more than organic computers, programmed by genetic codes simply to respond to and act on a variety of stimuli. They house “us” — our personalities. All of our experiences, from our earliest years onwards, are recorded here, and those experiences continually shape us. Most actual decisions and actions result from a lengthy process of interaction with other people and within ourselves. It is this process, as much as our genes, which helps our brains to make the millions of decisions that cause us to think and act. Genes might build our brains, but we are more than our brains; we are creatures with individual memories and experiences, creatures with free will.

(注) stimuli[stímjuli] 「刺激」 (stimulus の複数形[stímjuləs])

(2) more than A 「A 以上のもの」 organic [ɔːrgænik] 「有機的な」 program A [próugr`æm] 「プログラム化する」 genetic [dʒənetik] 「遺伝子の」 respond to A 「A に反応する」 from ~ onwards 「～からずっと」 lengthy [lénkθi] 「長さ」 interaction [intə`ækʃən] 「相互作用」 a creature [kri:tʃər] 「生き物」
発展問題 prize 「A を賞賛する」 a possession [pəzəʃən] 「所有(物)」 congratulate oneself upon A [kɒngrætʃəlèit] 「A をありがたく思う」 tolerance [tələrəns] 「寛大、寛容」 diminish [dəmɪniʃ] 「縮小する」 is bound to V 「かならず V する」 spill over 「溢れ出る」 striking [stráikiŋ] 「目立つ、著しい」 find A in B 「A を B に見出す」

発展問題

〔英文解釈Ⅲ：東大京大阪大一橋入試問題に挑戦〕

解答時間 40 分

次の英文の下線部を和訳しなさい。《東京大》

It is, and has been for a long time, the most prized of our national possessions: a sense of humour. ⁽¹⁾How much and how often we congratulate ourselves upon it: what a moral support it has been to us throughout two wars, how it made us less worried by the coming of rationing* and the dropping of bombs, how since the war it has enabled us to look with tolerance on the diminishing of the Empire. A modern educated Briton will be ready to smile at the description of him as a communist* or a reactionary*, and he is likely to remain self-satisfied under the suggestion that the nation he belongs to is a second-class power: but it will be unwise to suggest to him that he lacks a sense of humour. Those are fighting words. Such a national characteristic is bound to spill over into literature, and the most striking difference between the British and the American novel over the past half-century is the comic approach made by British novelists, compared with American novelists. ⁽²⁾It is through humour, using the word in the broad sense that we employ when congratulating ourselves on the depth and variety of our own sense of humour, that the British imagination has found its characteristic form in the modern novel.

(注) rationing 「配給制」 (ration [ræʃən]) communist[kəmjunist] 「社会主義者」 a reactionary [ri(:)æksənərist] 「反動家」 prize A[praizd]

基本構文 [強調構文]
〔基本構文〕

1. **It is this watch that** my uncle gave me as a keepsake.
2. **It was her mother who** objected to their marriage.
3. **It was yesterday that** Mike bought this racket.
4. **It is through play that** a child learns and grows.
5. **It was because he was ill that** he decided to return home.
6. **It was not what he said but the way he said it that** made me suspicious.
7. **It is how effectively you use the available time that** counts.

※波線部が強調部分

1. 〈強調構文：名詞の強調〉
私のおじが形見にくれたのはこの時計である。
2. 〈強調構文：〉
2人の結婚に反対したのは彼女の母親だった。
3. 〈強調構文：副詞の強調〉
マイクがこのラケットを買ったのは昨日でした。
4. 〈強調構文：前置詞句(副詞句)の強調〉
子供が学び、成長するのは遊びによってである。
5. 〈強調構文：副詞節の強調〉
彼が帰国の腹を決めたのは病気だったからだ。
6. 〈強調構文：相関語句(not A but B)の強調〉
疑わしいのは彼の発言ではなくて、彼の言い方であった。
7. 〈強調構文：名詞節(疑問詞 SV)の強調〉★この場合の count は「重要である」の意味。
重要なのは使える時間をどのように有効に使うかである。

構文解説

(1) [強調構文]

文中のある部分(名詞要素または副詞要素)を強めるために、その部分を **It is / that** で挟んで出来た形を強調構文と呼ぶ。「...するのは文中のある部分(名詞要素または副詞要素)だ」の意味を表す。that の代わりに強調する部分が「人」の場合は who, 「物」の場合は which が用いられることもある。例「He was taken to this hospital yesterday.」 「彼は昨日この病院には運び込まれた」の文から、3通りの強調構文が可能である(破線部が強調されている要素)。①**It was he that(who)** was taken to the hospital yesterday. 「昨日この病院には運び込まれたのは、彼だ」②**It was to the hospital that** he was taken yesterday. 「昨日彼が運び込まれたのは、この病院だ」③**It was yesterday that** he was taken to the hospital. 「彼がこの病院に運び込まれたのは、昨日だ」

(2) [強調構文の it：強調構文の否定文・疑問文]

強調構文の否定文は「It isn't ... that ~」、疑問文は「Is it ... that ~?」の語順になる。例「It wasn't to the park that I wanted to go yesterday.」 「昨日私が行きたかったのは、公園ではなかった」。「Is he that often studies in this library?」 「この図書館でよく勉強するのは彼ですか」

(3) [強調構文の it : 疑問詞の強調構文]

強調構文を用いて、疑問詞を強調する場合は、“疑問詞 is it that ...?”の語順となる。例“What was it (that) made her so sad?”「一体何が彼女をそんなにも悲しませたのか」。間接疑問文の場合は、“疑問詞 it is that ...”となる。例“I don’t know how it is (that) we should deal with the problem.”「どのように、この問題を扱うべきか私はわからない」。いずれの場合も that は省略可能である。

(4) [強調構文の it : that の省略]

強調構文“It is ... that ~”の that が省略されることがある。例“It was just the man our company has long been looking for.”「私たちの会社が長く探していたのは、まさにそのような人だ」

(5) [強調構文の it と形式主語構文の it の識別]

“It is ... that ~”の形では、①強調構文の場合、②形式主語構文の場合、③it が前出の語を指す代名詞で、that が関係代名詞の場合がある。特に、①②の区別は重要である。識別方法は以下の通り。

手順① : It is ... that ~の“...”にくる要素で識別する

It is ... that ~の“...”にくる要素が、形容詞の場合は形式主語構文(形容詞、動詞を、強調構文で強調することはできない)、副詞要素の場合は強調構文(副詞要素は、補語になれないため)である。

例“It was only then that he realized the effectiveness of reading.”「その時になって初めて、彼は読書の効用に気づいた」“only then”と副詞が来ている段階で強調構文とわかる。

手順② : It is / that を取り除いて識別する

①で判別できない場合には、It is ... that ~が強調構文なのか形式主語構文なのかを区別するために、It is と that を取り除いて考える。It is / that を取り除いて文が完全な文になれば強調構文、不完全な文であれば形式主語構文である。例“It was two years ago that I first met him.”[強調構文]「私が初めて彼と出会ったのは2年前のことだ」⇒Two years ago I first met him.=完全文。“It is a fact that they hide an important fact.”[形式主語構文]「彼らは重要な事実を隠しているのは事実だ」⇒a fact they hide an important fact では、a fact の文法的働きが説明できない。

手順③ : it が前出の語を指す代名詞で、that が関係代名詞の場合

例“Language is one of our greatest inventions. It is the means that enables us to communicate effectively.”「言語は、私たちの最大の発明の一つである。それ(言語)は、私たちが意思伝達を効果的に行うことができる手段である」it は language を受ける代名詞。that は主格の関係代名詞。

(6) [わかりにくい強調構文 : It is 名詞要素 that ~]

形だけでは、強調構文なのか、それとも It が前出の名詞を受ける代名詞で that が関係代名詞の場合なのかわかりにくい場合がある。例“He was reading a book then. It was the book that I had given him on his birthday.”「その時彼は本を読んでいた。それは、私が彼の誕生日にあげたものだった」。もし“He was reading a book then.”がなく“**It was the book that I had given him on his birthday.**”だけであれば、強調構文ともとれる可能性がある「私が彼の誕生日にあげたのはその本だ」

(7) [強調構文と関連語句]

強調構文は、強調する部分に関連語句(not A but B 「A でなく B など」)が用いられる場合がある。例“It was not I but you that told a lie to her.”「彼女に嘘をついたのは、私ではなくあなただ」この形が発展して、“but you”が後ろに移動すると、“I was not I that told a lie to her, but you.”となる。強調構文と関連語句がともに用いられる場合は、重要な語句を後ろに移動させる場合があることに注意しよう。

NO 44 《強制倒置》



【1】 [英文解釈 I : 基本の確認]

次の英文(1)～(3)の下線部を和訳しなさい。(3)は全訳しなさい。

解答時間 20 分

(1) [never (α) 助動詞 SV...]

In my experience the problem of what to do in life was not made any easier by those who were in charge of my education. Looking back, it seems most odd that never once in all the years that I was at school was there any general discussion about careers.

(注) in charge of A 「A を担当する」

(2) [Only (α) 助動詞 SV...]

Only recently, in fact, have men conquered, by means of the spoken word, any space larger than that over which the natural voice will carry, whereas down through the long course of history, writing has been of inestimable service in bringing men and nations closer together.

(注) inestimable [inéstəməbl] 「計り知れないほど大きい」

【1】 (2)conquer A [kánkə] 「A を征服する」 SV...whereas SV～ 「SV...、かたや SV～」 of service 「役立つ」 (of 抽象名詞=形容詞)

(3) [nor 助動詞 SV...] 《東北大》

The earth is not the center of the universe, nor do heavy bodies seek the center of the earth as their natural resting-place*, nor is the earth surrounded by series of circles on which the other heavenly bodies revolve.

(注) resting-place 「落ち着くべき場所」

【2】 [英文解釈Ⅱ：標準]

次の英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

解答時間 20 分

(1) 《埼玉大》

Healthcare is now the world's largest industry. Just as the lumber industry depends upon trees for its existence, so the healthcare industry depends upon illness. The lumber industry worries about a shortage of trees, but the healthcare industry is confronted by an even greater problem. Never before, at least in the developed world, have we lived such healthy lives or lived in such a healthy environment, and never before have there been so many healthcare workers in search of work.

③series of A 「一連の A、いくつもの A」 heavenly bodies 「天体」 revolve(vi) [riválv] 「回る」

【2】 (1)healthcare 「医療」 lumber [lʌmbər] 「木材」 S be confronted by[with] A 「S は A に直面する」 in search of A 「A を探して」

(2) 《島根大》

But although she should and, I am sure, will always feel greatly loved by you, your new daughter will never need to feel your love more than during the first few months and years of her life. Many psychologists tell us that parental influence on their children is never greater than during this early period. Since your baby is helpless and totally dependent on someone else to create her sense of security, of course, it is up to you to provide it through verbally expressing your feelings for her, through holding her often and firmly, and through patiently and lovingly attending to all her needs. Never will the bond of communication between you and your child be stronger, and never will the strength of that bond be more important, for it is the only thing which will shape her character, her well-being, and her general outlook on life. The first six years are essential to your success. And although it is a mere span of years in your calendar, it is the most insecure of times in hers.

(2)parental [pə'rentl] 「親の」 security [sɪkjʊərəti] 「安心」 it is up to A to V 「VすることはAの責任である」 verbally [və:'rbeli] 「言葉で」 attend to A 「Aの世話をする」 a bond 「絆」 well-being 「幸せ」 insecure [ɪnsɪkjʊər] 「不安な、心細い」

発展問題

〔英文解釈Ⅲ：東大京大阪大一橋入試問題に挑戦〕 《東京大》

解答時間 20 分

Jozef met and married a woman (my future mother-in-law) who was also a concentration-camp survivor, and, in 1948, they moved to Los Angeles, where my wife, Marie, was born. When Marie was growing up, Jozef told her little of his life before 1948 or of his parents, and he became angry when people asked him for details. He kept a photograph of his father on his desk, but not until Marie was in her forties, and her father in his eighties, did he even show her a picture of his mother. Only in the last ten years of his life did Jozef gradually begin to reveal more about his childhood and his wartime experiences, and to take out his stored photographs.

(注) a concentration-camp survivor 「強制収容所を生き延びた人間」

発展問題 wartime [wɔːrtàɪm] 「戦時」 reveal A [rɪvɪ:l] 「A をあきらかにする」 store A 「A を補完する」

基本構文 [倒置構文 否定語文頭による倒置型]

1. **Never** did I dream of such a happy result.
2. **At no time** does the field look so beautiful as in early autumn.
3. **Never before** has it been possible for so many to have so much firsthand knowledge of other lands and peoples.
4. **Seldom** does he get angry.
5. **Little** did I imagine that my plan would go wrong.
6. **Only yesterday** did I know the fact.
7. I can't read French, **nor** can I speak it.
8. He doesn't like beef. **Neither** do I.

1. 〈Never 助動詞 SV...〉
このような幸福な結果になるとは、全く夢にも思っていなかった。
2. 〈否定の副詞 助動詞 SV...〉
初秋ほど、その野原が美しく見えるときはない。
3. 〈Never 助動詞 SV...〉
これほど多くの人が他の国々や国民についてこれほど多くの知識を直接得ることができたことはなかったことだ。
4. 〈Seldom/Rarely 助動詞 SV...〉
彼はめったに腹を立てない。
5. 〈Little 助動詞 SV...〉
計画がうまくいかないなんて想像もしなかった。
6. 〈Only 副詞要素 助動詞 SV... 「～してはじめて SV...」〉
昨日になってやっとその事実を知りました。
7. 〈否定文, nor 助動詞 SV〉
私はフランス語が読めないし、話すこともまたできない。
8. 〈否定文, neither 助動詞 SV〉
彼は牛肉が好きではありません。私もです。

構文解説

(1) [倒置構文]

英語の文は、通常”S+V...”だが、特定の語句を強調したり、文の語調を整える場合に、語順を変えることがある。これを倒置構文と呼ぶ。倒置構文には、2種類ある。一つは、語順を変える場合[語順転倒]と、もう一つは、否定語句が文頭に出たために生じる場合である[強制倒置]と呼ばれるものである。

(2) [強制倒置 [否定の副詞(句・節)] が文頭に出る場合]

“not, never”の否定語および、“seldom, hardly”などの準否定語や、否定語句を含む前置詞句、副詞“only”によって修飾される副詞要素(語・句・節)が文頭に出ると、後続部が、倒置(疑問文と同じ語順)になる。例 Not until the day before yesterday did I realize my mistake. 「一昨日になってはじめて、私は自分の間違いに気づいた」 Little did we dream that she would reject our suggestion. 「私たちは、彼女が私たちの提案を断るとは全く思わなかった」

(3) [Neither(Nor) 助動詞 S.]

“Neither(Nor) 助動詞 S”. の形で、前の否定文を受けて、「～も(また)そうではない」の意味を表す。“So 助動詞 S”の形と同じく、So の後の助動詞は前の文の(助動詞)に合わせる。例 “She can’t speak French. Neither can I.” 「彼女はフランス語を話せない。—私も話せない」

(4) [仮定法での if の省略]

仮定法で、if 節の if が省略されると、主語と助動詞または were の語順が入れ替わって倒置となる(文語)。例 “Were it not for drinking water, we couldn’t live long.” (=If it were not for drinking water, we couldn’t live long.) 「飲み水がなければ、私たちは長く生きれないだろう」
“Had he taken the medicine in the morning, he wouldn’t have felt so sick.” (=If he had taken the medicine in the morning, he wouldn’t have felt so sick. 「朝に薬を飲んでいれば、そんなにしんどくならなかったであろう」
“Should he fail again, he would ask us for help.” (=If he should fail again, he would ask us for help.) 「彼は再び失敗したら、私たちに助けを求めるだろう」

(5) [Not only 助動詞 SV..., but also SV...]

“not only A but also B” 「A だけでなく B」の A、B に文が置かれる場合は、否定の副詞 not only が文頭にあるため、A の文は倒置(疑問文と同じ語順)となる。B の文は、通常の語順(平叙文)となる。例 “Not only is he good at soccer, but also he is an excellent pianist.” 「彼はサッカーが得意だけでなく、ピアノがこの上なくうまい」

(6) その他 [接続詞 as の後の倒置]

「～のように」を表す as の後で、“as 助動詞 S” と倒置となる場合がある。この場合の(助動詞)は主節の文の(助動詞)に合わせる。be 動詞・have 動詞(完了形)・助動詞であればその be 動詞・have 動詞(完了形)・助動詞を用いる。例 “There are few other people in the world who like to collect foreign items as do the Japanese.” 「日本人のように外国のものを集めたがる人々は世界にはほとんどいない」 “as do the Japanese” は、元の形 “as the Japanese like to collect foreign items” の “like to collect foreign items” を代動詞 do に変えたうえで、主語 (the Japanese) と do を入れ替えている。意味的な重点が the Japanese にあるため倒置が生じている。また、比較構文 “as ... as ~” で as ~ の部分に倒置が生じることがある。比較対象を強調するために、比較対象を後置している。例 “Children report around twice as many aggressive acts in their dreams as do adults.” 「子供は大人の倍近く夢の中で攻撃的な行為を報告している」

(7) その他 [than の後の倒置]

比較構文 “more ... than ~” で than ~ の部分に倒置が生じることがある。as の場合と同様に、比較対象を強調するためである。例 “Written language has a greater influence on future directions of the language than does spoken language.” 「書き言葉は話し言葉よりも言語の未来の方向に大きな影響を与える」 “than does spoken language” は、“than spoken language has an influence on future directions of the language” の “has an influence on future directions of the language” を does に変えて、主語 (spoken language) と語順を入れ換えてできたものである。

NO 45 《語順転倒》



【1】 [英文解釈 I : 基本の確認]

解答時間各 10 分

次の英文(1)～(5)の下線部を和訳しなさい。

(1) [MVS]

Among topics we discussed over lunch was the regrettable habit film directors then had of altering the plot of a novel to suit themselves, to the extent even of changing a sad ending into a happy one.

(注) regrettable [ˌrɪɡrɪˈtəbl̩] 「残念な」

(2) [CVS]

Science is based on careful observation and experiment enabling theories to be constructed which connect different experiences. Regularities in the workings of nature are sought which hopefully reveal the fundamental laws that govern the behaviour of matter and forces. Central to this approach is the willingness of the scientist to abandon a theory if evidence is produced against it.

(注) the workings of nature 「自然の営み」

【1】 (1) alter A [ɔːltə] 「A を変える」 plot 「筋」 to the extent of A 「A の程度(まで)」
 (2) an experiment [ɛkspɪrəˈmɛnt] 「実験」 construct A [kənˈstrʌkt] 「A を作りだす」 regularity [ˌrɛɡjʊləˈrɪti] 「規則性」
 reveal A [rɪˈvɪːl] 「A を明らかにする」 govern A [ˈɡʌvərn] 「A を司る」 abandon A [əˈbændən] 「A を捨てる」

(3) [OSV]

I heartily wish that in my youth I had had someone of good sense to direct my reading. I sigh when I reflect on the amount of time I have wasted on books that were of no great profit to me. What little guidance I had I owe to a young man who came to live with the same family in Heidelberg as I was living with.

(注) Heidelberg [háidelbæ:rg] 「ハイデルベルグ(ドイツ南西部の都市)」

(4) [過去分詞 V S]

By nature, Einstein was, according to all accounts, the gentlest of men, and by conviction he was a pacifist, yet he made intellectual discoveries that led the way to the invention of weapons with which the species could destroy itself. Inspired wholly by a love of knowledge for its own sake, and by an awe at the creation which bordered on the religious, he made possible an instrument of destruction with which the earth could be totally disfigured.

(注) pacifist [pæsəfɪst] 「平和主義者」

(4) by nature 「生来」 an account [əkaʊnt] 「説明」 conviction [kənvi:kʃən] 「信念、確信」 inspire A [ɪnspáɪər] 「A を鼓舞する」 (be inspired by A 「A に触発される」) awe [ɔ:] 「畏怖」 border on A [bɔ:rdər] 「A に触れる」 (on=接触) religious [rɪlɪdʒəs] 「宗教的な」 disfigure A [dɪsfɪgər] 「A を破壊する」

(5) [So 形容詞 is S that SV...]

So important is the role of the environment that talking of an “innate” tendency to be aggressive makes little sense for animals, let alone for humans. It is as if we were to assert that because there can be no fires without oxygen, and because the Earth is blanketed by oxygen, it is in the nature of our planet for buildings to burn down.

(注) assert that SV...[əse:rt]「～と主張する」 blanket A [blæŋkit]「Aを一面覆う」

(5) innate [inéit]「性来の」 aggressive [əgrésiv]「攻撃的な」 let alone A「Aは言うまでもなく」 oxygen [áksidʒen]「酸素」

発展問題 identify A[aidéntəfài]「Aを識別する」「Aを突き止める」 peak[peak]「頂き」「先端」 as a whole「全体として」 countless[káuntlis]「無数の」 provide[prəváið]「提供する」 clue[klú:]「手がかり」 path[pæθ]「小道」

発展問題

〔英文解釈Ⅲ：東大京大阪大一橋入試問題に挑戦〕

解答時間 30 分

次の英文を読んで下線部(1)(2)を和訳しなさい。

The view of the world below from the top of a mountain on a sunny day is very clear. We can easily identify the surrounding mountains, the valleys and rivers, the towns, farms and forest. (1)The historian who writes of the distant past can view that world from the mountain, although no two historians would agree completely on what they see. But there are no mountain peaks from which historians of the modern era can look over the past. Indeed, they often feel like a man lost deep in the forest: he can see the trees, but not even the forest as a whole. Yet, somehow, historians or political scientists studying our own age must try to identify the landmarks* that leads to the present. (2)They must select from the countless events of recent history those which seem the most important and which provide some clue to the mysteries of modern history. For only some understanding of the past enables us to know where we are and provides some paths through the forests in the future.

(注) a landmark [lændmà:rk] 「画期的な出来事」 as a whole 「…全体」 identify A [aidéntəfài] 「A を識別する」 countless [káuntlis] 「無数の」 clue [klu:] 「手がかり」

基本構文 [倒置構文 語順転倒型]

(1) [So 助動詞 S 型]

1. Should you run into trouble, I'll help, and **so will my father.**
2. He did not ignore our request, and **neither did she.**
3. I was unable to attend the party, **nor did I want to.**

1. 〈肯定文, and so 助動詞 S 「S もまたそうである」〉★助動詞は肯定文中の述部に合わせて変化
困ったことになったら、お助けします。私の父も助けてくれますよ。
2. 〈否定文, and neither 助動詞 S 「S もまたそうでない」〉★否定文. Neither 助動詞 S の形もある。
彼は我々の要請を無視しなかったし、彼女もしなかった。
3. 〈否定文, nor neither 助動詞 S 「S もまたそうでない」〉★否定文. Nor 助動詞 S の形もある。
私はそのパーティーに出席できなかったし、また出席したいとも思わなかった。

(2) [There V S...]

1. **There are many animals to see there.**
2. **There used to be an old temple here.**
3. **There still remains much to be done.**
4. **There is certain to be some opposition to your suggestion.**

1. 〈There is/are S 「S がある」〉★基本形
見るべき動物がたくさんいるよ。
2. 〈There used to be S 「かつて S があった」〉★used to V 「かつて～であった」
ここにはかつて古いお寺がありました。
3. 〈There remains S 「S がまだある」〉
なすべきことがまだたくさんある。
4. 〈There is certain to be S 「きっと S がある」〉試験頻出
君の提案にはきっと反対があるだろう。
★There is some opposition...の is の後に (be) certain to V 「きっと V である」が入り込んだ形

(3) [倒置構文④ 語順転倒型② MVS/ CVS / OSV / VCO / VMO 他]

1. **In the middle of the wall at the back of the room** is a large window.
2. **Happy** indeed are we, and so we shall remain.
3. He is said good at mathematics. **Much better** is his wife.
4. **Few of these problems** he could solve today.
5. He couldn't make clearly known **what he wanted to do**.
6. We must take into account **the wishes of all the family in planning a trip**.
7. **So important** is water **that** we can hardly do without it even for a day.
8. **Such** is his honesty **that** he was respected by everybody.

1. 〈副詞句 V S〉★場所を表す副詞句が文頭にでたことによる倒置
部屋の奥の壁の中央に大きな窓がある。
2. 〈CVS / CSV〉
私たちは本当に幸せであるし、これからも幸せである。
3. 〈CVS〉★比較対象の前置
彼は数学が得意と言われているが、彼の妻はもっと得意である。
4. 〈OSV〉★目的語の前置 (≡He could solve few of these problems today.)
今日はこの問題のほとんどを解くことができなかった。
5. 〈make CO〉★what he wanted to do が後置された形
彼は自分がしたいことをはっきりと知らせることができなかった。
6. 〈SVMO〉★take A into account ⇔ take into account O ★O が長いので後置された形
旅行を計画する場合は、家族全員の希望を考慮すべきだ。
7. 〈So 形容詞/副詞〉 ~ 〈that SV...〉「とても形容詞/副詞なので SV...」 = ~ so 形容詞/副詞 that SV...
水はとても大切なもので、水なしでは1日でもやっていけない。
8. 〈Such is S that SV...〉「Sはとても甚だしいので SV...」 = S is such that SV... ⇔
彼は非常に正直だったので、誰からも尊敬されていた。

構文解説

(1) [So 助動詞 S.]

「～のように」を表す as の後で、“as 助動詞 S”と倒置となる場合がある。この場合の(助)動詞は主節の文の(助)動詞に合わせる。be 動詞・have 動詞(完了形)・助動詞であればその be 動詞・have 動詞(完了形)・助動詞を用いる。例“I want to drink something cold.—So do I.”「私は冷たいものが飲みたい。—私もそうです」“He tried to catch the first train.— So did she.”「彼は始発電車に乗ろうとした。—彼女もそうしようとした」。“You have read his latest novel.—So have I.”「あなたは彼の最新の本を読みました。—私も読んだ」なお、“So SV”の語順の場合は、「まさにそうです」の意を表す。例“You told me that the book was interesting.—So you did.”「あなたは私にその本はおもしろいといった。—まさにそうだった」

(2) [There(Here)+V+S.]

「～がある」を表す場合に、“There is[are] S...”の形が用いられる。be 動詞の代わりに、remain, exist などの自動詞が用いられる場合もある。例“There remained three candies on the table.”「テーブルの上には、キャンディーが3つあるままであった」

(3) [There seems to be S There is said to be S....]

“There is[are] S...”構文に、“seem to V”「Vのように思われる」”be said to V”「Vと言われている」や”be certain to V”「きっとVである」が付け加わり、“There seems[seem] to be S...”「Sと思われる」”There is[are] said to be S...”「Sと言われている」“There is[are] certain to be S...”「きっとSがある」となることがある。Sが複数の場合は、is(seems)ではなく、are(seem)になることに注意。例“There seems to be a limit to the amount of knowledge that can be transmitted orally.”「口頭で伝達される知識量には限界があるようだ」“There is said to be no evidence of his involvement in the crime.”「彼がその犯罪に関与しているという証拠はないと言われている」“There are certain to be some beautiful parks near the lake.”「その湖の近くには、美しい公園がきっとある」

(4) [語順転倒]

語順が変わる場合として、①MVS②CVS③OSV④SVCO⑤There 構文の5つが主なものである。①②のように、副詞・補語が文頭に出る場合は、動詞と主語の語順が変わることが一般的である。

(5) [語順転倒①] [MVS 場所や方向を表す副詞(句)が文頭に出る場合]

場所や方向を表す副詞(句)が強調のため文頭に出されると、主語・動詞が倒置になることが多い。英文では、強調したい語または新情報を文末に置くために、倒置が生じている。例“Beside him lay an old picture.”「彼の横には古い絵があった」

(6) [語順転倒②] [CVS 補語(形容詞)が文頭に出る場合]

補語(形容詞)が文頭に出ると、通常”補語(形容詞)+動詞+主語”の語順となる。例“So moving is his voice.”「彼の声はなんと感動的なんだ」。現在分詞、過去分詞が補語として文頭に出る場合もある。“Disappointed were all the students with the result.”「すべての生徒がその結果に失望した」ただし、主語が代名詞の場合は〈主語+動詞〉はそのままとなる。例“Happy you are that you are supported by all.”「君はみんなに支えてもらってなんと幸せなんだ」

(7) [語順転倒③] [CVS [補語(形容詞)が文頭に出る場合]

比較構文で、比較級(形容詞)の部分が文頭に出る場合も、通常“比較級(形容詞)+動詞+主語”の語順となる。なお、比較級が文頭に出る場合は、“than ~”(比較対象)は、省略されることが多い。例“Good result is necessary. More important is the process of success.”「良い結果は必要である。さらに重要なのは、成功への過程だ」More important のあとに“than it(=good result)”が省略されている。

(8) [語順転倒④] [目的語が文頭に出る場合]

目的語が文頭に出る場合は、後続部が、倒置になる場合と倒置にならない場合の2種類ある。否定語を含む目的語が文頭にでると、倒置になる。例“Nobody did I see on the shop.”「その店で私は誰もみなかった」否定語でない目的語が文頭に出る場合は、通常の語順が普通である。例“This book he has been looking for for a long time.”「この本を彼は長いあいだ探していた」

(9) [語順転倒⑤] [SVCO]

目的語に修飾語句がついて長くなる場合には、本来 SVOC の語順が、SVCO となることがある。例“The instrument made possible the discover which would change the world.”「その道具は世界を変えるであろう発見を可能にした」。make O possible(C)「Oを可能にする」の補語である possible が前に出た形。

(10) [語順転倒⑥] [SVMO]

目的語に修飾語句がついて長くなる場合には、本来は目的語のあとに来る副詞要素が目的語の前に置かれることがある。慣用表現では特によく見られる形である。例“We took into account what he said at the meeting.”「私たちは彼が会議で言ったことを考慮に入れた」“take O into account”の O が長いと、into account が O の前に出ている。

(11) 譲歩を表す副詞節を導く as

“形容詞(副詞) as SV...”の形で、「...だけれども」と譲歩の意を表す。例“Hungry as they were, they went out without eating breakfast.”「彼らはお腹がすいていたけれども、朝食を取らずに出かけていった」。as の代わりに、though, that が用いられることもある。例“Young though he was, he was familiar with the Japanese history.”「彼は若かったけれども、日本の歴史に精通していた」

NO 46 <LISTENING//ENGLISH COMPOSITION>



【1】 [英作文] 《神戸大》

解答時間 15分

次の文章の下線部(1), (2)を英語に訳しなさい。

(1)ここ数年、さまざまな国際集会において、とくにアジアからの出席者の間から、「日本はほとんど西洋化してしまったように思えるのに、日本文化や日本の伝統が存在すると言えるのか」という質問を受ける。アジアの国々の中でも、少なくとも外見的には、日本は最も西洋化をとげた国であるようにみえる。衣食住などあらゆる日常生活の要素に、それが現れているのは明らかな事実である。

いま、こうした生活の中であって、何をもって「日本文化」、「日本の伝統」とするかは決して容易なことではない。アジアの人々からの質問に応答するのも、実際大変難しい。茶道に華道に能や歌舞伎という答えは、本当のところ答えにはならない。生活の中にある「文化」でなければならない。その生活の中にあるものは、およそ「伝統」と遠いものばかりである。(2)アジアの人たちでなくとも、「日本文化」はどこにあるのかと疑うのは当然である。

【2】 [英作文] 《神戸市外大》

解答時間 15分

次の日本文の下線部(1), (2)を英語に訳しなさい。

たとえば⁽¹⁾音楽をよく聴いたことのない人に、「どうしてお前は音楽を聴くのか」と聞かれて、「それは美しいからだ」と答えてもあまりよく通じないでしょう。それと同じように、科学者にとっては世界の秩序が美しいといっても、それに触れたことのない人にはほんとうは具体的にはよくわからないだろうと思います。

しかし、その美しさの性質は、感覚的に美しいというのとちょっとちがう。もっと抽象的な、知的な秩序の美しさということになるでしょう。たとえば古典熱力学の体系は、秩序整然としていて、それが役立つか役立たないかに係りなく、実に美しいといったようなものです。(中略)

⁽²⁾要するに、科学者は自然の構造が美しいので、その美しさにひかれて研究を続ける。こういう要素が強いので、これは技術者がはっきりした目標、つまり役に立つ目標をめぐけるのと大いに違う点です。

研究室の科学者が、そういう世界の構造の調和、知的な秩序の美にひかれていますとすると、奇蹟を必要としないのは当然でしょう。奇蹟、あるいは超自然的な事件は、それが真実であるかないかは別として、美しくない。奇蹟とは、例外です。例外は多ければ多いほど、秩序の美しさを妨げます。

(加藤周一「科学と文学」『加藤周一セレクション(1) 科学の方法と文学の擁護』平凡社ライブラリー、1999年、pp. 72-73による)

NO 47 《名詞構文・無生物主語構文》



【1】 [英文解釈 I : 基本の確認]

次の英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

解答時間各 20 分

(1) [名詞構文:主格の of]

Since he came down from the trees, man has faced the problem of survival, not as an individual but as a member of a social group. His continued existence is testimony to the fact that he has succeeded in solving the problem; but the continued existence of want and misery, even in the richest of nations, is evidence that his solution has been, at best, a partial one.

(注) testimony [téstəmòuni] 「証言」 「証明」

(2) [名詞構文:目的格の of]

Since the decipherment of the writing system in the third decade of the last century, the language has been among the most thoroughly researched areas of Egyptology. As a result, although a great deal of vocabulary and many points of grammar remain to be fully explained, our understanding of the basic structure of Egyptian and of the rules governing its operation can now be considered to be on a reasonably firm footing.

(注) decipherment 「解読」 Egyptology [i:dʒiptálədʒi] 「エジプト学」

【2】〔英文解釈Ⅱ：標準〕

次の英文(1)(2)の下線部を和訳しなさい。

解答時間各 20 分

(1) 《大阪大》

Work on bees illustrates beautifully the time sense of these insects and the application of such a time sense to their amazing ability of direction-finding. Man has long recognized the direction-finding ability of the bee, and, in fact, the term “beeline,” meaning a straight line between two points on the earth’s surface, was coined in recognition of the fact that a bee returns directly from the source of the food to the hive. The bee’s ability to tell time has not been of such common knowledge, although over sixty years ago a Swiss doctor with the name of Forel made observations on this ability. His observations have been amply confirmed and extended by recent research.

(注) direction-finding 「方向感覚」 hive [haiv] 「巣」

【1】(1)face A 「A に直面する」 succeed in A [səksɪːd] 「A に成功する」 want 「飢え、欠乏」 misery 「悲惨」 at best 「せいぜい」 partial 「部分的な」

(2) thoroughly [θəːrouli] 「徹底的に」 reasonably [riːzenəbli] 「相当、かなり」 footing [fútiŋ] 「基盤」

【2】(1)illustrate A [iləstreɪt] 「A を例証する」 application [ˈæplɪkේʃən] 「応用」 (apply A to B 「A を B に応用する」) amazing [əmeɪzɪŋ] 「驚くべき」 recognize A [rɛkəgnəɪz] 「A を認識する」 coin A 「A(言葉)を作り出す」 amply [ámpli] 「豊富な」 confirm A [kənfoːrm] 「A を裏付ける」

(2) 《防衛医科大》

A previously unknown kind of human group vanished from the world so completely that it has left behind the merest wisp of evidence that it ever existed — a single bone from the little finger of a child, buried in a cave in the Altai mountains of southern Siberia.

Researchers extracted DNA from the bone and reported that it differed conspicuously from that of both modern humans and of Neanderthals, the archaic human species that inhabited Europe until the arrival of modern humans on the continent some 44,000 years ago.

(注) wisp [wɪsp] 「ひと握り」 the Altai mountains 「アルタイ山脈」 a Neanderthal [niːəndərtɑ:l] 「ネアンデルタール人」 the archaic human species [ɑ:rkéiik] 「旧人類」

(2) previously [pri:viəsli] 「これまで」 vanish [væniʃ] 「消滅する」 Siberia [saibéria] 「シベリア」 conspicuously [kɒnsɪkjʊəsli] 「顕著に」 inhabit A [ɪnhæbɪt] 「Aに住みつく」

発展問題

〔英文解釈Ⅲ：東大京大阪大一橋入試問題に挑戦〕

解答時間 30 分

次の英文の下線部を和訳しなさい。《東京大》

The Scientific Revolution is the term traditionally used to describe the great intellectual triumphs of sixteenth- and seventeenth-century European astronomy and physical science. By around 1700 educated men conceived of the universe as a mechanical structure like a clock, and the earth was regarded as a planet moving round the sun. The intellectual transformation associated with the Scientific Revolution led to a new confidence in the value of the investigation of nature and its control, a development which is fundamental to an understanding of the importance of science in modern society.

(注) The Scientific Revolution 「科学革命」

発展問題 a triumph [tráɪəmf] 「大勝利」 astronomy [æstrənəmi] 「天文学」 conceive of A as B [kənsí:v] 「A を B と見なす」 transformation [tr`ænsfərméiʃən] 「転換」 (A be)associated with B 「(A は)B と結びついている」 fundamental [fʌndəməntl] 「基本的な、不可欠な」

基本構文 [名詞構文]

1. The **necessity** of education came home to me.
2. We emphasized the **importance** of his cooperation.
3. Whether he has the operation depends upon the **availability** of the organ.
4. Keiko informed him of her safe **arrival**.
5. The **communication** of news by TV and radio is very common now.
6. The purpose of this text is to deepen the **understanding** of black culture.
7. Columbus' **discovery** of America was accidental.
8. **Education** by the parents of their children is important.

1. <the necessity of A⇔A is necessary>
私は教育の必要性をしみじみと感じた。
2. <the importance of A⇔A is important>
私たちは彼の協力の重要性を強調した。
3. <the availability of A⇔A is available>
彼が手術するかどうかは、移植する臓器の提供次第だ。
4. <A's arrival ⇔A arrive>
恵子は彼に無事に到着したことを知らせた。
5. <communication of A⇔ communicate A>
ラジオやテレビによるニュースの報道は今ではまったくふつうのことだ。
6. <understanding of A⇔understand A>
このテキストの目的は、黒人の文化への理解を深めることである。
7. <A's discovery of B⇔A discover B>
コロンブスがアメリカを発見したのは、偶然だった。
8. <education by A of B⇔B is educated by B>
両親が子供を教育する事は、重要である。

構文解説

(1) 名詞構文

「彼は早起きである」を英語では、“He rises early.”とも”He is an early riser.”とも表現できる。前者は“動詞+副詞”で表し、後者は“冠詞+形容詞+名詞”で表している。後者のように、名詞を使った表現を名詞構文と呼ぶ。英語は、日本語と比べて、名詞を使った表現が多いのが特徴である。かたや、日本語は、動詞を使った表現が好まれる。こうした言語的な特徴を知った上で、和訳することでわかりやすい日本語になる。また、名詞構文には、文(SV...)を句(名詞)にして表現するタイプのももある(複雑な名詞構文にて詳説)。一般に名詞構文と呼ばれるものは、後者の複雑な名詞構文のことである。

(2) 名詞構文

名詞構文には、以下の3つのパターンがある。① [be] (冠詞) 形容詞 名詞 例 “He is a safe driver.(≡He drives safely.)” 「彼は安全運転だ」 She is a poor writer.(≡She writes poorly.) 「彼女は字が汚い」 ② [動詞] (冠詞) 形容詞 名詞 例 “He took a careful look at me.(≡He looked carefully at me.)” 「彼は私を注意深く見た」 ”He often made casual remarks.(≡He often remarks casually.)” 「彼はしばしば思いつきの発言をする」 ③ [動詞] 名詞 動詞派生の名詞 例 “He gave the door a gentle push.”(≡He pushed the door gently.) 「彼はドアをそっと押した」

(3) 複雑な名詞構文 [SV...の圧縮]

「お父さんが突然現れたのでびっくりした」を英語で表す場合、節を用いて表せば“Because my father suddenly appeared, I was surprised.”や“I was surprised that my father suddenly appeared.”となる。節(文)を使わずに書くと“The sudden appearance of my father surprised me.”と表すことができる。後者のように、文(SV...)を句(名詞)にして表現することもできる。

(4) 文(SV...)⇔句(名詞)

文を名詞構文に書き換える手順は、以下のとおりである。
 ①主語を“所有格/of 名詞/by 名詞”に置き換える
 ②“動詞”または“be 動詞+形容詞”を名詞に変える。*その際に時制は考慮しない
 ⇒③“動詞”が他動詞の場合は、目的語との間に“of” [目的格の of と呼ぶ] を置く。
 ⇒③“動詞”が自動詞の場合、“be 動詞+形容詞”の場合は、そのあとは元の文の形を続ける
 ④動詞を修飾する副詞は、“動詞派生の名詞”または“形容詞派生の名詞”の前に置くのが原則

(5) 練習

次の(1)~(10)の文(SV...)を句に変えなさい。

(1) [文] She **arrived** late. 「彼女は遅れて着いた」
 [句] her () ()

(2) [文] The animal actually **exsits**. 「その生き物は存在する」
 [句] the () () of () ()

(3) [文] Columbus **discovered** America. 「コロンブスがアメリカを発見した」
 [句] () () () America

(4) [文] My father **desired** to meet you. 「私の父はあなたに会いたがっている」
 [句] () () () () () you

(5) [文] They **were very interested** in music. 「彼らは音楽に興味があった」
 [句] () () () () music

(6) [文] He **is able to** read and write. 「彼は読み書きができる」
 [句] the () () () () () and ()

(7) [文] He is superior to me in math. 「彼は数学では私より優れている」
 [句] the () of () () () in math

(8) [文] Body has influence on mind. 「肉体は精神に影響を与える」
 [句] the () () body () mind 「肉体の精神への影響」

(9) [文] He translated this passage into English. 「彼はこの文を英訳した」
 [句] () () () this passage () ()

(10) [文] He explained the fact to her for long. 「彼は長い時間かけてその事実を彼女に説明した」
 [句] the () () of () () to () by ()

(1) her (late) (arrival)(2) the (actual) (exsistence) of (the)(animal) (3) (Columbus') (discovery) (of) America (4)(my) (father's) (desire) (to) meet) you (5) (their) (great) (interest) (in) music (6) the (ability) (of)(him) (to) (read) and (write) (7) the (superiority) of (him) (to)(over) (me) in math (8) the (influence) (of) body (on) mind (9)(his) (translation) (of) this passage (into) (English) (10) the (long) (explanation) of (the) (fact) to (her) by (him)

(6) 主格の of

“A of B”の形で A と B の間に SV 関係が隠れている場合の of を主格の of と呼ぶ。例えば、the death of my father 「父の死」は、my father(S) died(B)の関係がある。また the importance of health 「健康の重要性」のように health(S) is important(V)と“be 動詞を含んだ形容詞”全体が V と見なす場合もある。

(7) 目的格の of

“A of B”の形で A と B の間に VO 関係が隠れている場合の of を“目的格の of”と呼ぶ。例えば、the acceptance of his idea 「彼の考えを採用すること」は accept(V) his idea(O)の関係がある。

[注] the acceptance of his idea 「彼の考えが採用されること」の意味になる場合もある。この場合は、his idea(S) is accepted(V)となり、主格の of と解釈することになる。文脈から判断することになる。どちらにも取れる場合もある。

基本構文 [無生物主語構文]

1. An hour's walk **brought** us to our destination.
2. This bus will **take** you to the town.
3. This road will **lead** you to Takeda Castle.
4. Her report **interested** us a lot.
5. Her letter **said** that he was too busy to meet us.
6. Her voice **reminds** me of my happy schooldays.
7. An accident **deprived** her of sight.
8. His sudden death **gave** me great grief.
9. The cup **cost** me no less than 5,000 yen.
10. Your help **saved** me a lot of time.
11. His long speech **made** us all tired.
12. This medicine will **keep** you fast asleep.
13. This DVD will **make** you feel sick.
14. Too much work **caused** her to fall ill.
15. This guidebook will **enable** him to travel in Japan by himself.

16. His pride did not **allow** him to do such a thing.

17. His sudden call **prevented** us from going out.

18. A long spell of rain **kept** them from putting the project into practice.

1. 〈S bring A to B 「SによってAはBに来る」〉
1時間歩いたら目的地に着いた。
2. 〈S take S to B 「SによってAはBに行く」〉
このバスに乗れば、その町にいける。
3. 〈S lead A to B 「SによってAはBに至る」〉
この道を行けば、武田城に行ける。
4. 〈S interest A 「SにAは興味を持つ」〉 * 「SはAに興味を持たせる」
彼女のレポートに私たちは大いに興味を持った。
5. 〈S say that SV... 「SによればSV...である」〉
彼の手紙によれば、彼は忙しすぎて私たちに会えないということだ。
6. 〈S remind A of B 「SによってAはBを思い出す」〉 * 「SはAにBを思い出させる」
彼女の声を聞くと私は、懐かしい学生時代を思い出す。
7. 〈S deprive A of B 「SによってAはBを失う」〉 * 「SはAからBを奪う」
彼女は事故のため視力を失った。
8. 〈S give AB 「SによってAはBを得る」〉
彼の突然の死によって私はとても悲しかった
9. 〈S cost AB 「SによってAはBを失う」〉 * 「SはAからBを奪う」
そのコップは5000円もした。
10. 〈S save AB 「SによってAはBを省ける」〉 * 「SはAからBを省く」
あなたが助けてくれたので、多くの時間が省けた。
11. 〈S make OC 「SによってOはCする(なる)」〉
彼の長い話で皆疲れてしまった。
12. 〈S keep OC 「SによってOはCする(なる)」〉
この薬を飲めば熟睡できるだろう。
13. 〈S make OV 「SによってOはVする(なる)」〉
このDVDを見れば(あなたは)気分が悪くなるよ。
14. 〈S cause O to V 「SによってOはVする」〉
働きすぎで彼女に病気になった。
15. 〈S enable O to V 「SによってOはVできる」〉
このガイドブックがあれば、彼は一人で日本を旅行できるだろう。
16. 〈S allow O to V 「SによってOはVする」〉
彼はプライドが高いので、そんなことはできなかった。
17. 〈S prevent O from Ving 「SによってOはVingできない」〉
彼が突然電話してきたので、私たちは出かけることができなかった。
18. 〈S keep O from Ving 「SによってOはVingできない」〉
長雨のせいで、彼らはその計画を実行することができなかった。

構文解説

(1) [無生物主語構文] 基本的な考え方

人または行為主体が主語になる傾向の強い日本語と異なり、英語には、無生物が主語で、人が目的語となる構文がある。これを無生物主語構文と呼ぶ。無生物主語で用いられる動詞は、以下のパターンが主なものである。無生物主語構文の多くは、副詞節、副詞句を用いて、人を主語とした英文に書き換えることができる。

(2) [無生物主語構文] 様々な形

無生物主語構文には、様々な形がある。代表的なものとしては以下の 11 のパターンがある。
 ①第 3 文型 I [take/bring 型] ②第 3 文型 II [surprise/disappoint 型] ③第 3 文型 III [say/show 型]
 ④第 3 文型 IV [remind/inform 型] ⑤第 3 文型 V [rob/deprive 型] ⑥第 4 文型 I [give/tell 型]
 ⑦第 4 文型 II [save/cost 型] ⑧第 5 文型 I [keep/leave 型] ⑨第 5 文型 II [make/let 型]
 ⑩第 5 文型 III [enable/allow 型] ⑪第 5 文型 IV [prevent/keep 型]

(3) ①第 3 文型 I “S take A to B” [take/bring 型]

基本 「S は A を B に(移動)させる」⇒「S によって A は B に移動する」

「S は A を B に(移動)させる」には、take, bring, lead などがある。“S take + A + to B” 「S すれば A(人)は B に着く」。“S bring + A + to B”で「S すれば A は B に着く」[“take”は、離れたところへと連れて行く、“bring”は、近いところ、話者の中心へと連れて来る] “S lead A to B” 「S すれば A は B に至る」
例 “This bus will take you to the museum.(≡ If you take this bus, you can get to the museum.) 「このバスに乗れば博物館に着く」 “An hour's walk brought me to the town. ≡ When I walked for an hour, I came to the town.” 「1 時間歩くと私は町に着いた」 “A light led him to the village.” 「明かりをめざして彼はその村にたどりついた」

(4) ②第 3 文型 II “S [感情を表す V] A [surprise/disappoint 型]

基本 「S は A を ~させる」⇒「S の結果 A は ~する」類 satisfy/dissappoint/impress

「驚き」「失望」などの感情を表す動詞の多くは他動詞で、主語が原因となる出来事で、人を目的語とする構文を作る。和訳にあたっては、「S の結果 A は ~する」としたほうが自然な場合が多い。
例 “Her remark surprised us a lot.(≡ We were very surprised at her remark.” 「彼女の発言に私たちはすごく驚いた」 “Our report dissappointed our teacher.(≡ Our teacher was dissappointed with[at] our report.” 「私たちのレポートに先生はがっかりした」

(5) ③第 3 文型 III [say/show 型]

基本 「S は that SV...伝える」⇒「S によって that SV...を知る」[say 型] 類 show

第 3 文型(SV that SV...)の形の無生物主語構文としては、“S show that SV...” 「S によって、that SV...がわかる」 “S say that SV...” 「S によれば、SV...だ」等がある。
例 “The experiment showed that plants need light.(≡ By the experiment, we saw that plants need light.) 「その実験によって植物には光が必要だということがわかった」 “The newspaper says that there will be an election in July.(≡ According to the newspaper, there will be an election in July.) 「新聞によれば、7 月に選挙が行われる」

(6) ④第3文型Ⅳ “S V A of B” [remind/inform 型]

基本 「SはAにBを～させる」⇒「SによってAはBを～する」[remind 型] 類inform/warn
第3文型(SV A of B)の形の無生物主語構文としては、“S remind A of B” 「SによってAはBを思い出す」(「SはAにBを思い起こさせる」)“S inform A of B” 「SによってAはBを知る」(「SはAにBを知らせる」) 例 “This picture reminds me of our holiday.(≒ When I see this picture, I always remember our holiday.) 「この写真を見るとあの休日のことを思い出す」 例 “His e-mail informed us that he was caught in a traffic jam. 「彼のメールで、私たちは彼が交通渋滞に巻き込まれているのを知った」

(7) ⑤第3文型 “SVA of B” [rob/deprive 型]

基本 「SはAからBを奪う」⇒「SによってAはBを失う」第3文型(SV A of B)
第3文型(SV A of B)の形の無生物主語構文としては、“rob A of B”や“deprive A of B”のように「AからBを奪う」の意味を表す動詞が無生物主語構文で用いられることがある。 例 “The severe drought deprived this area of water.(≒ Because of the severe drought, this area ran out of water.)” 「きびしい日照りのためこの地域は水が欠乏した」“The misgovernment robbed him of a Cabinet post.(≒ Because of the misgovernment he lost a Cabinet post.)” 「失政のせいで彼は大臣のポストを失った」

(8) ⑥第4文型Ⅰ “S V O₁O₂” [give/tell 型]

基本 「SはO ₁ にO ₂ を与える(伝える)」⇒「SによってO ₁ はO ₂ を得る(知る)」類tell
第4文型(SV O ₁ O ₂)の形の無生物主語構文には、“S give O ₁ O ₂ ” 「Sによって、O ₁ がO ₂ を得る」“S tell O ₁ O ₂ ” 「Sによって、O ₁ がO ₂ を知る」がある。 例 “A dictionary will give you further information about words and phrases.(≒ If you consult a dictionary, you will give further information about words and phrases.)” 「辞書を引けば、語句についてもっと詳しくわかるでしょう」“History tells us that the past was not so wonderful for people in general.(≒ Thanks to history, we know that the past was not so wonderful for people in general.)” 「歴史によって、過去は一般に人々にとってそれほど素晴らしいものないと私たちは知る」

(9) ⑦第4文型Ⅱ “S V O₁O₂” [save/cost 型]

基本 「SはO ₁ からO ₂ を奪う」⇒「SによってO ₁ はO ₂ を失う」類clear/strip
第4文型(SV O ₁ O ₂)の形の無生物主語構文には、“save O ₁ O ₂ ” 「O ₁ からO ₂ を省く」や“cost O ₁ O ₂ ” 「O ₁ からO ₂ を奪う」のように「O ₁ からO ₂ を奪う」がある。日本語にしにくい場合が多く、意味を優先してこなれた日本語にするとうまくいく場合が多い。 例 “This machine will save you a lot of trouble. 「この機会を使えば、あなたは労力が多いに減るだろう」 Too much homework cost the students their health. 「あまりに多い宿題のせいで彼らは健康を損なった」

(10) ⑧第5文型Ⅰ 「keep/leave 型」

基本 「SはAをBさせる」⇒「SによってAはBする」類leave/make
第5文型(SVOC)の形の無生物主語構文には、“S make+O+C” 「SによってOがCになる(する)」“S leave+O+C”で「SによってOをCさせ(つづける)」“S keep+O+C”で「SによってOをCさせ(つづける)」等がある。 例 “What made her so angry?(≒ Why was she so angry?)” 「なんで彼女は怒っているのか」“His story left her very dissatisfied.(≒ As she heard his story, she was very dissatisfied.” 「彼の話を聞いて、彼女はとても失望した」 Strong coffee kept me awake all night.(≒ Because I had strong coffee, I was unable to sleep all night.) 「濃いコーヒーを飲んだため、一晩中眠れなかった」

(11) ⑨第5文型Ⅱ “S make[let] OV” [make/let 型]

基本 「SはOにVさせる」⇒「SによってOはVする」

「...に～させる」の意味を表す動詞には、“make”のように“SVOV” [原形不定詞] のタイプと“enable”のように“SVO toV” [to不定詞] を取るタイプがある。make,letのように“SVOV” [原形不定詞] を取るタイプとenable,allow,forceなど“SVOtoV”を取るタイプがある。

例 “This medicine will make you feel a little better.(≒You will feel a little better if you take this medicine.) 「この薬を飲めば、君は気分が少し良くなるよ」 “The vision cells let us see color.” 「視覚細胞によって私たちは色が見える」

(12) ⑩第5文型Ⅲ [enable/allow 型]

基本 「SはOにVさせる」⇒「SによってOはVする」

「...に～させる」の意味を表す動詞には“enable,allow,force”のように“SVOtoV”のを取るタイプがある。“His assistance will enable you to continue your research.” (=Thanks to his assistance, you will be able to continue your research.) 「彼の支援があれば、あなたは研究を続けることができるであろう」 “The rain forced us to stop the game.” (≒Because of the rain, we had to stop the game.) 「雨のため、私たちはその試合をやめなければならなかった」 “The Internet allows us to know the world affairs.(≒Thanks to the Internet we can know the world affairs.)” 「インターネットのおかげで世界情勢がわかる」

(13) ⑪第5文型Ⅳ [prevent/keep 型]

基本 「SはOにVingさせない」⇒「SによってOはVingできない」 類stop,prohibit

「...に～させない」の意味を表す動詞には、“prevent,keep,stop,hinder”などがある。**例** “The heavy rain prevented me from going out.(≒Because it rained hard, I was not able to go out.) 「大雨のため、私は外出できなかった」 “Nothing will stop him from going.” 「どんなことがあっても彼は行くだろう」

NO 48 《VOCABULARY CHECK》



【1】 [語彙検定]

第3回 語彙検定

【2】 [英作文] 《神戸市外大》

解答時間 15分

次の文章を読み、下線部(A)、(B)を英語に訳しなさい。

(A)いくら科学や技術が発達したといっても、人間はまだ、木の葉一枚つukれない。人間の誇る技術力など、自然を前にしてはじつに小さい。だから農業は人間を謙虚にする。私たちは、自然を見つめれば見つめるだけ素直な気持ちになる。お互いに力を合わせて、自然のリズムを汲み取りながら、よりよい共存関係を保っていかうとする。

人と人の心を結び合わせ、人間の情感を満たしてくれるものは、まさに土と農業と美しい田園風景しかない。人間どうしが心を合わせ、勤労にいそしみ、(B)絶えず自然と調和をとって謙虚に生きていく、こういった生き方は、やはり農業からしか生まれない。

NO 49



【1】 [確認テスト]

【2】 [長文英作文] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本語の下線部を英訳しなさい。

コミュニケーションしている顔、これがいい顔の第一条件である。写真を撮るときは、ただカメラに向かうのではなく、あなたの好きな人(恋人でもお孫さんでもいい)の顔を思い浮かべて、話しかけるような気持ちになるといい。そうすれば、いい顔に撮れる。

【3】 [英文解釈] 《東京大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部を和訳せよ。

Folklore is the flow of cultural habits, beliefs, ways of expression that a people who can't or don't or won't write use to perpetuate their manner of civilization from generation to generation. It's not much different from the more formal, more highly technological matter that people who write use, except that it is not printed and thus is subject to the laws of oral tradition. That is, it will vary and change as it passes from mouth to mouth, ear to ear, and will not become standardized the way written and printed matter will.

【3】 folklore[ˈfɒklɒr] 「民間伝承」 perpetuate A [pəˈpɛtʃuːt] 「A を永続させる」 from generation to generation 「世代から世代」 except that SV... 「SV...を除いて」 That is, SV... 「つまり、SV...」 standardize A [stændədaɪz] 「A を標準化する」 the way SV... 「SV する方法」

【4】 [英文解釈] 《京都大》

解答時間 40 分

次の文の下線部をほどこした部分(1)(2)を和訳しなさい。

It has been said that the young child plays with materials and thereby learns them. The truth of this observation can nowhere be seen as clearly as in the field of the arts — picture-making, modelling, music and drama. ⁽¹⁾The first scribble of childhood with a well-sucked crayon will as surely lead to the making of recognizable shapes to represent ‘Mummy’ as will his early enthusiastic claps to the rhythm of nursery rhyme or popular song to the free-flowing steps of a yet unknown pop culture or the formal patterns of the traditional dance. There seems to be in all young children a desire to express themselves by making marks and constructions, by making sounds and through physical response to the sounds that they hear.

Indeed it could be argued that it is largely as a result of man’s preoccupation with these elements of his make-up that he has been able to dominate the world. From earliest time man has made marks to decorate the walls of his dwellings, has cut patterns into his tools, chiselled designs into stone, coloured his earthenware pots. His progress towards civilization has been marked by the ability he has shown in the adaptation of his environment — by building in stone, brick and wood, by spinning and weaving, by working in metal.

② With the passing of time, the arts have become so inextricably woven into our daily lives that we tend to take them for granted and ignore the central place that they have always occupied in the human being.

【4】recognizable [rɛkəgnəɪzəbl] 「認識できる」 enthusiastic [enθjù:ziæstik] 「熱狂的な」 rhyme [raim] 「押韻」 express A [eksprɛs] 「Aを表す」 preoccupation 「占めること」 (A is preoccupied with B 「AはBで占められている」 dominate A [dámənèit] 「Aを支配する」 a dwelling [dwélin] 「住まい」 chisel A [tʃízel] 「Aを刻む」 spin A [spin] 「Aを紡ぐ」

NO 50



【1】 〔英文解釈〕《東京大》

解答時間 20 分

次の各英文(1)～(4)の下線部を和訳せよ。

(1) 《東京大》

Many observers have commented on what seems to be the fact that fear plays a much smaller part than we should think it must in the life of an animal which lives dangerously. Terror he can know, and perhaps he knows it frequently. But it seems to last only a little longer than the immediate danger it helps him to avoid, instead of lingering, as in the human being it does, until it becomes a burden and a threat. The frightened bird resumes his song as soon as danger has passed and so does the frightened rabbit his games.

(注) linger [lɪŋgə] 「長引く」「なかなか消えない」

【1】 (1)comment on A [kámənt] 「A について論評する」 terror [térə] 「恐怖」 last 「続く」 burden [bə:rdn] 「重荷」「負担」 threat [θret] 「脅威」 resume A [rizjú:m] 「A を再開する」

(2) 《東京大》

After listening to him for about an hour and a half I could be certain of one thing only — that he believed himself to be rather a great man. And like so many of us who maintain that belief, he had so far found very few people to agree with him in his optimistic self-esteem.

(3) 《東京大》

In general, we do not like to be told either what we already know or what we are unlikely ever to know well or to good effect. We do not read books if we are already thoroughly familiar with the material or if it is so completely unfamiliar that it is likely to remain so. We read books which help us say things we are on the verge of saying anyway but cannot quite say without help. We understand the author, although we could not have formulated what we understand before he put it into words.

(2) maintain A [meintéin] 「Aを維持する」 so far 「これまで」 optimistic [ʌptamístik] 「楽観的な」 self-esteem 「自尊心」.

(3) in general [dʒénerəl] 「概して」 thoroughly [θə:rouli] 「徹底的に」 be familiar with A 「Aに精通している」 on the verge of A [fə:rmjuleit] 「Aする寸前である」 formulate A [fə:rmjuleit] 「Aを公式化する」 put A into words 「Aを言葉にする」

(4) 《東京大》

No one can write a man's life but himself. The character of his inner being, his real life, is known only to himself, but in writing it he disguises it. Under the name of his life he makes an apology. He shows himself as he wishes to be seen, but not at all as he is. The sincerest persons are truthful at most in what they say, but they lie by their silences. Things of which they say nothing so change what they pretend to confess that in uttering only a part of the truth they say nothing. A man may show himself with his faults but he is certain to give himself none but amiable ones, and there is no man who has not odious ones. He may paint his likeness but it is a profile. Who knows whether some ugly scar on the cheek or an eye put out on the side which he conceals from us would not have totally changed the appearance of his face ?

(4)apology [əpələdʒi] 「謝罪」 confess that SV...[kən'fés] 「SV...と告白する」 amiable [éimiəbl] 「愛想のよい」「物柔らかな」 odious [óudias] 「憎むべき」「不快な」 conceal A [kən'si:l] 「Aを隠す」

NO 51



【1】 〔長文英作文〕 《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本語の下線部を英訳しなさい。

私たちは、ことばを使っていると、ことばというものがいろいろな意味で「力」を持っているということを経験すると思います。人を喜ばせたり、悲しませたり、人の心を動かして何かをさせる—ことばには、このような力があります。ときには、ことばの持つ力のほうが、肉体的な暴力よりも私たちにひどく傷つけるということすらあります。

【2】 〔英文解釈〕 《東京大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部を和訳せよ。

Yesterday a young painter, a countryman of mine, came to consult me on a matter of business, and upon seeing my drawing of Clara Gray, straightway forgot his errand. He examined the date upon the sketch and asked me, very earnestly, if I could tell him whether the lady was still living. When I answered him, he stepped back from the picture and said slowly:

“So long ago ? She must have been very young. She was happy ?”

I replied, “As to that, who can say — about any one of us ? Out of all that is supposed to make for happiness, she had very little.”

【2】 consult A[kənsəlt] 「Aに相談する」 straightway [streitwei] 「すぐに」 errand [érənd] 「要件」

【3】 〔英文解釈〕《京都大》

解答時間 40 分

次の文を和訳せよ。

There are always at least two games taking place during a tennis match: the one on the court and the one in your head. There's not an experienced player alive who hasn't practically won the game on the tennis surface only to lose it in his head and in the final score. Tennis is often compared to chess because of the almost limitless strategic alternatives and the enormous mental pressure that can increase as you play through your strategy*. Keeping all this under control is what a good mental attitude is all about.

*strategy: a particular plan for winning success, as in a game.

【3】 experienced [ekspɪəriənst] 「熟練した」 practically [præktikəli] 「ほとんど」 S be compared to A 「SはAに例えられる」 strategic [strətiːdʒɪk] 「戦術的な」 enormous [ɪnɔːrməs] 「とんでもない」「多くの」 an alternative [ɔːltəːnətɪv] 「選択肢」

NO 52



【1】 [長文英作文] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本語の下線部を英訳しなさい。

この数年間、私の心を大きく占めたのは、「時間の使い方」ということでした。人間の一生というけれど、結局それは「今」という時間の集積ではないか。充実した人生というのは、必ずしもその長さによるのではなく、密度の濃さにかかっているのではなからうか。そういったことにこだわったように思います。時間の使い方は、そのまま、生命の使い方なのだ、私という人生の質は、それを形成する時間の質にかかっていると気づいたのは、やはり自分が、“残された”時間を考える年齢に達したからなのかも知れません。

【2】 [英文解釈] 《東京大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部を和訳せよ。

The way people act is conditioned by the social custom of their day and age — even the way they think and feel with what one might call their outer layers. To take a very simple and obvious example: The men of the first Elizabethan age (and, Heaven knows, they were a tough enough lot) cried easily and without shame in public. The rising generation of this second Elizabethan age are returning to much the same feeling, that one's emotions are not for hiding; but the men of my generation, my father's and grandfather's, were so conditioned in their extreme youth to (a)the idea that men simply didn't, that by the time they were fifteen or

sixteen they couldn't, even in private, except for such things as the death of a wife or child. But (b)that's not to say that they feel, or felt, any less about the things they would have cried about, four hundred years ago.

【3】 [英文解釈] 《京都大》

解答時間 40 分

次の文の下線部をほどこした部分(1)(2)を和訳しなさい。

Broadly speaking, attempts to answer fundamental questions dealing with the creation of the universe and the creation of life have, throughout recorded history, been of two kinds — the physical and the metaphysical*.

The metaphysical approaches have assumed the existence of a supreme, and usually divine, creator whose ends and means have been either revealed to, or otherwise perceived by, selected individuals in an extra-sensory manner (e.g., mystical experiences, dreams, etc). (1)Those who have not had the benefit of such direct experiences have either accepted or rejected the 'evidence' of those who have as a matter of personal preference — acceptance, of course, being an act of faith rather than of reason. The chief disadvantage of this method, from a practical point of view, is that divinely revealed information must be accepted as absolutely true, that is, true for all time despite any evidence that may crop up to conflict with it. This dilemma has given rise to theology*, which

may be described as the art of fitting new evidence into old explanations.

(2) Science, on the other hand, has no dogmatic beliefs of this kind, scientific knowledge being self-correcting. Any fresh evidence that may appear either discredits or helps to confirm existing theories: if evidence builds up against a theory it is discarded and a better one sought in its place.

* metaphysical 「形而上学的な」 theology 「神学」

【2】 condition A[kəndɪʃənl] 「A を条件づける」 outer [ˈaʊtə] 「外の」 layer 「層」「皮」 lot 「運命」 in public 「人前で」 extreme [ɪkstriːm] 「極端な」 in private 「プライベート」「私的に」

【3】 supreme [səpriːm] 「至高の」 divine [dɪvaɪn] 「神聖な」 crop up 「現れる」 dilemma[dɪləmə] 「ジレンマ」 dogmatic [dɔ(:)gmætɪk] 「独断的な」 self-correcting 「自己修正的な」 confirm A[kənʃəːrm] 「A を〔裏付ける〕」 discredit A [dɪskrɪtɪ] 「A を捨て去る」

NO 53



【1】 〔長文英作文〕《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本語の下線部を英訳しなさい。

子どもの頃のわたしは本を読むことは好きだったが、定められた勉強は嫌いだった。そのことを、とても苦にしていた。どうやらいまだに自分は子ども時代の強迫観念からのがれられずにいるらしい。そう考えると可笑しさがこみ上げ、それに誘われるように、長い間思い出すこともなかった子どもの頃の情景が次々に心によみがえってきた。そうした心象風景のひとつひとつは、不思議なくらいに書物の記憶と結びついている。

【2】 〔英文解釈〕《東京大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部を和訳せよ。

When casual acquaintances learn that I am a writer, they naturally ask what I write; and at my reply, “Science fiction for young people,” they are apt to respond with surprise. I know what is going on in their minds. Being somewhat shy and formal, I do not seem the sort who would even read, let alone write, anything matching the average person’s conception of science fiction. Those unfamiliar with the field of children’s literature envision “teen-age” science fiction in particular as melodrama of the comic book and television variety, and I usually find myself at a loss for words to bridge the gap.

【3】 〔英文解釈〕《京都大》

解答時間 40 分

次の文を和訳せよ。

It has been held that the superior performance of men in solving new problems is due to their having imagination and reason, qualities which animals lack. Recent experiments make this appear improbable. Imagination is the ability to picture in the mind situations which are not present. Reason is the ability to solve problems without going through a physical process of trial and error. Reason would be impossible without imagination, for in reasoning the situation has to be comprehended and the results of certain actions have to be foreseen. The trials are made and the errors eliminated in the mind. If we study human and animal behavior from the same objective standpoint, it seems certain that if we allow these qualities to men we must allow them to animals as well.

【2】 casual [kæʒʊəl] 「偶然の」 an acquaintance [əkwɛɪntəns] 「知り合い」 are apt to V 「Vしがちである」 conception [kənsɛpʃən] 「概念」「考え」 envision A as B [envɪʒən] 「AをBと見なす」 melodrama [mélədraːmə] 「メロドラマ」 at a loss for words 「言葉に窮する」

【3】 It is held that SV... 「SV...と信じられている」 improbable [ɪmprəbəbl] 「ありそうもない」 picture A [pɪktʃər] 「Aを描く」 physical [fɪzɪkəl] 「物理的な、肉体的な」 trial and error 「試行錯誤」 comprehend A [kəmprɪhɛnd] 「Aを理解する」 eliminate A [ɪlɪmənèɪt] 「Aを排除する」 objective [əbdʒɛktɪv] 「客観的な」 standpoint 「立場」「見地」

NO 54



【1】 [長文英作文] 《大阪大》

解答時間 20 分

次の日本語を英訳しなさい。

海外で日本語を教えていて一番有難いのは、学生の素朴な質問に触発されて日本語や日本人に関して教師のわれわれ自身が思いもかけない発見をすることである。

【2】 [英文解釈] 《東京大》

解答時間 20 分

次の英文の下線部を和訳せよ。

If you are indecisive and plan to do something about it, you can take immediate comfort in the fact that indecision is not necessarily due to ignorance and slow thinking. (a)On the contrary it is often thinking of so many things and consideration of so many doubts that result in the difficulty to reach and act on a simple decision. The more intelligent you are, the more you may be inclined to consider rapidly many factors before making a decision. If you were feeble-minded, you would have little or no difficulty, for you wouldn't be able to think of a variety of possible consequences. (b)Your difficulty may be that you have acquired the habit of applying to a multitude of little, unimportant things the same serious consideration you might advisedly give to vital matters.

【3】 [英文解釈] 《京都大》

解答時間 40 分

次の文の下線部をほどこした部分(1)(2)を和訳しなさい。

When man plays he must intermingle with things and people in an uninvolved and light fashion (1)He must do something which he has chosen to do without being compelled by urgent interests or impelled by strong passion; he must feel entertained and free of any fear or hope of serious consequences. He is on vacation from social and economic reality — or, as is most commonly emphasized: he *does not work*. It is this opposition to work which gives play a number of connotations. One of these is ‘mere fun’ — whether it is hard to do or not. As Mark Twain commented, ‘constructing artificial flowers is work, while climbing the Mont Blanc is only amusement’. In Puritan times and places, however, mere fun always connoted sin; the Quakers warned that you must ‘gather the flowers of pleasure in the fields of duty’. Men of equally Puritan mind could permit play only because they believed that to find ‘relief from moral activity is in itself a moral necessity’. Poets, however, place the emphasis elsewhere: ‘Man is perfectly human only when he plays’, said Schiller. Thus play is a borderline phenomenon to a number of human activities and, in its own playful way, it tries to elude definition.

It is true that even the most strenuous and dangerous play is by definition not work; it does not produce commodities. Where it does, it ‘goes professional’. (2)But this fact, from the start, makes the comparison of adult and child’s play somewhat senseless; for the adult is a commodity-producing and commodity-exchanging

being, whereas the child is only preparing to become one. To the working adult, play is recreation. It permits a periodical stepping out from those forms of defined limitation which are his social reality.

【2】 indecisive [ɪndɪsɪsɪv] 「優柔不断な」 immediate [ɪmɪːdiət] 「即座の」 on the contrary 「それどころか」 result in A 「結局 A になる」 A be inclined to B [ɪnˌklaɪnd] 「A は B する傾向にある」 feeble-minded [fiːbl] 「弱い」 a consequence [kɒnsɪkwəns] 「結果、結末」 a multitude of A [mʌltətjuːd] 「数多くの」 vital [vaɪtəl] 「重要な」「重大な」

【3】 intermingle with A 「A と関わる」 (=associate with A) uninvolved 「複雑でない」 fashion 「方法」 impel A to V 「A に V させる」 a connotation [kɒnəteɪʃən] 「暗示的意味」 playful [pleɪfəl] 「遊びらしい」 elude A [ɪluːd] 「A を逃れる」 strenuous [strɛnjuəs] 「骨の折れる」 by definition 「定義上」 periodical [pɪəriədɪkəl] 「周期的な」 defined 「明確な」

NO 55 <LISTENING//ENGLISH COMPOSITION>



- 【1】 [リスニング選択]
- 【2】 [英作文選択] 《神戸大》

解答時間各 20 分

下線部(1)(2)を英訳せよ。

(1)希望は、現状の維持を望むというよりは、現状を未来に向かって変化させていきたいと考えるときに、表れるものなのです。

(2)だとすれば、希望を持つためには、きびしい現実から目を背けないことが、まず重要になってきます。今の状況を変えるんだという思いは、過去から現在まで続いている挫折や試練を正面から受け止めることで生まれます。

(玄田有史『希望のつくり方』[一部改変])

【3】 〔英作文選択〕《神戸大》

次の日本語の下線部の意味を英語で表しなさい。

しばしば指摘されることですが、あらゆる言語は二つの異なった機能を有しています。一つはコミュニケーションの機能であり、もう一つは人格形成の機能です。言語によって互いにコミュニケーションを行うことは人間に際立った特徴です。人種や民族そして文化の多様性を考えると、言語はこうした違いから生じるあらゆる争いを防止し、相互の交流と平和を可能にする唯一の手段です。他方で、言語はこれまで、民族や文化の本質的な部分と考えられてきました。人間はそれぞれの民族や文化によって人格を形成するように、それぞれの言語を通じて自我というものを身に付けます。

英文解釈 基礎知識 〈FIVE SENTENCE PATTERN〉

構文解説 | 品詞

1. 《名詞の働き》

1. Her **ability** to write with her foot is amazing.
2. Talking is a human **ability**.
3. We admit that he is a man of **ability**.
4. We might have overestimated his **ability**.
5. Our earnings are in proportion to our real **ability**.
6. He is lacking of something important, the **ability** to concentrate.

1. 〈主語〉
彼女の足で書ける能力は驚くべきことだ。
2. 〈補語〉
話すことは人間の能力である。
3. 〈of 名詞：形容詞句〉 a man of ability = an able man
我々は彼がやり手だと言う事を認める。
4. 〈他動詞の目的語〉
私たちは彼の能力を過小評価していたのかもしれない。
5. 〈前置詞の目的語〉
我々の稼ぎは実力に比例している。
6. 〈同格「AつまりB」〉 ※AとBが文法的対等
彼は重要な資質、つまり集中力を欠いている。

2. 《形容詞の働き》

1. **The** movie often comes to a **happy** end.
2. He was **happy** in the bosom of his family.
3. The news made her **happy**.
4. **Happy** with his new job, these days he is very kind to everyone.

1. 〈名詞を修飾〉
映画はしばしば幸せな結末になる。
2. 〈主格補語〉

家族の愛情に包まれて彼は幸福であった。

3. 〈目的格補語〉
そのニュースを聞いて彼女はうれしくなった。
4. 〈分詞構文〉
新しい仕事もうまくいっているので、最近誰にでも優しい。

3. 《副詞の働き》

1. The apples are not **quite** ripe.
2. My heart's beating **so** fast!
3. I did not sleep **well** last night.
4. She can **hardly** speak Japanese.
5. Great pandas live **only** in China.
6. She despises him **only** because he is poor.

1. 〈形容詞を修飾〉
リンゴはまだ完全には熟してはいません。
2. 〈副詞を修飾〉
心臓がドキドキしてる！
3. 〈動詞を修飾〉
私は昨夜よく眠れなかった。
4. 〈否定文〉※not/hardly/scarcely は副詞扱い / no は形容詞
ほとんど話せない。
5. 〈前置詞句を修飾〉
パンダは中国にしかいません。
6. 〈副詞節を修飾〉
彼が貧しいというだけの理由で彼女は彼を軽蔑している。

4. 《前置詞》

1. He answered **in** a polite but not always honest **way**.
2. She explained her idea **by means of** pictures.
3. I know nothing **concerning** the lost textbook.
4. I like that young man **in that** he is honest and candid.
5. A question arose **as to** who should be the leader.
6. They talked and talked **until after** midnight.

1. 〈前置詞～名詞〉前置詞句を作る
彼は礼儀正しいが必ずしも正直に答えたわけではない。
2. 〈群前置詞〉2語以上からなる前置詞
彼女は自分の考えを絵によって説明した。
3. 〈分詞派生の前置詞〉
私は失われたテキストについて何も知らない。
4. 〈that節を取る前置詞〉※in that SV...「①SV...なので(理由)②SV...の点で」/ except that SV...「SV...を除いて」のみ
正直で率直なので、私はその若者が好きだ。
5. 〈as to 疑問詞節〉
誰がリーダーになるかについて質問が生じた。
6. 〈二重前置詞〉前置詞を二つ重ねて用いる用法
彼らは真夜中を過ぎるまで語り続けた。

5. 《副詞と前置詞の区別》

1. The sun slowly sinks **in** the west.
2. My train is due **in** at 7 p.m.
3. Keep the drawer **on** the chain.
4. Who left all the lights **on**?
5. There was a stranger standing right **behind** me.
6. She often falls **behind** with the payments.
7. He kept waiting **outside** the door.
8. She went **outside** for a breath of fresh air.
9. The children enjoying jumping **over** a puddle.
10. We have to think the matter **over**.

1. 〈前置詞〉
太陽がゆっくり西に沈む。
2. 〈副詞〉
私の乗る列車は7時に到着予定だ。
3. 〈前置詞〉
引き出しに鎖をかけておいてください。
4. 〈副詞〉
だれが電気をつけっぱなしにしたの。
5. 〈前置詞〉
知らない人が私の真後ろに立っていた。

6. 〈副詞〉
彼女はよく支払いが遅れる。
7. 〈前置詞〉
彼はドアの外で待ち続けた。
8. 〈副詞〉
彼女は新鮮な空気を吸いに外に出た。
9. 〈前置詞〉
子供たちは、水たまりをとび越えて遊んでいた。
10. 〈副詞〉
そのことについてじっくり考えてみる

構文解説 | 5 文型

1. 《5 文型 〈主語になるもの〉》

1. The rain prevented the boys from playing baseball.
2. To learn a foreign language often needs so much effort.
3. Seeing you there was the greatest pleasure to me.
4. Whether you believe it or not makes little difference to me.

1. 〈主語になるもの：名詞〉
雨のため、少年たちは野球ができなかった。
2. 〈主語になるもの：不定詞〉
外国語を学ぶには相当の努力が時に必要となる。
3. 〈主語になるもの：動名詞〉
そこであなたに会えたことが私には最大の喜びだった。
4. 〈主語になるもの：名詞節〉
君がそれを信じようと信じまいと僕にはたいした違いはない。

2. 《5 文型 〈目的語になるもの〉》

1. I will discuss **the problem** later about the problem.
2. We promised to stand by **him** in case of trouble.
3. He gave up **drinking** for the sake of his health.
4. We demanded **that he explain to us why he was late**.
5. Tell me **why you want to go there**.

1. 〈目的語になるもの：名詞〉 discuss の目的語
その問題については後で話し合おう。
2. 〈目的語になるもの：不定詞〉 promise(d) の目的語

- 困ったとき、彼の味方になると我々は約束しました。
3. 〈目的語になるもの：動名詞〉 give up の目的語
彼は健康のために酒をやめた。
 4. 〈目的語になるもの：名詞節 that〉 demand の目的語
我々は彼になぜ遅れたかを我々に説明するよう求めた。
 5. 〈目的語になるもの：疑問詞節(名詞節)〉 tell の目的語
なぜそこに行きたいのか、私に教えてください。

3. 《5 文型 〈補語になるもの① 主格補語〉》

1. His son became **a great scientist**.
2. She is very **thoughtful and patient**.
3. Her dream is **to lead a life full of variety**.
4. Tom's hobby is **collecting photos of cars**.
5. The ultimate question for me is **whether I like business**.
6. The trouble is **that I am not equal to the work**.

1. 〈補語になるもの：名詞〉
彼の息子は偉大な科学者になった。
2. 〈補語になるもの：形容詞〉
彼女はとても思慮深く、しんぼうづよい。
3. 〈補語になるもの：不定詞〉
彼女は変化に富んだ生き方をするのが夢である。
4. 〈補語になるもの：動名詞〉
トムの趣味は車の写真を集めることです。
5. 〈補語になるもの：名詞節〉
私にとって結局問題なのは商売が好きかどうかということだ。
6. 〈補語になるもの：名詞節〉
困ったことに、私はその仕事に耐えられない。

4. 《5文型〈補語になるもの② 目的格補語〉》

1. I think him **a good teacher**.
2. She painted the wall **pink**.
3. His doctor told him **to cut down on drinking**.
4. I will not let her **escape** this time.
5. I heard her **singing in her room**.
6. We saw a boy **run over by a truck**.

1. 〈補語になるもの：名詞〉
私は彼をいい先生だと思う。
2. 〈補語になるもの：形容詞〉
彼女は壁をピンクに塗った。
3. 〈補語になるもの：to 不定詞〉
医者は彼に酒量を減らすように言った。
4. 〈補語になるもの：原形不定詞〉 make O V 「OにVさせる」
今度こそは彼女を逃がさないぞ。
5. 〈補語になるもの：現在分詞〉
私は彼女が自分の部屋で歌っているのを聞いた。
6. 〈補語になるもの：過去分詞〉
私たちは少年がトラックにひかれるのを見た。

英文解釈 英文読解の技術 〈品詞分解〉

次の各英文の下線部の語の品詞を下記のカッコの中から選んで記入しなさい

(代)名詞	名詞	動名詞	形容詞	現在分詞 (限定用法)	現在分詞 (叙述用法 C になる)	現在分詞 (分詞構文)	過去分詞 (限定用法)	過去分詞 (叙述用法 C になる)	過去分詞 (分詞構文)	副詞	動詞	名詞節を導く接続詞	副詞節を導く接続詞	関係代名詞	関係副詞	強調構文の that/who/which	前置詞	等位接続詞
-------	----	-----	-----	-------------	-------------------	-------------	-------------	-------------------	-------------	----	----	-----------	-----------	-------	------	----------------------	-----	-------

(1) 〈大阪府立大〉

Laughter is a ① decidedly social signal, ② not a self-centered expression of emotion. In the absence of ③ stimulating media (television, radio or books), people are ④ about 30 times more likely to laugh when they are in a social situation ⑤ than when they are alone. ⑥ Indeed people are more likely to smile or talk to themselves than they are to laugh when they are alone. Aside from the obvious implication ⑦ that ⑧ sociality can encourage laughter and ⑨ perhaps ⑩ lift one's mood, these observations indicate ⑪ that laughter has a social function. What can we say about laughter as communication?

(2) 〈神戸大〉

The world is gray. Nothing is pure black and nothing pure white. ① When we apply black-and-white reasoning to a gray world, we must treat something ② true to a degree as either wholly true or wholly false. Each step in a reasoning process ③ requires such a simplification and ④ therefore adds another layer of arbitrariness and error. The more reasoning you throw at something, the ⑤ farther you get from the actual case, not the closer.

(3) 〈関西学院大〉

Is ① creativity something that is ② appropriate only to a few people of special talents, who rise to a level that is commonly called “genius”? ③ Clearly, it is not all a matter of special talent ④ because there are a ⑤ tremendous number of ⑥ highly talented people who remain ⑦ unexceptional. Thus, ⑧ here must have been a ⑨ onsiderable body of scientists who were ⑩ etter at mathematics and knew more physics than Einstein did. The difference was ⑪ that Einstein had a ⑫ certain quality of ⑬ originality.

But what is this quality of originality? It is very hard to define or specify. Indeed, to define originality would in itself be a contradiction, ⑭ since ⑮

whatever action can be defined in this way must evidently be unoriginal. ⑮ Perhaps, then, it might be better to hint at it by indirection, rather than to try and assert positively what it is.

(4) 〈大阪府立大〉

In ①seeking the roots of today's crisis, we need to take another look at what happened in the nineteenth century, when Japan first ②encountered the West. Japan woke from centuries of ③isolation to find itself a poor and ④weak nation in a world ⑤where many ancient kingdoms were ⑥rapidly being swallowed ⑦up by European colonial powers. ⑧Shocked at the nation's ⑨precarious position, Japan's new rulers set out on a crash program to build up the economy and the army, first to resist the Western powers and ⑩later to challenge them for dominance. From the beginning, this ⑪meant ⑫making ⑬industrial output a top priority to which ⑭almost everything ⑮else had to be sacrificed.

(5) 〈大阪大〉

I know a great many people worry ①deeply about how they speak and how they sound, and ②that this anxiety often stops them ③expressing themselves as fully ④as they would wish. ⑤Nowadays, because ⑥probably more people than ever find themselves having to express their thoughts and ideas in situations which are important to them, ⑦yet in which they do not feel totally at ease, it is ⑧valuable to look at the reasons for this anxiety, and to find out, practically, ⑨what can be done about it. I feel strongly ⑩that the confidence that comes from knowing you are able to express yourself with clarity and ⑪ease extends into all areas of your life — both private and public — and makes you more fulfilled and ⑫complete. In other words, if you have confidence when you speak, it will make you, as a person, more ⑬confident and, ⑭consequently, ⑮more relaxed.

(6) 〈大阪市立大〉

In explaining any human ①shortcoming, the first tool I reach for is Hanlon's Razor: Never attribute to malice* ②that which is adequately explained by stupidity. The kind of stupidity I have in mind has nothing to do with ignorance or low IQ; in fact, it's often the brightest and best informed ③who suffer the most from it. I ④once attended a lecture on biology ⑤addressed to a large general audience at a conference on technology, entertainment, and

design. The lecture was also being filmed for distribution over the Internet to millions of other laypeople. The speaker was an ⑥ eminent biologist who had been invited to explain his recent ⑦ breakthrough in the structure of DNA. He launched ⑧ into a jargon-packed technical presentation ⑨ that was geared to his fellow molecular biologists, and it was immediately ⑩ apparent to everyone in the room ⑪ that none of them understood a word. Apparent to everyone, that is, ⑫ except the eminent biologist. When the host interrupted and asked him to explain the work more clearly, he seemed ⑬ genuinely surprised and not a little ⑭ annoyed. This is the kind of stupidity I am talking ⑮ about.

* malice=hatred eminent=famous

(1)笑いは、明らかに社会的な信号であり、自己中心的な感情表現ではない。刺激的なメディア(例えばテレビ、ラジオ、本)がない場合でも、人々は、1人での時より、他の人たちと一緒にいる時の方が、約30倍は笑いやすい。確かに人は、1人での時には、笑うより、にやったり、独り言を言ったりしがちである。人といすることで笑いやすくなり、おそらく気持ちが高ぶることがあるというのはどうやら明らかなようだという点はさておき、こういうところを見ると、笑いには社会的機能があるということはいくぶんわかる。コミュニケーションとしての笑いとなるとどうだろうか?

(2)世界は灰色である。真っ黒なものはないし、真っ白なものもない。私たちが白黒をはっきりさせる論法を灰色の世界に適用するならば、ある程度正しい事柄を、完全に正しいか、完全に間違いかのどちらかとして扱わなければならない。論理的に考えるプロセスにおける各段階では、そういう単純化が求められるので、結果的に、恣意性と誤りが積み重なってゆく。何かに対して論理的な考え方をすればするほど、真相からは遠ざかるばかりで、近づくことはないのである。

(3)独創性とは、一般に「天才」と呼ばれる段階にまで昇り詰めるような、特別な才能をもつ一握りの人々にだけに特有のものなのだろうか?明らかに、全てが特別な才能の問題というわけではない。というのも、平凡なままで収まっている、膨大な数の非常に才能に恵まれた人々がいるからだ。したがって、アインシュタインよりも数学に秀でており、物理に精通していた科学者はかなり大勢いたはずだ。その違いは、アインシュタインにはある種の質の独創性があったということだ。

しかし、この独創性の質とは何なのだろうか?それは定義したり、特定したりするのが非常に困難なものだ。実際独創性を定義するとすれば、その行為自体が矛盾することになる。というのも、この方法で定義される行動は全て、明らかに独創的ではないに違いないからだ。とすれば、ひょっとすると、独創性とは何なのかをきっぱりと断言しようとするのではなく、遠回しにそれとほめかすほうが良いのかもしれない。

(4)今日の危機的状況の根源を探る際に、私たちは日本が初めて西洋と出会った19世紀に起きたことをもう一度検証する必要がある。日本は数世紀にわたる孤立から目覚めると、多くの古来の王国が欧州の植民地勢力に急速に飲み込まれつつあった世界にあって、自国が貧しい弱小国であるということを思い知ったのであった。自国の危うい立場に衝撃を受けて、日本の新しい支配者たちは経済と軍隊を構築する突貫計画に着手したのだが、それは当初は西洋の列強に対抗するためであり、後には彼らと覇権を争うためのものとなった。最初から、これは工業生産高を最優先するということであり、他のほぼすべてをその犠牲にしなければならなかった。

(5)非常に多くの人々が話し方や話しがどう聞こえるかを深く心配しており、この不安で自分たちが望むようには十分に自分自身を表現することができないことを知っています。今日、おそらくこれまで以上に多くの人々が自分にとって重要な状況だが、完全に安心してできていない状況で、自分の考えやアイデアを表現しなければならないことに気づいているので、この不安の理由を直視することと、実際に、それについて何ができるかを見つけることは価値がある。あなたが自分を明快かつ簡単に表現できることを知ることで得られる自信は、プライベートとパブリックの両方のあなたの人生のすべての領域に広がり、あなたをより充実した完全なものにすると私は強く感じる。言い換えれば、話すときに自信があれば、人としての自信が増し、その結果、リラックスできるようになります。

(6)何であれ人の持つ欠点を説明する際に、私がまず手をつける道具は「ハンロンの剃刀」だ。曰く、愚かさをきちんと説明がつくことに悪意を見出しはならない。私が想定している類の愚かさというのは、無知やIQの低さなどとはまったく関係がない。それどころか、この愚かさに最も悩むのはものすごく聡明でもものすごく知識のある人なのだ。以前、科学技術と娯楽とデザインを議題とする集まりの場で、多数の一般の聴衆に向けた生物学の講義に出席したことがある。その講義はまた、録画されてインターネット上で何百万もの、これまた一般の人に公開されることにもなっていた。話をしたのは著名な生物学者で、DNAの構造において彼が最近達成した成果を説明するよう依頼を受けていた。彼が始めたのは難用語が詰まった専門的なプレゼンテーションで、分子生物学者仲間に合わせて内容だった。だからすぐに、誰一人として一言も理解できていないことが部屋にいた皆に明らかになった。皆に、といっても当然の著名な生物学者を除いてということだが、司会者が割って入って、成果をもっとわかりやすく説明するように求めると、本人は心底驚いた様子を見せ、少なからず不快に感じているようだった。これが私の話している類の愚かさである。

〈長文読解の技術 スラッシュリーディング〉

1. スラッシュリーディング（区切り読み）とは

「スラッシュリーディング」とは、英文を前から理解することを目的とした読解方法です。英文を意味のカタマリごとにスラッシュ(/)で区切って読んでいきます。「誰が」「何をした」→「どこで?」「いつ?」「何のために?」というように、後に続く内容をカタマリごとに予想しながら読んでいきます。英語を語順通り読むことで、速読力やリスニング力も同時にアップします。

2. 「キレイな和訳」は厳禁!

通常の英語の授業が和訳中心であったり、テストで和訳を求められることが多いため、英文を読むときに頭の中で「キレイな日本語に訳す」習慣がついている人は少なくありません。テストではそうせざるを得ないものの、すべての英文をきれいに訳す必要はありません。また、一般的に、日本語をきれいに訳そうとすると、英語を後ろから訳し上げることになり、英語を読むスピードがかなりかなり落ちる上に、リスニング力養成にはかえって弊害が生じかねません。

It was odd to see her name listed so boldly — “E. Sampson, Spiritualist” — in the entrance hall beside the lift, among the dentists, photographers, and my own Miss McIntyre. 〈東京大〉

[後から訳し仕上げた和訳]

エレベータの脇のエントランスホールで、歯科医、写真家、そして私が教わっていたマッキンタイア先生の中に、彼女の名前が「E. Sampson 降霊術師」とはっきり掲げているのは奇妙だった。

[スラッシュリーディング]

It was odd / 奇妙なのは / to see her name listed so boldly / 彼女の名前が非常にはっきりと掲げているのを見たこと / — “E. Sampson, Spiritualist” / 「E. サンプソン降霊術師」 / — in the entrance hall beside the lift, / エレベータの脇のエントランスホールで / among the dentists, photographers, and my own Miss McIntyre. / 歯科医、写真家、そして私が教わっていたマッキンタイア先生の中に

3. スラッシュリーディングの区切り方の例

一般的なスラッシュを入れる箇所

- ・前置詞の前
- ・動名詞の前
- ・不定詞の前
- ・過去分詞の前
- ・接続詞や疑問詞節の前
- ・関係詞の前
- ・カンマ(,)、セミコロ
ン(;)、コロン(:)、ダッシュ(—)の後
- ・長い主語の後(述
語動詞の前)
- ・長い目的語や補語の前

スラッシュリーディングは「英文を前から意味のカタマリごとに理解する」のが目的です。必ずしも上の約束事通りにならなくてもかまいません。初めは細かく区切った方が読みやすいかもしれませんが、慣れてくるとより大きなカタマリで捉えられるようになります。それこそ、読解力工場のあかしです。

I have known in the course of my life a great many rich people, and I can hardly think of one of them who appears to be either happy or free. I have known a great many people who were extremely poor — they also could hardly be happy and free. But in the intermediate realms you find most happiness and freedom. It is not great wealth or great poverty that brings most happiness.

I have known / in the course of my life / a great many rich people,

私は知っている / 人生において / 非常に多くの金持ちの人々

and I can hardly think of* / one of them /

そして私はほとんど思いつかない / その人たちの一人

who appears to be either happy or free.

彼らは幸せか自由のいずれかであるように思われる。

I have known a great many people / who were extremely poor

私は多く非常に多くの人を知っている / 彼らは非常に貧しかった

— they also could hardly be happy and free.

彼らもまた幸せでも自由ともほぼ言えない

But / in the intermediate realms / you find most happiness and freedom.

しかし / その中間に / たくさんの幸せや自由を垣間見る

It is not great wealth or great poverty / that brings most happiness.

大きな富や大きな貧困ではない / たくさんの幸せをもたらすのは

*think of …を一つの他動詞として考える

英文解釈 品詞 〈接続詞とその領域〉

CASE 1 〔接続詞の確認〕

When we look at the languages of the world, we find hundreds of isolated languages. Moreover, **when** we look at all the language families of the world, the differences between them stand out much more than the similarities. Could they all have come from a single source? It is possible. But it is also possible **that, when** the human race first learned to talk, it did so in different parts of the world in different ways, and perhaps even at different times. 〈神戸大〉

語彙 stand out 「目立つ」 similarity 「類似(点)」 [sɪməˈlæərətɪ] source [sɔːrs] 「源」 perhaps [pəˈhæps] 「ひょっとしたら」
 全訳 世界の言語を見ると、何百もの孤立した言語がある。さらに、世界のすべての語族見ると、それらの違いは類似点よりもはるかに際立っている。それらはすべて単一の源から来たのであろうか？あり得る。しかし、人類が最初に話すことを学んだとき、それは世界のさまざまな部分でさまざまな方法で、おそらくはさまざまな時期にそうすることも可能である。

CASE 2 〔接続詞の領域〕

As a rule, processed foods are more “energy dense” **than** fresh foods: they contain less water and fiber but more added fat and sugar, **which** makes them both less filling and more fattening. These particular calories also happen to be the least healthful ones in the marketplace, **which is why** we call the foods that contain them “junk.” Drewnowski concluded **that** the rules of the food game in America are organized in such a way **that if** you are eating on a budget, the most rational economic strategy is to eat badly — and get fat. 〈甲南大〉

語彙 as a rule 「概して」 process [prəˈses] 「加工処理する」 contain A [kənˈteɪn] 「Aを含む」 fiber [ˈfaɪbər] 「繊維」 fatten [ˈfætn] 「太らせる」 particular [pəˈtɪkjələr] 「特有の」 conclude [kənˈklúːd] 「結論付ける」 organize A [ɔːˈrɡənàɪz] 「Aを組み立てる」 budget [bʌˈdʒɪt] 「予算」 rational [ræʃənəl] 「合理的な」 strategy [strætədʒi] 「戦術」
 全訳原則として、加工食品は生鮮食品よりも「エネルギー密度が高く」なる。水と繊維はより少なくなるが、脂肪と砂糖が多くなるため、充填量が少なくなり、肥厚しやすくなる。これらの特定のカロリーは、たまたま市場で最も健康に悪いものであるため、それらを含む食品を「ジャンク」と呼んでいる。ドリューノフスキーは、アメリカのフードゲームのルールは、予算内で食べている場合、最も合理的な経済戦略は多く食べることであり、太ることであると結論付けた。

1. 《接続詞の種類》

1. I think **that** he is responsible for this accident.
2. The book **that** was published ten years ago is popular with us.
3. He has lost the pen **that** I lent him on his birthday.
4. I was very glad **that** she passed the exam.
5. Talk louder **so that** we can hear you.
6. She can't accept the fact **that** we explained it to her.
7. She can't accept the fact **that** we explained to her.
8. It is here **that** we met for the first time.

1. 〈名詞節 | think の目的語〉
彼はこの事故の責任者だと思う。
2. 〈形容詞節 | 目的格の関係代名詞〉
10年間に出版された本が私たちの間に人気である。
3. 〈形容詞節 | 目的格の関係代名詞〉
彼は私が彼の誕生日に彼に貸したペンを失くした。
4. 〈副詞節 | 原因・理由を表す〉
彼女が試験に合格したのでとても嬉しかった。
5. 〈副詞節 | 目的・結果を表す〉
私たちがあなたの声を聞くことができるように大声で話してください。
6. 〈名詞節 | 同格〉 **that** 節内が完全文であることに注意
彼女は私たちが彼女にそれを説明したという事実を受け入れてくれない。
7. 〈関係詞節 | 目的格〉 **that** 節内が不完全文であることに注意
彼女は私たちが彼女に説明したという事実を受け入れてくれない。
8. 〈強調構文〉
まさにここで、私たちは初めてであった。

2. 《等位接続詞》

1. I have long lived, **and** will live in this town.
2. She doesn't smoke **or** drink.
3. She is elegant **but** a little talkative.
4. I asked her to stay longer, **for** I had something to tell her.

1. 〈等位接続詞 and〉
私はこの街に長い間住んできたし、これからも済むつもりだ。
2. 〈等位接続詞 or〉
彼女はたばこも酒もやらない。
3. 〈等位接続詞 but〉
彼女は上品だが少しおしゃべりだ。
4. 〈等位接続詞, for〉理由を表す
私はここで彼女を待った。というのも話すべきことがあったからだ。

3. 《相関接続詞》

1. He is good **both** at tennis and baseball.
2. **Either** you **or** I have to do the job.
3. He can speak **neither** English **nor** French.
4. I want to date not with Nancy **but** with Yoko.
5. I know **not only** her name **but also** her phone number.
6. She is **not so much** stingy **as** thrifty.
7. He chose to learn German **rather than** French in school.
8. It is difficult **if not** impossible to solve this problem.

1. 〈both A and B | A も B も両方〉
彼はテニスも野球も得意である。
2. 〈either A or B | A か B のどちらか〉
君か僕のいずれかがその仕事をしなければならない。
3. 〈neither A or B | A と B のいずれも…ない〉
彼は英語もフランス語も話せない。
4. 〈not A but B | A でなく B〉
私はナンシーではなくヨーコとデートしたいのだ。
5. 〈not only A but also B | A だけでなく B も〉
僕は彼女の名前だけでなく電話番号も知ってるよ。
6. 〈not so much A as B/not A so much as B | A というよりむしろ B〉
彼女はケチというよりもむしろ倹約家なのだ。
7. 〈A rather than B | B というよりむしろ A〉
学校でフランス語よりはむしろドイツ語の方を選択した。
8. 〈A if not B | B でないとしても A〉
この問題を解くのは不可能ではないとしても難しい。

英文解釈 動詞の識別 〈V / to V / Ving / Vp.p.〉

CASE 1

Not everyone believed there had been a real city named Troy, but one of those who did was an archaeologist* named Frank Calvert. It was Calvert who first discovered that what looked like a large hill on the Turkish plain had actually been made by human beings. Calvert believed that inside that man-made hill lay the lost city of Troy. He bought some of the land and started digging. When Schliemann met Calvert in 1868, he adopted his beliefs. Eventually, though, Schliemann made the discovery of Troy sound as if it were his alone. *archaeologist 考古学者 〈立命館大〉

語彙 Troy[trɔɪ] 「小アジア北西部の古代都市」 dig[dɪɡ] 「穴を掘る」 adopt A[ədɑpt] 「Aを採用する」
全訳誰もがトロイという名前のある実際の都市があると信じていたわけではないが、そうした人の一人はフランク・カルバートという名前の考古学者であった。カルバートが、トルコ平原の大きな丘のように見えるものが実際に人間によって作られたことを最初に発見したのであった。カルバートは、人工の丘の中に失われたトロイの街があると信じていた。彼は土地の一部を購入し、掘り始めました。1868年にシュリーマンがカルバートに会ったとき、彼の信念を取り入れた。しかし、最終的に、シュリーマンによって、トロイの発見は、まるで彼単独のように聞こえることとなった。

CASE 2

Although the nineteenth century was an era of steam, the last quarter of the century saw electricity come into its own, as a source of power and of light. Whether the source of power was steam or electricity, it was dependent upon coal, so that this period was one of great expansion and development for the coal industry. 〈同志社大〉

語彙 steam[sti:m] 「蒸気」 come into one's own 「本領を発揮する」 development [divələpmənt] 「発達」 electricity [ilektrɪsəti] 「電気」 expansion [ɪkspænʃən] 「拡大」
全訳 19世紀は蒸気の時代であったが、最後の25年間には、電気が動力と照明のエネルギー源として、本格的に利用されるようになった。動力源は蒸気であろうと電気であろうと、石炭に依存していた。だからこの時代は、石炭産業が大きく拡大し、発達した時代であった。

CASE 3 [Ving の識別]

It's early evening, and you've stopped at the grocery store to pick up a few items for dinner on your way home. You grab a cart and start **walking** through the shop, quickly **looking** at the shelves up and down, left and right, **tossing** items into your cart as you go. You head to the cash register, casually **glancing** at the magazine covers as you pick up a last-minute item, you exchange a few words with the clerk, pay by card, fill your bags, and be on your way. 〈関西学院大〉

語彙 grab[græb] 「ひっつかむ」 glance at A[glæns] 「ちらりと見る」 clerk[klɜ:k] 「店員」「事務員」
全訳 夕方早い時間で、食料品店に立ち寄って、帰宅途中の夕食にいくつかの商品を受け取った。カートを手に取り、店内を歩き始め、棚を上下左右にすばやく見て、商品をカートに入れて進む。あなたはレジに向かい、最後の商品を取り上げると、雑誌の表紙をさりげなくちらっと見る。店員と少しの言葉を交わし、カードで支払い、荷物をいっぱいにして、帰途につく。

CASE 4 [Ved / Vp.p.の識別①]

Over the centuries, philosophers investigating knowledge have **revealed** some strange puzzles and paradoxes, and have also **developed** advanced solutions to these problems. Knowledge is sometimes **portrayed** as a free-flowing resource: it is **stored** in databases and libraries, and exchanged through “the knowledge economy,” as information-**driven** commerce is sometimes **called**. Like many resources, knowledge can be acquired, used for various purposes, and lost — sometimes at great expense. But knowledge has a closer connection to us than resources like water or gold. Gold would continue to exist even if the whole of humanity were **wiped** out in a disaster; on the other hand, the **continued** existence of knowledge depends on the existence of someone who possesses that knowledge.

語彙 investigate A[invéstəgèit] 「Aを調査する」 reveal A[riví:l] 「Aを明らかにする」 paradox[] 「パラドックス」
[pærədáks] 「矛盾」 portray A[pɔ:tréi] 「Aを描く」 commerce [kámə:rs] 「商取引」 disaster[dizæstər] 「災害」
possess A[pəzès] 「Aを所有する」

全訳何世紀にもわたって、知識を調査する哲学者は奇妙なパズルとパラドックスを明らかにし、これらの問題に対する高度な解決策を産み出した。知識は時々自由に流れる資源として描かれる。情報駆動型商取引が呼ばれるのと同様に、知識はデータベースやライブラリに保存され、「知識経済」を通じて交換される。多くの資源と同様に、知識は取得したり、さまざまな目的に使用したり、失われたりすることがある。しかし、知識は水や金のような資源よりも私たちと密接な関係がある。人類全体が災害で全滅したとしても、金は存在し続ける。一方、知識の継続的な存在は、その知識を所有する誰かの存在に依存する。

CASE 5 [Ved / Vp.p.の識別②]

My father was a tall man with an impressive shock of white hair, which gave him a distinctive and **dignified** look. He had kindly eyes and a gentle face. He **appeared** to be the perfect father figure: **concerned**, compassionate, and knowing. With the advent of his fame he **acquired** a larger-than-life social aura, a special air of confidence, which **nourished** people’s fantasies about him and **suggested** that he **felt** as wise and as comfortable with himself as they **perceived** him to be. His words, even his most casual remarks, were **heard** as profoundly meaningful, because of the reverence **felt** toward their source. And people often **felt** deeply **understood** by him even in the course of a brief conversation — the power of his sympathy was **magnified** by his aura. 〈大阪大〉

語彙 impressive [imprésv] 「印象的な」 distinctive [distɪŋktɪv] 「独特の」 dignified [dɪgnəfəɪd] 「威厳ある」
concerned[kənsəˈrɪnd] 「気遣いのできる」 compassionate[kəmpəʃənət] 「思いやりがある」 knowing[nóuɪŋ] 「物知りな」
larger-than-life[] 「実際以上の」 aura[ɔːrə] 「オーラ」「独特の雰囲気」 nourish A[nəˈrɪʃ] 「Aを育む」 fantasy [] 「幻想」
reverence [fɛntəsi] 「敬意」 sympathy [sɪmpəθi] 「共感力」

全訳父はもじゃもじゃの白髪が印象的な背の高い男性で、その白髪が父に独特の威厳ある風貌を与えていた。父は優しい目と穏やかな顔つきをしていた。完璧な父親の姿のように見えた。気遣いと思いやりがあり、物知りであった。名声を得て、父は周囲の人々を捕らえる並外れた独特の雰囲気、すなわち自信に満ちた特別な風格を身に付けたのである。その雰囲気は父に関する人々の幻想を育み、人々がそう認めるのと同じくらい自分でも学識があると思い、自分に満足を感じていることを暗示していた。父の言葉は、ふと何気なくもろく感想のようなものでさえ、その言葉が言及している対象に対して敬意が感じられるため、非常に意味深いものとして聞かれた。そして人々は、短い会話の間でも自分が父によって深く理解されていると感じることがしばしばあった。父の共感力はその独特の雰囲気によって拡大されていたのである。

1. 《Ving の区別》

1. Do you know where my **walking** shoes are?
2. My brother is **walking** for the museum.
3. I saw Nancy **walking** with Tom.
4. **Walking** on the road, I found a beautiful dandelion.
5. Look at the man **walking** a dog over there.
6. My grandfather liked **waking** around the park.

1. 〈名詞〉
私のウォーキングシューズがどこにあるか知りませんか。
2. 〈現在分詞 | be 現在分詞〉動詞の一部
私の兄は博物館のほうに向かって歩いています。
3. 〈現在分詞 | 目的格補語 S V O Ving〉形容詞 (句)
私は昨日ナンシーがトムと歩いているのを見た。
4. 〈現在分詞 | 分詞構文〉副詞 (句)
道を歩いていると、美しいタンポポを見つけた。
5. 〈現在分詞 | 名詞修飾〉形容詞 (句)
向こうで犬と散歩している人を見てください。
6. 〈動名詞〉
私の叔父ちゃんは公園の周りを歩くのが好きだった。

2. 《Vp.p の区別》

1. This book is **written** in easy English.
2. He has just **written** to you.
3. I found the letter **written** in French.
4. He got the report **written** by his father.
5. **Written** in light characters, your answer is difficult to read.

1. 〈過去分詞 | be 過去分詞〉受動態
この本は簡単な英語で書かれています。
2. 〈過去分詞 | have 過去分詞〉完了形
彼はあなたに手紙を書いたところです。
3. 〈過去分詞 | 名詞を修飾する〉形容詞 (句)

- フランス語で書かれた手紙を見つけました。
4. 〈現在分詞 | 目的格補語 S V O Vp.p.〉 形容詞 (句)
彼はその報告書を父に書いてもらった。
 5. 〈過去分詞 | 分詞構文〉 副詞 (句)
薄い字で書かれているので、あなたの答えは読みにくいです。

3. 《V の区別 | 本動詞と原形不定詞》

1. She made him **clean** the room.
2. I'll have him **translate** this letter.
3. Please let me **know** your availability.
4. I saw a man wearing a cap **run** away.
5. I heard someone **shout** in the distance.
6. We felt my house **shake** last night.
7. My neighbor helped me (to) **clean** my room.
8. All you have to do is (to) **click** here.
9. I can't do anything but (to) **pray** for everyone's safety.

1. 〈make O 原形不定詞「O に～させる」〉 強制
彼女は彼に部屋を掃除させた。
2. 〈have O 原形不定詞「O に～させる」〉 依頼
私は彼にその手紙を翻訳してもらおうつもりです。
3. 〈let O 原形不定詞「O に～させる」〉 許可
あなたのご都合を私にお知らせください。
4. 〈see O 原形不定詞「O が～するのを見る」〉
帽子をかぶった男が走り去るのを見た。
5. 〈hear O 原形不定詞「O が～するのを聞く」〉
私は、遠くで、誰かが叫ぶのを聞きました。
6. 〈feel O 原形不定詞「O が～するのを感じる」〉
私たちは昨夜、私の家が揺れるのを感じました。
7. 〈help O (to) 原形不定詞「O が～するのを手伝う」〉
隣に住んでいる人が部屋を掃除するのを手伝ってくれた。
8. 〈All you have to do is (to) 原形不定詞「～するだけでいい」〉
あなたはここをクリックするだけでいい。
9. 〈can't do anything but (to) 原形不定詞「～せざるを得ない」〉
みんなの安全を祈ることを除いたどんなこともできない。
(=みんなの安全を祈ることしかできない。)

英文解釈 構文分析① 〈主語の発見〉

CASE 1 [主語の原則 | 文の最初に出てくる前置詞のついていない名詞]

One of the unusual things a visitor might experience during a trip to England comes when riding the London Underground. These days, there are **few trains** running on the Circle Line. **They** used to come along every few minutes, but now, generally **you** wait for a very long time to see one. On one particular morning, **a great many of us** had been standing on a platform at Gloucester Road station for about twenty-five minutes without any sign of a train. **I** noticed a man standing beside me **who** appeared to be a tourist and looked very confused. 〈神戸大〉

語彙 unusual[ˈʌnjú:zʊəl] 「異常な」「珍しい」 particular[pə'tɪkɪkjələr] 「特定の」「特有の」 confused[kən'fju:zd] 「困惑」「混乱」した

語彙科学研究は通常、ある個体の集団に関する何らかの疑問から始まる。たとえば、ある研究者は弟や妹の数が第1子の子供たちの学業成績にどのような影響を及ぼすかに興味を抱くかもしれない。あるいは、男女のさまざまな体型について調べたいと思う研究者もいるかもしれない。最初の例では、その研究者は家族で最初に生まれた子である子供たちの集団に興味がある・2つ目の例では、その研究者は全男性の集団と、全女性の集団とを比較したいと思う。集団を構成するのは人でなくてもよい—それがアフリカのゾウの集団、大都市のコンビニ、工場で生産される車、他の何であれ、研究者が研究したいものであればよいのだ。科学において、私たちは・研究したい個体の集団全体を母集団と呼んでいる。

CASE 2 [主語の発見 | 長い主語]

The assertion that mathematics has been a major force in the molding of modern culture, as well as a vital element of that culture, appears to many people incredible or, at best, an extreme exaggeration. This disbelief is quite understandable and results from a very common but mistaken conception of what mathematics really is. 〈神戸大〉

語彙 assertion[ə'sɜ:rjən] 「主張」 mo(u)ld A[móuld] 「Aを形成する」 vital[váitl] 「重要な」 element[éləmənt] 「要素」 incredible[ɪnkrédəbəl] 「信じられない」 exaggeration[ɪgzæ'dʒɛrɪjən] 「誇張」 (exaggerate A 「Aを誇張する」) conception[kənsépjən] 「考え方」「概念」

全訳数学は現代文化にとって、きわめて重要な要素であるばかりではなく、その現代文化の形成にあたって大きな力となってきたという主張は、多くの人々にとっては信じがたいことであるか、あるいは、せいぜい極端な誇張であるように思われる。この不信感なきわめて当然とも思われるが、これは数学とは本当はどのようなものであるかについての非常によくある、しかし誤った考え方からきている。

CASE 3 [主語の発見 | 名詞節が主語になる場合]

How we handle our own feelings of impatience, hostility, and anger is a far more powerful example to our children than what we tell them to do with theirs. We don't want to impose our black moods on our children, but neither do we want to pretend that our angry feelings don't exist. In any case, we may as well be honest, for even when we try to cover up our anger, our children sense how we feel. 〈大阪大〉

語彙 handle A[hændl] 「Aに対処する」 impatience [ɪmpéijəns] 「いらだち」 hostility [hástɪləti] 「敵意」 impose A on B [ɪmpóuz] 「AをBに押し付ける」 pretend that SV...[pri (:) ténd] 「SV...の振りをする」

全訳私たちが自分自身のいらだち、敵意、怒りの感情にどのように対処するかを示すことは、子供たちに対して、そういう感情をどう処理するかを口で言うよりもはるかに説得力のある手本となる。私たちは自分のむっとした気分を子供に押しつけたとは思わないが、自分の怒りの感情が存在しないようなふりもしたくはないものである。いずれにせよ、私たちは正直でいるほうがよい。なぜなら、怒りを隠そうと思っても、子供は私たちがどういう気持ちなのかを感じ取るからである。

CASE 4 [接続詞内部の主語の発見]

Studies have found that committing to any small, consistent act of self-control, such as improving your posture, cutting back on sweets, and keeping track of your spending, can increase overall willpower. And while these small self-control exercises may seem inconsequential, they appear to improve the willpower challenges we care about most, including focusing at work, taking good care of our health, resisting temptation, and feeling more in control of our emotions.

〈神戸大〉

語彙 commit to A[kə'mít] 「Aに取り組む」 consistent [kənsɪ'stənt] 「継続的な」「首尾一貫した」 posture[pə'stʃər] 「姿勢」 keeping track of A[] 「Aの記録をつける」 overall 「全体の」 inconsequential[ɪnkənsɪkwə'nʃəl] 「たいしたことではない」 resist A[rɪzɪst] 「Aに抵抗する」 temptation[temptə'teɪʃən] 「誘惑」

全訳研究によると、たとえば、姿勢を良くするとか、甘いものを控えるとか、支出の記録をつけるといったように、何であれ、ちょっとした継続的な自制心を使う行為を行うことで、全体としての意志力を高めることができるということがわかってきた。しかも、これらのちょっとした自制心の訓練は、あまりたいしたことではないように思われるかもしれないが、仕事に集中したり、健康に留意したり、誘惑と戦ったり、自分の感情をこれまで以上にコントロールできている気がするというようなことも含め、私たちが最も気にかけている意志力の課題を向上させるように思われるのだ。

CASE 5 [主語の発見 | 長い副詞節, SV…]

As we tremble with anticipation at the prospect of finding a single microorganism on another planet, under our feet we're wilfully executing a mass extinction event. Once a fashionable cause, threats to our forests, which are cradles to the diversity of life, have been largely forgotten. But this century we've been losing them at the astonishing rate of 50 football pitches per minute. That's an area the size of Greenland since the turn of the millennium.

〈神戸大〉

語彙 tremble [trɛmbl] 「震える」 anticipation [æntɪ'sɪpeɪʃən] 「期待」 prospect [prɒspekt] 「展望」 microorganism [ˌmaɪ.krɔʊ'ɔː.ɡən.i.zəm] 「微生物」 wilfully [ˈwɪlfəli] 「自らの意志で」 execute A[ɛksɪkjù:t] 「Aを実行する」 extinction [ɪkstɪŋkʃən] 「絶滅した」 cradle [krɛɪdl] 「場所」「ゆりかご」 astonishing [ə'stəniʃɪŋ] 「驚くべき」 the turn of the millennium[mɪləniəm] 「世紀の変わり目」

全訳他の惑星にたった1つの微生物を発見できるかもしれないという期待に身を震わせながらも、その足元で、私たちは自らの意志で大規模な絶滅行為を行っている。かつては当代流行の原因であった、生命の多様性が生まれる場所である森林に対する様々な脅威は、ほとんど忘れ去られている。しかし、今世紀に入って私たちは毎分、フットボールの競技場50個分という驚くべき速度でその森林を失いつつある。それは、今世紀に入ってからだと、グリーンランドの広さに相当する面積なのだ。

CASE 6 [主語の発見 | 長い副詞句, SV…]

Nobody ever discovered ugliness through photographs. But many, through photographs, have discovered beauty. Except for those situations in which the camera is used to document, or to record social ceremonies, what moves people to take photographs is finding something beautiful. Nobody cries out, "Isn't that ugly! I must take a photograph of it ." Even if someone did say that, all it would mean is: "I find that ugly thing ... beautiful."

〈関西学院大〉

全訳今まで写真を通して醜さを発見した者はいなかった。しかし、多くの者は写真を通して美しさを発見してきた。詳細に記録したり、式典を記録したりするためにカメラが用いられる状況を除けば、写真を撮るよう人々を突き動かすものは何か美しいものを発見することである。「あれは醜いじゃないか!写真を撮らねば」とは誰も声を上げて言わない。たとえ誰かがそう言ったとしても、それが意味することは、「私はその醜いものを…美しいと思う」でしかない。

CASE 7 [主語の発見 | … that 長い副詞句, SV…]

Valtin says that for people who have specific health concerns, such as certain kidney problems or a tendency to some kinds of infection, drinking lots of water can be beneficial. But after an extensive search in 2002 for the origins of the 8 × 8 guideline, he reports he found no scientific evidence supporting the notion that healthy individuals need to consume such large quantities of water. In 2008, Dan Negoianu and Stanley Goldfarb reviewed the evidence for a medical journal. They came to a similar conclusion: “There is no clear evidence of benefit from drinking increased amounts of water.”

*一日当たり 8.8 オンス(227g)の水を飲むこと

〈関西大〉

語彙 specific[spɪsɪfɪk]「特定の」 kidney [kɪdni]「腎臓」 infection[ɪnfɛkʃən]「感染症」 beneficial[bɛnɛfɪʃəl]「有益な」 consume A[kənsum: m]「Aを消費する」 review A[rɪvju:]「Aを検討する」

全訳バルタンは、特定の腎臓の問題やある種の感染症の傾向など、特定の健康上の懸念がある人にとっては、大量の水を飲むことが有益であると言います。しかし、2002年に8×8ガイドラインの起源を徹底的に調査した後、彼は健康な人がこのような大量の水を消費する必要があるという概念を支持する科学的証拠は見つからなかったと報告している。2008年に、ダンネゴイアヌとスタンリーゴールドファーブは医学雑誌の証拠を検討した。彼らは同様の結論に達しました:「どんどん水を飲むことの利益の明確な証拠はない。」

CASE 8 [接続詞の領域]

Whatever their political view may be, most people agree that to fight terrorism in an effective way we must deal with its root causes. And most people assume that the fundamental causes of terrorism must be third-world poverty and lack of education. While this view is widely held, I suspect there might be some other factors contributing to terrorism.

〈甲南大〉

語彙 political [pə'lɪtɪkəl]「政治的な」 assume that SV…[əsú: m]「SV…と思いこむ」 contribute to A[kəntrɪbjʊ: t]「Aに寄与する」

全訳政治的見解がどうであれ、ほとんどの人は、根本的な原因に対処しなければならない効果的な方法でテロと戦うことに同意します。そして、ほとんどの人々は、テロの根本的な原因は第三世界の貧困と教育の欠如に違いないと考えています。この見解は広く支持されているが、テロに寄与する他の要因があるかもしれないと思う。

英文解釈 構文分析② 〈カンマとダッシュの処理①〉

CASE 1 [カンマとダッシュの処理① | いろいろなカンマ]

For many years, people believed that the brain, like the body, rested during sleep. After all, we are rendered unconscious by sleep. Perhaps, it was thought, the brain just needs to stop thinking for a few hours every day. Wrong. During sleep, our brain — the organ that directs us to sleep — is itself extraordinarily active. And much of that activity helps the brain to learn, to remember and to make connections. (神戸大)

語彙 render O C[réndər]「OCにする」unconscious [ʌnkənʃəs]「無意識の」organ[ɔːrgən]「組織」extraordinarily (extraordinary [ekstrəːrdənəri]「異常なほどの」「他に類を見ない」)

全訳長年にわたって、脳は、肉体と同様、睡眠中は休んでいると考えられていた。なにしろ、私たちは睡眠によって意識のない状態になるからである。おそらく脳は、毎日数時間は思考を停止する必要があるだろうと考えられていた。だが、それは間違いである。睡眠中も、私たちの脳——私たちが睡眠へと導く器官——それ自体は、非常に活発に活動しているのだ。しかも、その活動の多くは、脳が学習し、記憶し、さまざまな関連づけを行うのに役立っている。

CASE 2 [カンマとダッシュの処理① | 継続用法 | …, 接続詞 SV ~]

One outstanding feature of Japanese weather is the series of great cyclonic storms, called typhoons, which devastate parts of the country in late summer and early autumn. These are identical in nature with the hurricanes that occasionally ravage the east coast of the United States, both being products of the same general relationship between land and water at comparable latitudes. Typhoons, however, strike Japan with somewhat greater frequency and usually with more destructiveness to life and property, since the greater part of the Japanese population is concentrated on the seacoasts of southwestern Japan where the typhoons first come ashore. (神戸大)

語彙 outstanding [ʌʊtstændɪŋ]「目立つ」「主な」cyclonic[sɪklɒnɪk]「激しい」devastate A [dévəstèit]「(土地)Aを壊滅的にする」identical [aɪdɛntɪkəl]「等しい」「同一の」a hurricane [həːrɪkən]「ハリケーン」ravage A [rævɪdʒ]「Aを破壊する」comparable [kámperəbəl]「等しい」a latitude [lætɪtjuːd]「緯度」(通例 latitudes)ある緯度の所[地方]property [prápərtɪ]「財産」「特性」ashore [əʃɔːr]「海岸へ(に)」

全訳日本の気候の顕著な特徴の一つは、台風という、次々と訪れる非常に激しい暴風雨であり、夏の終わりから秋の初めにかけて国内の各地に甚大な被害をもたらしている。これらは、時に米国東海岸に大被害をもたらすハリケーンと性質は同じで、そのどちらも、同じぐらいの緯度にある陸地と海とが、同様に総合的に関係しあって発生するものである。しかしながら、台風のほうが日本を襲う頻度がやや高い上、日本の人口の過半数が台風が最初に上陸する南西日本の沿岸部に集中しているために、たいてい、人命や財産にさらに大きな被害を与えるのである。

英文解釈 構文分析③ 〈カンマとダッシュの処理②〉

CASE 1 [カンマとダッシュの処理 | (冠詞) 形容詞, 形容詞 名詞]

Some people constantly do only the things they like to do. They put off the unpleasant, less interesting things they have to do. But no one can afford to live this way all the time. If they do, they will lose opportunities and frequently inconvenience others. The consequences in business and friendship can be disastrous. (関西大)

語彙 put off A 「A を先延ばしにする」 unpleasant 「不快な」 can afford to V 「(否定文で)V する余裕がない」 inconvenience [ɪnkənviːniəns] 「不便」「迷惑」 consequence [kɒnsəkwɛns] 「結果」 disastrous [dɪzæstrəs] 「悲惨な」
全訳 一部の人はいつも好きなことだけをする。そうした人々は、しなくてはいけなくても楽しくない、興味のないことを先延ばしにする。しかし、いつもこのやり方をして生活できる人はいない。そんなことをしていると、チャンスを逃し、他人に迷惑をかけることも多くなるだろう。仕事と交友関係において、悲惨な結果を招くこともある。

CASE 2 [カンマとダッシュの処理① | 完全文, 名詞要素]

For many Americans wilderness stands as the last remaining place where civilization, that all too human disease, has not fully infected the earth. It is an island in the polluted sea of urban-industrial modernity, the one place we can turn for escape from our own too-muchness. Seen in this way, wilderness presents itself as the best cure for our human selves, a refuge we must somehow recover if we hope to save the planet. (大阪大)

語彙 wilderness [wɪldərnɪs] 「荒野」 infect [ɪnfekt] 「A を感染させる」「A を侵す」 cure [kjʊər] 「治療法」 a refuge [ˈrefjuːdʒ] 「避難場所」
全訳 多くのアメリカ人にとって荒野は、あのあまりにも人間的な病いともいえる文明がまだ完全にはこの地球を侵していない、残された最後の場所としてその姿をとどめている。荒野は都市工業的近代性という汚染された海に浮かぶ島であり、我々が自らの耐えられない状況から脱出するために向かうことのできる唯一の場所なのである。このように考えると、荒野は我々の人間性を癒してくれる最善の治療法であり、もし我々がこの地球という惑星を救いたいと願うのであれば何とかして取り戻さなければならない避難場所なのである。

CASE 3 [カンマとダッシュの処理② | 完全文, 副詞要素]

In the rich and fascinating tradition of philosophy there are various schools of thought, and individual philosophers have often put forward views which conflict with those of other philosophers. The point is not that there are final answers in philosophy which one can accept, like buying a ready-made suit. What the philosophers agree about is that we have to think things through for ourselves, taking the different sides of every problem into account. (大阪大)

語彙 fascinating [fæˈsɪneɪtɪŋ] 「魅力的な」 conflict [kɒˈnflɪkt] 「争い」「矛盾」 take A into account. 「A を考慮に入れる」
全訳 豊かで魅力的な哲学の伝統においては、さまざまな学派があり、個々の哲学者はしばしば他の哲学者と反する見解を唱えてきた。要は、哲学には、既製のスーツを買うことのような、誰もが受け入れることのできる最終的な答えはないということである。哲学者たちの中で意見が一致しているのは、我々はあらゆる問題のさまざまな側面を考慮に入れながら、自分自身で物事を考え抜かねばならないということである。

英文解釈 構文分析④ 〈挿入への対応①〉

CASE 1 [挿入への対応① | 挿入の考え方]

Whether consciousness could arise in a complex, artificial system is a question many people find intrinsically fascinating. Although it may be decades or even centuries before such a system is built, a series of experiments offers strong evidence that an artificial brain, if organized appropriately, would indeed have precisely the same kind of conscious experiences as a human being. (神戸大)

語彙 consciousness[kánʃəsnis]「意識」 complex[kəmpléks]「複雑な」 artificial[aːˈrtəʃiəl]「人工の」 intrinsically [inˌtrɪn(t)sɪk(ə)li]「本来」「本質的に」 fascinating[fæˈsəneɪtɪŋ]「魅力的な」 appropriately(appropriate [əprəʊpiəɪt]「適切な」)precisely(precise [pri(:)sáɪs]「簡潔な」「精確な」)

全訳複雑な人工装置の中で意識が生じ得るかどうかは、多くの人々が本質的に心をひかれる問題である。このような装置が作られるまでには何十年、いや何百年もかかるかもしれないが、正しく組み立てれば人工頭脳は実際に人間と全く同じような意識体験をするであろう、という有力な証拠を一連の実験は示している。

CASE 2 [挿入への対応② | 挿入の考え方]

In one of the most famous stone gardens in Kyoto, I was listening to the interpreter explain how every ripple in the pebbles had a special meaning. A group of Japanese tourists came in, lined up along a wall and began a characteristic modern ritual. In turn each of them approached their guide and, standing on exactly the same spot, positioned a camera. The guide's lips would move with the repetitiveness of a priest repeating exactly the same words to each person in a ritual. The camera would click. The next tourist would come up. After watching this I asked my interpreter what the religious phrase was that the guide was repeating. She said, "What the guide is saying is, 'Shutter speed 250, no flash.'" (神戸大)

語彙 interpreter [ɪntəˈrprɪtər]「通訳」 explain A[ɪkspléɪn]「Aを説明する」 ripple [rɪpl]「さざ波」 pebble [pébl]「小石」 characteristic [kæˈrɪktərɪstɪk]「特有の」 a ritual[rɪˈtʃuəl]「儀式」 repetitiveness [rɪpəˈtɪtɪvnəs]「繰り返す」「繰り返すこと」 a religious phrase [rɪlɪdʒəs] [fréɪz]「念仏」

全訳京都にある最も有名な石庭の1つで私は、小石で作ったさざ波の一つ一つに、どのように特別な意味が込められているかを通訳が説明するのに耳を傾けていた。日本人の団体旅行客が入ってきて、壁沿いに並び、現代に特有の、ある儀式を始めた。彼らは1人ずつ順番にガイドに近づき、まったく同じ位置に立って、カメラの位置を合わせるのだった。ガイドは、儀式で各人にまったく同じ言葉を繰り返す僧侶のように、何度も同じように唇を動かしていた。カメラがカシャッと音をたてると、次の旅行客がガイドに近づいた。これを見て、私は通訳にそのガイドが繰り返しているのはどんな念仏かと尋ねた。彼女は「案内の人は『シャッタースピードは250。フラッシュは禁止です』と言ってるんですよ」と言った。

CASE 3 [挿入への対応③ | 主節の挿入]

Americans rely on guilt, rather than shame, to keep people from breaking the laws and the unwritten rules of society. Guilt, they believe, will keep people honest even when no one is watching. Shame, on the other hand, works only when there is social pressure from others.

語彙 guilt[ɡɪlt]「罪悪感」 shame[ʃeɪm]「恥」

全訳アメリカ人は、人々が法律や社会の不文律を破らないようにするために、恥ではなく罪悪感に訴える。罪悪感は、誰も見ていなくても人々を正直に保つと信じている。一方、恥は他者からの社会的圧力がある場合にのみ機能する。

CASE 4 [主語の発見 | 長い副詞句, SV…]

Any time people or groups appear to be cruel to one another, the popular, inadequate view is that it is a manifestation of "the survival of the fittest*." Many people wrongly assume that, in society as well as in nature, to be strong and aggressive is the only condition for survival. In fact, however, evolution requires creatures to show a whole range of different behaviors, not just cruelty, in order to successfully ensure their survival. Many animals, including our nearest relatives such as chimpanzees and bonobos, rely on each other for survival, which means that caring and sympathetic behavior is one of the key factors in their evolution. *the survival of the fittest 適者生存 〈同志社大〉

語彙 cruel[kruːl]「非情な」 inadequate [ɪnædɪkwət]「不適切な」 manifestation [mæˈnɛstɛɪʃən]「現れ(たもの)」 assume A[əˈsuːm]「A と思い込む」「A と仮定する」 aggressive [əˈɡresɪv]「攻撃的な」 sympathetic [sɪmpəˈθɛtɪk]「思いやりのある」 evolution[ɪˈvɒlúːʃən]「進化」

全訳人々や集団が互いに対して非情であると思われるときは常に、それが「適者生存」の現れであると見る見方は、通俗的で不適切である。多くの人々が、自然だけではなく社会においても、強くて攻撃的であることが生き残るための唯一の条件である、と誤って仮定する。しかし実際のところは、首尾よく生き残るために、進化は生物に、単に非情さだけではなく、全範囲にわたるさまざまな行動を示すよう求めている。チンパンジーやボノボといったような我々の最も近い親類を含めて、多くの動物は生き残りのために互いに依存し合っており、そのことは、彼らの進化において優しさや思いやりのある行動が、主要な要因の一つであることを意味している。

英文解釈 構文分析⑤ 〈挿入への対応②〉

CASE 1 [挿入への対応① | A and M B]

The idea of dreams as a preparation for future action is not unusual. Mark dreamed he was going to stay at his friend's house a couple of days before he did so. In the dream he took his pajama-bag to school and was picked up at the end of the day by his friend's mother. He liked the dream because he felt more confident when facing that first night away from home. The dream acted to prepare and reassure him.

Research with animals and humans shows that Mark has basically got it right. If *REM sleep is interfered with, by drugs or sleep deprivation for instance, then we are less able to deal with situations for which we are unprepared. We learn from everything that happens to us during our waking lives, and through dreaming, process and store the information just in case we need it at some future point. Of course we do not 'know' what will happen to us in the future, but nature has found a brilliant way of preparing us for the unexpected.

(注) REM レム睡眠 (眼球が急速に動いている状態の睡眠で、このとき夢を見ていることが多い) 〈神戸大〉

語彙 preparation [prɪpə'reɪʃən] 「準備」 unusual [ʌn'ju:z(ə)l] 「普通でない」 be confident of A [kən'fɪdənt] 「Aに自信を持つ」 face [feɪs] 「Aに立ち向かう」 reassure A [ri:'əʃʊr] 「Aを安心させる」 interfere with A [ɪntə'fɪər] 「～を妨げる」 sleep deprivation [dɛ'prɪvəʃən] 「睡眠不足」 deal with A 「Aに対処する」 process A [prə'ses] 「Aを処理する」 store A [sto:r] 「Aを蓄える」

全訳夢を未来の行動への予行演習ととらえる考え方は珍しくはない。マークは実際にそうする前に、自分が友達の家に2、3日泊まりに行こうとしている夢を見た。夢の中で彼はパジャマの入ったバッグを学校へもって行き、1日が終わると友達のお母さんに車で迎えに来てもらった。彼がその夢を好きだったのは、はじめて家を離れて過ごすその晩を、もっと自信をもって迎えられたからだ。夢が彼に心の準備をさせ、自信をもたせる働きをしたのである。

動物と人間の両方で行った研究によると、マークは基本的には事態を正しくとらえていたことがわかる。もし、例えば薬を使ったり起こされたりしてレム睡眠が妨げられると、私達は心の準備ができていない事態に対処するのが一層困難になる。私たちは目が覚めている間に自分の身に起こるあらゆることから学び、夢を見ることによって、将来のある時点で必要となる場合に備えて、その情報を処理し蓄えるのである。もちろん私達は将来自分の身に何が起こるかは「わかって」いないが、本能的に予期せぬことに備えるすばらしい方法を見つけているわけである。

CASE 2 [挿入への対応② | — … —]

Only the smallest fraction of the human race has ever acquired the habit of taking an objective view of the past. For most people, even most educated people, the past is merely a prologue to the present, not merely without interest in so far as it is independent of the present, but simply inconceivable except in terms of the present. The events of our own past life are remembered, not as they seemed to us at the time, but merely as incidents leading up to our present situation. We cannot persuade ourselves — in fact, we make no attempt to do so — that undertakings which ended in failure were entered upon with just as much forethought and optimism as those which have profoundly affected our lives. 〈大阪大〉

語彙 a fraction [frækʃən] 「ひとかけら」 「ひと握り」 acquire A [əkwáɪər] 「A を得る」 objective [əbdʒéktiv] 「客観的な」 a prologue [próulɔ:g] 「序幕」 in so far as SV... 「SV するかぎり」 be independent of A [ɪndɪpéndənt] 「A から独立して」 inconceivable [ɪnkənsí:vəbl] 「想像できない」 in terms of A 「A の観点で」 「A の立場で」 an incident [ɪnsɪdnt] 「出来事」 persuade A that SV... [pərsweɪd] 「A を説得する」 a undertaking [ʌ'ndərtéɪkɪŋ] 「仕事」 enter upon A 「A を始める」 forethought [fɔ' rθɔ'tl] 「予測」 optimism [əptəmizəm] 「楽観」 profoundly [prɒfáundli] 「深く」

全訳過去を客観的に見る習慣が身につけているのは、人類の中でもほんのひとにぎりの人たちだけである。たいていの人々にとって、非常に教養のある人々でさえそうだが、過去は現在への序幕にすぎない。それも、単に現在と関係がない限りは関心をひかないというだけではなく、現在という立場からでなくてはまったく考えることすらできないのである。自分自身の過去の生活の中で起こったさまざまな出来事も、そのとき自分の心に映ったように思い出されるのではなく、単に自分の現の状態に至る糸口となった出来事としてのみ思い出されるのだ。失敗に終わった仕事も、自分の生活に深く影響を及ぼした仕事の場合とまったく同じだけの予測と楽観をもって当初は取りかかったのだ、と思う気持ちに私たちはなかなかかなれないというより、実はそういう気持ちになろうとしないのである。

《挿入構文》

1. There was, **it seems** to me, some misunderstanding between you and her.
2. The secret of long life, **it is often said**, is to have something to live for.
3. She seldom, **if ever**, goes to the movie by herself.
4. He is a great scholar, and, **what is better**, a good teacher.
5. Wataru, **although we waited until ten o'clock**, never showed up.
6. His assistance, **however**, was of little help to me.
7. Perseverance, **as you know**, is the key to success.
8. I couldn't find out **in the book** what gave us the clues to the problem.

1. 〈挿入：主節〉 it seems (to A) that SV...⇔S, it seems (to A), V...
あなたと彼女のあいだには、少し誤解があったように思われる。
2. 〈挿入：主節〉 it is often said that SV...⇔S, it is said, V...
長生きの秘訣は、生き甲斐を持つ事だそうだ。
3. 〈副詞句の挿入 慣用的なもの〉
彼女がひとりで映画に行くことは、たとえあってもまれである。
4. 〈what is 比較級の挿入〉 ※what is 比較級が名詞要素となる場合もある
彼は偉い学者で、さらによいことには、良い先生だ。
5. 〈副詞節の挿入〉
私たちは 10 時まで待っていたのだが、ワタルは決して姿を現さなかった。
6. 〈接続副詞の挿入〉
しかしながら、彼のアドバイスは私にはほとんど役立たなかった。
7. 〈関係詞 as の挿入〉
忍耐は、ご承知のように、成功への鍵です。
8. 〈動詞と目的語の間の挿入〉 ※節や語句は文末に挿入される（置かれる）こともある。
私は、その問題の手がかりとなるものをその本の中では見つけることができなかった。

英文解釈 構文分析⑥ 〈等位接続詞 and〉

CASE 1 [等位接続詞 and の対応 | さまざまな and]

Language is a system by which meaning is communicated in terms of forms such as words **and** sentences. Though we tend to think that the relationship between form **and** meaning is straightforward, a moment's reflection reveals that it is in fact quite involved. Sometimes a given expression corresponds to two or more distinct meanings, while in other cases one **and** the same meaning is conveyed by two or more different forms of expression. The former situation is known as ambiguity, **and** the latter as synonymy. Let us now examine some examples. The word 'bank' represents the case of ambiguity, for it has at least the following two meanings: "the rising ground along the side of a lake, river or canal" **and** "an institution that receives, lends, exchanges **and** safeguards money". Likewise the written word 'object' has, among others, the following two meanings: "the end toward which effort is directed" **and** "to argue against or oppose something with words".

〈大阪大〉

語彙 in terms of A「Aの観点で」straightforward[stri:tɔ:fɔ:wəd]「簡単な」reveal A[rɪvi:l]「Aを明らかにする」involved[ɪnvɔ:lvd]「複雑な」correspond to A[kɔ:ˈrɛspɔːnd]「Aに相応する」distinct[dɪstɪŋkt]「際立った」convey A[kənveɪ]「Aを伝える」ambiguity[æˈmbɪɡju:əti]「多義語」「曖昧さ」synonymy[sɪnɔːnəmi]「同義語」represent A[rɪprezɪnt]「Aを表す」institution[ɪnstət(j)u:ʃən]「機関」safeguard A[səfɪgəˈrd]「Aを守る」oppose A[əpəʊz]「Aに反対する」全訳言語は、意味が単語や文といった形におきかえて伝達される方法である。私たちは形と意味との関係を簡単なものだと思いがちだが、ちょっと考えれば、実際は極めて複雑であることが明らかである。時には、ある一定の表現が2つないしそれ以上の異なった意味に相当することがあるが、一方、別の場合には、1つの同じ意味が2つまたはそれ以上の異なった表現形態によって伝えられることがある。前者の場合が多義語、後者が同義語として知られている。では、いくつかの例で調べてみよう。bank という語は、多義語の場合の例である。というのは、bank は、少なくとも次の2つの意味をもつからである。つまり「湖・川・運河に沿って盛り上げた土」と「お金を受けとったり、貸したり、換金したり、守ったりする機関」。同様に文語、とりわけ object は、次の2つの意味をもつ。「努力が向けられる目的」と「言葉であることに反論したり、反対したりすること」である。

CASE 2 [共通構文]

The Industrial Revolution also made possible, and yet created a need for, a better system of transport. In the early part of the century there had been a great development in canals. The second half of the century saw a far greater development in railways. Largely due to the work of George Hudson*, through a series of combinations, the railway system covered 6,600 miles by just after 1850, and more and more lines, with better and faster cars, produced 21,800 miles of efficient service by the end of the century. *George Hudson「鉄道王」として知られる英国の資本家〈同志社大〉

語彙 the Industrial Revolution[ɪndʌˈstriəl][rɪvəlju:ʃən]「産業革命」transport[trænsˈpɔ:rt]「輸送」canal[kənəl]「運河」combination[kəmbeɪnɪʃən]「連結」efficient[ɪfɪjənt]「効率のよい」全訳産業革命はまた、よりよい輸送システムを可能にし、しかもよりよい輸送システムを必要とした。19世紀の早い段階に、運河の大規模な開発が行われ、また、19世紀後半には、鉄道事業においてさらに大規模な開発がなされた。主にはジョージ＝ハドソンの業績のおかげで、一連の線路の連結を通じて、鉄道システムは1850年直後までには6600マイルに及んでいたし、路線がますます増え、車両がより改良され、走る速度も増して、世紀の末までには、21800マイルに及ぶ効率のよいサービスが生み出された。

〈共通構文〉 因数分解的発想

1. We are, and should be, respectful to our parents.
2. His remark not only surprised but also strongly moved those present at the meeting.
3. Democracy is the government of the people, by the people, and for the people.
4. This was an exciting, though not popular, movie.
5. It seems difficult, if not impossible, to talk him into attending the party.
6. He fell in love with, and married the next year, a beautiful woman.

1. 〈(助動詞+助動詞) 形容詞〉
私たちは両親を尊敬しているし、またそうあるべきだ。
2. 〈(動詞+動詞) 名詞〉 ★not only A but also B 「A だけでなく B」 等位接続詞的に用いる
彼の発言は、その会議に出席した人を驚かせただけでなく、深く感動させた。
3. 〈名詞(前置詞句+前置詞句)〉
民主主義とは、人民の、人民による、人民のための政治である。
4. 〈(形容詞+形容詞) 名詞〉 ★though が等位接続詞扱い。
これは、人気はないけれども面白い映画だ。
5. 〈動詞 (形容詞+形容詞)〉 ★A if not B 「B でないとしても A」 / if not が等位接続詞扱い。
彼を説得してパーティに参加させることは、不可能ではないとしても難しいように思われる。
6. 〈(動詞句+他動詞) 名詞〉 ★with の後に目的語がないことに注意
彼は美しい女性と恋に陥り、その翌年結婚した。

〈共通構文と挿入〉 A and (M) B 型 (M)は B を修飾

1. He was very rich, and **therefore** could buy a mansion.
2. He is a good English scholar, and, **what is more**, a good teacher.
3. I fainted from the heat, and **when I came to**, I was in a life raft.

1. 〈A and (M) B〉 ★M=副詞
彼は金持ちだった、だから大邸宅が買えた。
2. 〈A and (M) B〉 ★M=副詞句
彼は優れた英語学者であるが、さらに、教えるのも上手である。
3. 〈A and (M) B〉 ★M=副詞節
その暑さで気絶して気がついたら救命いかだの中にいた。

英文解釈 構文分析⑦ 〈語順転倒の対応〉

CASE 1 [語順転倒の対応 | VMO]

Our knowledge and our power have been enriched and increased to an extent that no one would have thought possible. We have thereby been enabled to make the conditions of human existence incomparably more favourable in numerous respects, but in our enthusiasm over our progress in knowledge and power we have arrived at a defective conception of civilization itself. We value too highly its material achievements, and no longer keep in mind as vividly as is necessary the importance of the spiritual element in life. (大阪大)

語彙 enrich A [enrítʃ] 「A を豊かにする」 thereby [ðeərbáɪ] 「それによって」 a condition [kəndɪʃən] 「条件」 incomparably [ɪnkəmperəbəlɪ] 「比較できないほど」 favourable [fə'veɪərəbəl] 「好都合な」 numerous [nɪjʊːmərəs] 「極めて数多くの」 enthusiasm [enθjuːzɪ'æzəm] 「熱狂」 defective [dɪfektɪv] 「欠陥のある」 material (ad) [mə'tɪəriəl] 「物質的な」 an achievement [ætʃɪːvmənt] 「業績」「功績」 vividly [vɪvɪdli] 「はっきりと」「鮮やかに」 an element [éləmənt] 「要素」
全訳我々の知識と能力は、誰も可能だとは考えなかったであろうと思われる程度にまで豊富になり増大した。我々はそのことによって人間が生存してゆく上での諸条件を、多くの点で比較にたらないほど好都合なものにすることができるようにたったのだが、知識と能力の進歩に熱を上げているうちに、文明そのものについて欠陥ある概念をもつようになってしまった。文明の物質的な業績を高く評価しすぎて、生活上の精神的要素の大切さを、もはや十分にはっきりとは心に留めていたないのである。

CASE 2 [語順転倒の対応 | CVS]

In the days of my youth, at a friend's house in the South of France, I met Somerset Maugham for the first time. When, a week later, he graciously accepted my invitation to lunch, I was particularly anxious to make a favorable impression on him, in the hope that he would allow me to take advantage of the occasion by interviewing him for an American magazine to which I contributed pen-portraits of famous English people. Among topics we discussed over lunch was the regrettable habit film directors then had of altering the plot of a novel to suit themselves, to the extent even of changing a sad ending into a happy one. And I was able to cite a case in point, having the previous day discussed this shameful practice with none other than Rex Ingram. (神戸大)

語彙 graciously [gréɪʃəsli] 「上品に」 particularly [pə'tɪkjʊlərlɪ] 「特に」 was anxious to [æ'ŋ(k)ʃəs] 「V したがる」 interview [ɪntərvjuː] 「インタビューする」「面接をする」 contribute to A [kən'trɪbjʊːt] 「A に貢献する」 regrettable [rɪgrɪtəbəl] 「残念な」 alter A to B [ɔːltər] 「A を B へと変える」 shameful [ʃeɪmfəl] 「恥ずべき」
全訳私が若かったころ、南フランスの友人の家で、初めてサマセット・モームに会った。1週間後、彼が昼食への招待を快諾してくれたとき、彼に好印象を与えたいという私の気持ちはずいぶん強かった。というのは、私は英国の有名な人の素描をアメリカの雑誌に寄稿していたのだが、その機会を利用してインタビューさせてもらえることを期待していたからだ。私たちが昼食をとりながら話しあった事柄の一つは、小説の筋を自分たちの気に入るように変え、場合によっては悲しい結末すらハッピーエンドに変えてしまいさえする、当時の映画監督の嘆かわしい習性についてであった。そして私は適切な例をあげることが出来たのだが、それは前日にこの恥ずべき習慣について、ほかならぬレックス=イングラムその人と議論していたからであった。

CASE 3 [語順転倒の対応 | VCO]

The cassette tape, invented in the 1960s, quickly became the most common propagator* of recorded sound in the world. Cassette tape technology made possible not only the wide dissemination** of Western popular music, but also the spread of indigenous*** music. Locally recorded cassettes were easily copied and sold inexpensively enough to reach a wide audience. Back then, a cassette sold to tourists on the streets of Cairo or Beijing as local music may have been considered what is now known as World Music to many Westerners.

propagator* 情報を広める媒体 dissemination** 普及

indigenous*** その地域固有の (立命館大)

語彙 cassette [kəsét] 「カセット」 invent A [invént] 「Aを発明する」 spread [spréd] 「普及する」「広がる」 inexpensively 「安価で」

全訳カセットテープは1960年代に発明されたが、たちまち世界で最も普通の録音普及媒体となった。カセットテープの技術によって、西洋大衆音楽の広範な普及だけでなく地域固有の音楽の普及もまた可能となった。地方で録音されたカセットは手軽に複製でき、安価で販売できるので広範な聴衆に届けられた。その当時、カイロや北京の街頭で観光客にローカル音楽として販売されたカセットは多くの西洋人に、現在ワールドミュージックとして知られているものだと考えられたかもしれない。

《So 助動詞 S型》

1. Should you run into trouble, I'll help, and **so will my father.**
2. He did not ignore our request, and **neither did she.**
3. I was unable to attend the party, **nor did I want to.**

1. 〈肯定文, and so 助動詞 S 「Sもまたそうである」〉★助動詞は肯定文中の述部に合わせて変化
困ったことになったら、お助けします。私の父も助けてくれますよ。
2. 〈否定文, and neither 助動詞 S 「Sもまたそうでない」〉★否定文. Neither 助動詞 Sの形もある。
彼は我々の要請を無視しなかったし、彼女もしなかった。
3. 〈否定文, nor/neither 助動詞 S 「Sもまたそうでない」〉★否定文. Nor 助動詞 Sの形もある。
私はそのパーティーに出席できなかつたし、また出席したいとも思わなかつた。

《There V S...》

1. **There are** many animals to see there.
2. **There used to be** an old temple here.
3. **There still remains** much to be done.
4. **There is certain to be** some opposition to your suggestion.

1. 〈There is/are S 「Sがある」〉 ★基本形
見るべき動物がたくさんいるよ。
2. 〈There used to be S 「かつてSがあった」〉 ★used to V 「かつて～であった」
ここにはかつて古いお寺がありました。
3. 〈There remains S 「Sがまだある」〉
なすべきことがまだたくさんある。
4. 〈There is certain to be S 「きっとSがある」〉 試験頻出
君の提案にはきっと反対があるだろう。
★There is some opposition...の is の後に (be) certain to V 「きっとVである」が入り込んだ形

《倒置構文 語順転倒型 MVS/ CVS / OSV / VCO / VMO 他》

1. **In the middle of the wall at the back of the room** is a large window.
2. **Happy indeed** are we, and so we shall remain.
3. He is said good at mathematics. **Much better** is his wife.
4. **Few of these problems** he could solve today.
5. He couldn't make clearly known **what he wanted to do**.
6. We must take into account **the wishes of all the family in planning a trip**.
7. **So important** is water **that** we can hardly do without it even for a day.
8. **Such** is his honesty **that** he was respected by everybody.

1. 〈副詞句 V S〉 ★場所を表す副詞句が文頭にでたことによる倒置
部屋の奥の壁の中央に大きな窓がある。
2. 〈CVS / CSV〉

私たちは本当に幸せであるし、これからも幸せである。

3. 〈CVS〉★比較対象の前置
彼は数学が得意と言われているが、彼の妻はもっと得意である。
4. 〈OSV〉★目的語の前置 (≒He could solve few of these problems today.)
今日はこの問題のほとんどを解くことができなかった。
5. 〈make CO〉★what he wanted to do が後置された形
彼は自分がしたいことをはっきりと知らせることができなかった。
6. 〈SVM O〉★take O into account⇔take into account O ★O が長いので後置された形
旅行を計画する場合は、家族全員の希望を考慮すべきだ。
7. 〈So 形容詞/副詞 ~ that SV... 「とても形容詞/副詞なので SV...」〉 = ~ so 形容詞/副詞 that SV...
水はとても大切なもので、水なしでは1日でもやっていけない。
8. 〈Such is S that SV... 「Sはとても甚だしいので SV...」〉 = S is such that SV...⇔
彼は非常に正直だったので、誰からも尊敬されていた。

英文解釈 構文分析⑧ 〈The 比較級..., the 比較級 ~.〉

CASE 1

Social psychologists have studied the bystander effect and they determined that the more people present when a person needs emergency help, the less likely it is any one of them will lend a hand. (神戸大)

語彙 psychologist[saikŋlədʒist] 「心理学」 bystander [] 「傍観者」 emergency [iməˈrdʒənsi] 「緊急性」
全訳社会心理学者たちは傍観者効果を研究してきて、ある人が緊急性のある助けを必要としているとき、その場にいる人が多ければ多いほど、その中の誰かが手を貸す可能性は低くなると結論づけた。

CASE 2

Children in nursery school tongue-show most often when they're involved in activities such as playing with blocks, drawing with crayons or even kicking a ball. The greater the concentration needed, the more often the tongue appears. In one experiment, as children made their way to the top of an ever-narrowing set of steps, their tongues started to creep out. Even children who are not tongue-showing to begin with start to do so the moment they catch an adult watching them. (神戸大)

語彙 be involved in A[invɔlvɪd] 「Aに参加する」 concentration [kənsəntréiʃən] 「集中力」 creep out[kri:p] 「飛び出す」 to begin with 「最初」
全訳保育園の子供たちは、ブロックで遊ぶ、クレヨンで描く、ボールを蹴るなどの活動に参加しているときに最も頻繁に舌を見せる。集中力が必要なほど、舌が頻繁に現れる。ある実験では、子供たちがどんどん狭くなっていく一連の会話を上まで進むときに、彼らの舌が飛び出し始めた。最初、舌を見せない子供でも、大人が彼らを見てるとわかった瞬間にそうし始める。

CASE 3

To a writer, the real importance of reading is that it helps you understand the process of writing. Constant reading will pull you into a place where you can write eagerly and without self-consciousness. It also offers you a constantly growing knowledge of what has already been done and what has not, what is old and what is fresh. Quite simply, the more you read, the more likely you are to become a good writer (滋賀県立大)

語彙 constant[kənstənt] 「絶えまない」「継続的な」 self-consciousness[kənˈfəsni:s] 「自意識」 eagerly[í:gərlí] 「熱心に」
全訳作家にとって、読書の本当の重要性は、それがあなたが書くプロセスを理解するのを助けるである。絶えず読書すること、熱心かつ自ら意識することなく書くことができる場所に引き寄せられる。また、絶えず読書することで、すでに行われていること、行われていないこと、古いこと、新鮮なことについての継続的な知識を得られる。簡単に言えば、読むほど、良い作家になる可能性が高くなる。

CASE 4

Getting children out of the house and into the great outdoors may be the most essential step we can take to save the planet, according to American researchers, Patricia Zaradic and Oliver Pergams. Children and adults are increasingly plugged into electronic screens for entertainment. The less often they get out into parks and nature reserves*, the less they are concerned about nature's fate. Making things worse, when attendance at parks and recreational areas goes down, local government officials tend to cut the budget for their protection and preservation.

*nature reserve 自然保護区

〈同志社大〉

語彙 essential [isénfə] 「重要な」 plug [plʌˈg] 「A をふさぐ」「A を埋める」 electronic [ilektrónik] 「電子」 entertainment[ɛntərtéinmənt] 「娯楽」 concerned [kənsəˈrɪnd] 「関心をもつ」 attendance [əténdəns] 「出かけること」 recreational [rɛkriéiʃənəl] 「憩いの」 budget [bʌˈdʒɪt] 「予算」 protection [prətékʃən] 「保護」 preservation [prɛzərvéiʃən] 「保存」

全訳子供たちを家から野外へ連れ出すことは、アメリカ人の研究者パトリシア＝ザラディックとオリバー＝パーガムズによれば、地球を救うために私たちが踏み出しうる最も重要な一歩かもしれない。子供たちと大人たちは、娯楽として電子画面にますますくぎ付けになっている。彼らが公園や自然保護区に出かけることがまれになればなるほど、自然の運命について関心をもつことが少なくなる。さらに悪いことには、公園や憩いの場に行くことが減少すると、地方自治体の役人たちはそれらの保護や保存のための予算を削減しがちになる。

《倒置構文 the 比較級..., the 比較級 ~》

1. **The more** we learn, **the better** we realize our ignorance.
2. **The older** we get, **the less** sure of our health we feel.
3. **The more difficult** the problem [is], **the greater** the satisfaction in solving it [is].
4. All of us become **the busier**, **the further** civilization advances.
5. **As you study more**, **the more** you discover your ignorance.
6. **The more unique** each person is, **the more** he contributes to the wisdom of others.

1. 〈The 比較級~, the 比較級.... 「~すればするほど、いっそう...だ」〉基本形
学べば学ぶほど,[それだけいっそう]自分の無知を悟る。
2. 〈The 比較級~, the 比較級.... 「~すればするほど、いっそう...だ」〉★less を用いる場合
年をとればとるほど,われわれは自分の健康に自信が持てなくなる。
3. 〈The 比較級~, the 比較級.... 「~すればするほど、いっそう...だ」〉★is が省略される場合
問題がむずかしければむずかしいほど,それを解く満足感は大きい。

4. 〈SV...the 比較級, the 比較級～. 「～すればするほど、いっそう...だ」〉
文明が進歩すればするほど,われわれは皆忙しくなる。★主節と従属節が入れかわる形(倒置形)
5. 〈As SV 比較級～, the 比較級... 「～すればするほど、いっそう...だ」〉★is が省略される場合
★the 比較級～が As SV～に代わる場合
学べば学ぶほど、ますます自分が無知であることがわかる。
6. 〈The 比較級～, the 比較級... 「～すればするほど、いっそう...だ」〉★...が倒置構文になる場合
各人が個性的であればあるほど、それだけ他人の英知に寄与する。

(1) [The+比較級～,the+比較級.] 基本的な考え方

The+比較級～,the+比較級.”の形で、「～すればするほど,(それだけ)ますます...」の意味を表す。基本的な考え方は、「一方の程度(形容詞・副詞)の変化に応じて、もう一方も程度(形容詞・副詞)が変化する」様を表す。この構文では、前半部の The+比較級～が副詞節で、後半部の the+比較級が主節となる。前半部の the は「～につれて」を表す接続詞(=as)で、後の the は「その分だけ」を表す指示副詞である。前半部の副詞節が主節の the を修飾しているとも考えることもできる。この構文での注意点は、前半部分も、後半部分も文なので、文型が成立しているということです。例えば、「The harder he studied mathematics, the more interested[(x)the more interesting] he became in it. 「彼は数学を勉強すればするほど数学が好きになった」では、the harder は、studied にかかる副詞で、the more interested は、became の補語(C)となっている。前半部は、he studied mathematics hard から、後半部は he became interested in it から出来ていると考えると理解がしやすい。

(2) [The+比較級～,the+比較級.] The +比較級～,the+比較級.の倒置形

The+比較級～,the+比較級.で、副詞節と主節が入れ替わって倒置形となる場合がある。その場合は、SV...the+比較級, the+比較級 S'V'～. 「S'V'～すればするほど、SV...」となる。(例 He became the more interested in mathematic, the harder he studied it. 「彼は数学を勉強すればするほど数学が好きになった」)

(3) [The+比較級～,the+比較級.] The +比較級～,the+比較級.構文上の注意

The+比較級～,the+比較級.では、be 動詞や it is などが省略されることがある。(例 The greater <are> our wishes, the greater <are> our efforts. 「願いが大きければ大きいほど、努力はいる」、前半部、後半部ともに<are>が省略されている。

英文解釈 構文分析⑨ 〈no more ... than ~〉

CASE 1

There is not any modern nation but has, in some way, contributed to our science or art or literature. Each country has given something to the sum of beauty and knowledge of the world. Music and art and science do not observe political or geographical boundaries any more than do the sunshine and the rain.

語彙 but = that ... not(例 There is no rule but has some exceptions. 「例外のない規則はない」)contribute to A [kəntrɪbju:t]「Aに役立つ」literature [lɪtərətʃər]「文学」observe A [əbzə:rv]「Aを遵守する」a geographical boundary[dʒɪ:əgrə'fɪkəl] [báunderɪ]「地理的境界線」

全訳何らかの形で科学や芸術、文学に貢献しない近代国家はない。各国は、世界の美しさと知識の合計に何かを与えている。音楽と芸術と科学は、太陽と雨と同様に、政治的または地理的な境界を守らない。

CASE 2

Equality and uniformity are not the same idea. Equality is about the law, and says we should all be treated equally; the facts of your social class, gender, beliefs, race, nationality or sexual preference should no more determine how you are treated by the law than should your shoe size. Uniformity is about being the same as everybody else, and given how different we are from each other, it would be an abuse of our rights and lead to unequal treatment to try to force us to be the same. (同志社大)

語彙 equality[ɪkwə'ləti]「平等」 uniformity [jù:nəfɪ'rməti]「同一」gender[dʒéndər]「性別」nationality [næ'ʃənələti]「国籍」abuse [əbju:s]「侵害」treatment [tri:tmənt]「扱い」force O to V [fɔ:'rs]「OにVするよう強制する」

全訳平等と同一は同じ概念ではないのである。平等とは法律に関する概念で、われわれはだれもが平等に扱われるべきであるとされている。社会階級、性別、信条、人種、国籍、性的嗜好の事実によって、人が法律上どのように扱われるか決まるべきでないのは、靴のサイズによりそれが決まるべきでないのと全く同じことなのである。同一とは全員が全く同じであるということで、われわれが互いにかに異なるかということを考えれば、それはわれわれの権利の侵害であり、われわれを強制的に同じにしようとする不平等な扱いにつながるものである。

CASE 3

Whenever there is more than one variety of a particular language, questions arise as to whether one is somehow better or more correct than another. From the point of view of modern linguistics, * it makes no more sense to say that one variety of English is better than another than it does to say that the grammar of English is better (or worse) than the grammar of Thai. All languages and all varieties of a particular language have grammars that enable their speakers to express any proposition that the human mind can produce. All varieties of language are absolutely equal as instruments of communication and thought. (大阪府立大)

語彙 particular[pə'tɪkjələr]「特定の」 arise [ə'raɪz]「生じる」linguistics[liŋgwɪstiks]「言語学」proposition [prə'pəzɪʃən]「事柄」「提案」absolutely [bəsəlju:tli]「まったく」「絶対的に」instrument [ɪnstrəmənt]「道具」

全訳ある特定の言語に複数の変種があれば必ず、どれが別のものより優れているかとか、正確かという疑問が生じる。近代言語学の観点からすると、ある種の英語は他の英語より優れているなどといっても意味がないのは、英語の文法がタイ語の文法より優れている(あるいは劣っている)といっても意味がないと同様である。あらゆる言語、またはある言語の変種すべてにそれぞれの文法があり、そのおかげで話し手はおよそ人が考えつくどんな事柄も表現することができる。言語の変種すべては、意思を伝え、何かを考える道具としてはまったく平等なのである。

CASE 4

It still remains the truth that one cannot jazz through education any more than one can jazz through life. The learning must always involve a severe intellectual discipline — an enduring of hardness and a cheerful acceptance of difficult work.

語彙 a discipline [dɪsəplɪn] 「訓練」 enduring [endʒʊəriŋ] 「耐えること」 (endure A 「Aに耐える」)

全訳 人生を適当にやり過ごすことができないのと同様に、教育を適当にやり過ごすことはできないのは、いまだ真実である。学習には常に厳しい知的訓練が必要である。それは、困難に耐え、困難な仕事を快く受け入れることである。

《no more … than ～》

1. A whale is **no more** a fish **than** a horse is (a fish).
2. I am **not** able to live by myself **any more than** is my sick mother.
3. She is **no less** kind **than** her late mother used to be.
4. The satellite was **no bigger than** a soccer ball.
5. **No more than** ten people applied for the job.
6. He had **no less than** five English-Japanese dictionaries.
7. She has **not more than** ten dollars on her.
8. **Not less than ten** people applied for the job.
9. He is **nothing more than** a stranger here.
10. He is **nothing less than** a liar.

1. 〈A is no more B than C (is) D. 「C が D でないの同様に、A は B でない〉
=A whale is not a fish any more than a horse is (a fish).
くじらが魚でないのは馬が魚でないのと同様である。
2. 〈A is not ... B any more than C (is) D. 「C が D でないの同様に、A は B でない〉
私は病気の母と同様に一人で暮らしていけない。
3. 〈A is no less B than C (is) D. 「C が D であるのと同様に、A は B だ〉
彼女は亡くなった母親と同様に親切な人だ。
4. 〈A is no bigger than B 「A は B と同然ちいさい」〉 ★一種の比喩表現
その衛星はサッカーボールほどの大きさしかなかった。
5. 〈no more than A 「A しか」 =only〉
その仕事に 10 人しか応募しなかった。
6. 〈no less than A 「A も」 =as many/much as〉
彼は 5 冊も英和辞典を持っていた。
7. 〈not more than A 「せいぜい A」 =at most〉
彼女は 10 ドルしか持っていない。
8. 〈not less than A 「少なくとも A」 =at least〉
その仕事には少なくとも 10 人が応募した。
9. 〈nothing more than A 「せいぜい A」 =only〉
彼はここでは、単なるよそ者だ。

10. 〈nothing less than A「まさしく A」〉
彼はまさに嘘つきそのものだ。

構文解説

- (1) [no more ... than ~] [not ... any more than ~]

A is no more B than C is D.で「CがDでないと同様にAもBでない」の意味を表す。AがBでないことを表すために、通常ありえない「CがDでない」例を引き合いに出して強調する表現。not ~ any more than ... (no を not ~ any に変えたものと考えれば良い)の形も同じ意味を表す。than 以下で①省略②代用③倒置(省略・代用に伴って倒置(助動詞+S[...])が生じる)が生じることが多い。

- (2) [not more ... than ~]

“not more ~ than ...” 「...ほど~でない...以上に~ではない」は“more ~ than ...”の単純な否定文である。He is not more diligent than his father.は Not[he is more diligent than his father.]と考えれば良い。また、比較は等号・不等号で考えるとわかりやすく、“not more ~ than ...”は“more ~ than ... (~ > ...)”を否定したもの、つまり“~ ≤ ...”である。「同等またはそれ以下」となる。

- (3) [not less ... than ~]

“not less ... than ~” 「...に勝るとも劣らないほど~である」は“less ~ than ...”の単純な否定文である。He is not less diligent than his father.は Not[he is less diligent than his father.]と考えれば良い。“not less ... than ~”は“less ... than ~ (~ < ...)”を否定したもの、つまり“~ ≥ ...”である。「同等またはそれ以上」となる。

- (4) [no more than 数字]

(1) 「no more than + 数詞」は数・量の少ないことを強調し、no more は差が0(ゼロ)を表しており、than 以下と同数であることを表すと同時に、否定(more ではない)の意味を持っている。「たった~だけ(=only)」の意味を表す。

(2) 「no less than + 数詞」は数・量が多いことを強調し、no less は差が0(ゼロ)を表しており、than 以下と同数であることを表すと同時に、肯定の意味(less ではない)を持っている。「~も(ある)(=as many[much] as)」の意味を表す。

(3) 「not more than + 数詞」は「~より多くはない、多くても~」を表す。more than + 数字「数字以上」を否定していると考えれば良い。

(4) 「not less than + 数詞」は「~より少なくはない(~かそれ以上)→ 少なくとも~」less than + 数字「数字以下」を否定していると考えれば良い。

- (5) [no bigger than A]

no more than 数字に似た形で、no better than ... 「~も同然」no later than ... 「~までには必ず」no smaller than ... 「~ほど大きい」no bigger than ... 「~ほど小さい」がある。no fewer than 数字も、数の多いことを強調して、「~も」の意味を表す。no less than と異なり、数のみに用いる。

- (6) [nothing more than ...]

nothing more than A で「~にすぎない」「~でしかない」の意味を表す。only 書き換えることが可能。A には、名詞、動詞がくる。(例 He is nothing more than a dictator. 「彼は独裁者にすぎない」)。また、do nothing more than V 「Vするしかない」は do nothing but V と同義である。(例 She did nothing more than cry at the news. 「彼女はその知らせを聞いて、泣くしかなかった」)。

- (7) [nothing less than ...]

「nothing less than A」は「~にほかならない」「まさしく~で」の意味を表す。A には、名詞、形容詞が来る。一種の強調表現。(例 His theory was nothing less than a revolution 「彼の理論は、革命と呼ぶべきものだった」)。

英文解釈 重要語の整理① 〈that〉

《接続詞 that の識別》

1. That she is ill is obvious.
2. The reason for my absence is that I was ill.
3. I admit that he is sincere.
4. The idea that money can buy everything is wrong.

1. 〈名詞節 that : 主語の場合〉★That she is ill が主語
彼女が病気だということは明らかだ。
2. 〈名詞節 that : 補語の場合〉
私が休んだ理由は病気だったからです。
3. 〈名詞節 that : 目的語の場合〉★admit 「～を認める」の目的語
彼に誠意のあることは認める。
4. 〈名詞節 that : 同格の場合〉★the **抽象名詞** that SV... 「SV...という**抽象名詞**」
お金があれば何でも買えるという考えは間違っている。

《同格の that》

1. Don't forget **the fact that** smoking is a danger to your health.
2. **The news that** he was still alive reached us.
3. She was seized by a sudden fear **that** she was being followed.
4. She cherishes **the hope that** he will return.
5. Is there **any likelihood that** Mr. Black will agree to the plan?
6. There is **no probability that** the money will be paid.

1. 〈同格の that : the fact that SV... 「SV...という事実」〉★the 情報・事実 that SV...
喫煙は健康にとって危険なものだという事実を忘れてはならない。
2. 〈同格の that : the news that SV... 「SV...という事実」〉★the 情報・事実 that SV...
彼はまだ生きているという知らせが私たちに届いた。
3. 〈同格の that : the fear that SV... 「SV...という恐れ」〉★the 動詞派生の名詞 that SV...
彼女はだれかに後をつけられているという恐怖に突然襲われた。
4. 〈同格の that : the hope that SV... 「SV...という希望」〉★the 動詞派生の名詞 that SV...
彼女は彼が戻ってくるという希望を心に抱いている。
5. 〈同格の that : the likelihood that SV... 「SV...という希望」〉
★the 可能性を表わす名詞 that SV...
ブラックさんがその計画に賛成する見込みがありますか。
6. 〈同格の that : the probability that SV... 「SV...という希望」〉

★the 可能性を表わす名詞 that SV...
そのお金は支払われる可能性はまったくない。

《副詞節を導く that | so that SV...他》

1. They tied me up **so that** I couldn't escape.
2. He worked hard **in order that** his family might live in comfort.
3. I've gained **so** much weight **that** I can't run fast.
4. The doctor has **so** many patients **that** he is always busy.
5. I was excited, **so that** I could not get to sleep.
6. **So great** was his emotion **that** he could not utter a word.
7. He was **not so** tired **that** he could hardly walk.
8. It is **such** a beautiful day **that** I'd like to go fishing in the river.
9. His anxiety was **such that** he could hardly sleep.

1. 〈so that S can V... : 目的〉
彼らは私が逃げられないように私をきつく縛った。
2. 〈in order that S can V... : 目的〉
彼は家族のものが不自由なく暮らせるように、一生懸命働いた。
3. 〈so ~ that S V... : 結果・程度〉
私は体重がとても増えたので速く走れない。
4. 〈so ~ that S V... : 結果・程度〉
その医者とはとても多くの患者をかかえているので、いつも忙しい。
5. 〈, so that SV... : 結果〉★カンマの有無に注意
興奮していたので、私は寝付かれなかった。
6. 〈So 形容詞 be S that SV... : 倒置〉
感動のあまり、彼は一言も発することができなかった。
7. 〈not so ~ that SV... 「SV...ほど〜でない」〉
ほとんど歩くこともできないほど、疲れてはなかった。
8. 〈such ~ that SV... 「とても〜なので SV...」〉
とてもすばらしい日なので川に魚釣りに行きたい。
9. 〈S is such that SV... 「Sはとても甚だしいので SV...」〉
彼は心配のあまりほとんど眠れなかった。

《強調構文の that | It is … that ～》

1. **It is** this watch **that** my uncle gave me as a keepsake.
2. **It was** her mother **who** objected to their marriage.
3. **It was** yesterday **that** Mike bought this racket.
4. **It is** through play **that** a child learns and grows.
5. **It was** because he was ill **that** he decided to return home.
6. **It was** not what he said but the way he said it **that** made me suspicious.
7. **It is** how effectively you use the available time **that** counts.

※波線部が強調部分

1. 〈強調構文：名詞の強調〉
私のおじが形見にくれたのはこの時計である。
2. 〈強調構文：〉
2人の結婚に反対したのは彼女の母親だった。
3. 〈強調構文：副詞の強調〉
マイクがこのラケットを買ったのは昨日でした。
4. 〈強調構文：前置詞句(副詞句)の強調〉
子供が学び、成長するのは遊びによってである。
5. 〈強調構文：副詞節の強調〉
彼が帰国の腹を決めたのは病気だったからだ。
6. 〈強調構文：相関語句(not A but B)の強調〉
疑わしいのは彼の発言ではなくて、彼の言い方であった。
7. 〈強調構文：名詞節(疑問詞 SV)の強調〉★この場合の count は「重要である」の意味。
重要なのは使える時間をどのように有効に使うかである。

英文解釈 重要語の整理② 〈as〉

《基本 as》

1. As I got off the bus, I saw him entering the movie theater.
2. As time passed, things seemed to get worse.
3. Behave **as** a gentleman does.
4. As rust eats (into) iron, so care eats (into) the heart.
5. As her dress was old, Anne bought a new one.
6. Great **as** Leonardo da Vinci was **as** a painter, he was greater still **as** a scientist.
7. Try as you may, you won't find it easy to solve the problem.
8. Language as we know is a human invention.
9. Don't trust such men **as** praise you to your face.
10. As we expected, she married Tom.
11. As parents, we are concerned about our children's future.
12. All the children dressed up **as** animals.
13. As a child, he lived in London.
14. He is **as** busy **as** a bee from morning till night.
15. He has hundreds of friends and **as** many enemies.

1. 〈接続詞：時間「～する時に」〉
バスを降りた時に、私は彼が映画館に入っていくところを見た。
2. 〈接続詞：比例「～するにつれて」〉
時がたつにつれて、事態はもっと悪くなるように思えた。
3. 〈接続詞：様態「～するように」〉
紳士がするようにふるまいなさい。
4. 〈接続詞：様態「～するように」〉★As SV~, so SV.... 相関的に用いる
錆(さび)が鉄をむしばむと同じように心労は心をむしばむ。
5. 〈接続詞：理由「～なので」〉
ドレスが古かったので、アンは新しいものを買った。
6. 〈接続詞：譲歩「～だけれども」〉★“形容詞・副詞 as SV...”の形で用いる
レオナルド・ダ・ヴィンチは画家として偉大ではあったが、科学者としてよりいっそう

- 偉大であった。
7. 〈接続詞：譲歩「～だけれども」〉★“動詞 as SV...”の形で用いる
どんなに努めてみてもその問題を解くのは容易なことではないだろう。
 8. 〈接続詞：形容詞節を導く as〉
われわれの知っているような言語は人間の創り出したものである。
 9. 〈関係代名詞：先行詞に the same/such がつく場合〉
面と向かってほめるような人を信頼するな。
 10. 〈関係代名詞：先行する節の内容を受ける〉
私たちが予想したとおりに、彼女はトムと結婚した。
 11. 〈前置詞「～として」〉
私たちは親として子どもたちの将来を心配している。
 12. 〈前置詞「～のように」〉
子どもたちはみんな動物のように仮装していた。
 13. 〈～のころ〉★接続詞とも考えられる
子どもころ彼はロンドンに住んでいた。
 14. 〈副詞：「同程度」〉★as ～ as ... / 後ろの as は接続詞
彼は朝から晩までハチと同じように忙しい。
 15. 〈副詞：「同程度」〉★数字 … as many 名詞 「数字と同数の名詞」
彼は数百人の友達と、数百人の敵がいる。

英文解釈 重要語の整理③ 〈it〉

《it を用いた構文① : It V that SV...型》

1. **It seems that he knows something about that incident.**
2. **It appears to me that she dislikes housework.**
3. **It happens that we have the same birthday.**
4. **It turned out that my memory was largely correct.**
5. **It follows from this evidence that she is innocent.**
6. **It never occurred to him that she would be so displeased.**

1. 〈It seems that SV... 「SV...のように思われる」〉
彼はその事件について何か知っているようだ。
2. 〈It appears that SV... 「SV...のように思われる」〉
彼女は家事が嫌いなように私には思える。
3. 〈It happens that SV... 「たまたま SV...する」〉
私たちはたまたま同じ誕生日だ。
4. 〈It turns out that SV... 「結局 SV...とわかる」〉
私の記憶は大部分正しいことがわかった。
5. 〈It follows that SV... 「(当然ながら) SV...となる」〉
この証拠からして当然彼女は無実だということになる。
6. 〈It occurs to 人 that SV... 「人はふと SV...と思う」〉
彼女があんなに不機嫌になるとは彼は思いもしなかった。

《it を用いた構文② : 重要構文集》

1. **It won't be long before we can travel to the moon.**
2. **See to it that your cigarette is put out before you go to bed.**
3. **I owe it to my parents that I was able to finish college.**
4. **It goes without saying that we must all observe traffic signals.**
5. **It is no wonder that she was given the prize.**
6. **It is not too much to say that time once lost can never be recovered.**
7. **It's up to me whether I kill you or let you live !**

1. 〈It won't be long before SV... 「まもなく SV...」〉 ★=Soon SV...
まもなく月旅行が出来るだろう。
2. 〈see to it that SV... 「SV...するように取り計らう」〉 ★it=形式目的語 that SV...=真目的語
眠る前にたばこの火を消すようにしなさい。
3. 〈owe it to A that SV... 「SV...は A のおかげだ」〉 ★it=形式目的語 that SV...=真目的語
私が大学を卒業できたのは両親のおかげだ。
4. 〈It goes without saying that SV... 「SV...はいうまでもない」〉
★it=形式主語 that SV...=真主語
われわれ全部が交通信号を守らねばならないことは言うまでもない。
5. 〈It is no wonder that SV... 「SV...は不思議ではない」〉 ★=No wonder SV...
彼女がその賞を受賞したのは少しも不思議ではない。
6. 〈It is not too much to say that SV... 「SV...と言っても過言ではない」〉
一度失われた時間は決して取り戻せないと言っても過言ではない。
7. 〈It is up to A whether SV... 「SV...かどうかは A 次第だ(A が決めるべきだ)」〉
君を生かすも殺すも僕次第だ。

英文解釈 重要語の整理④ 〈but / still / even / yet〉

《さまざまな but》

1. I tried again and again, **but** I couldn't succeed.
2. Men is **but** a reed, the weakest in nature, **but** he is a thinking reed.
3. He works every day **but** Sunday.
4. This house is **anything but** comfortable to live in.
5. **But for** music, the world would be a dull place.
6. The boy **did nothing but** cry all day long.
7. Some people think that peace is **nothing but** illusion.
8. We **cannot but wonder** at his skill in skiing.

1. 〈等位接続詞「しかし」〉
何度もやってみたが、うまくいかなかった。
2. 〈副詞「～にすぎない」〉 =only A
人間は一本のアシに過ぎず、その本性はきわめて弱いが、人間は考える葦である。
3. 〈前置詞「～を除いて」〉 * =except A
彼は日曜を除いて毎日働く。
4. 〈anything but A「決して A でない」〉
この家は住み心地が全然よくない。
5. 〈but for A「A がなければ/なかったならば」〉
音楽がなかったら、世界は退屈な場所になることでしょう。
6. 〈do nothing but V「V ばかりしている」〉
その子は1日中泣いてばかりいた。
7. 〈nothing but A「A に過ぎない」〉 * =only A
平和など幻想に過ぎないと思う人もいる。
8. 〈cannot but V「V せざるを得ない」〉
我々は彼のスキーの腕前に感心しないわけにはいかない。

《多義語 still》

1. He pretended ignorance, which made me **still** more irritated.
2. Admitting what you say, I **still** think I am right.
3. The old man stood **still** at the gate.
4. Faded jeans are **still** in fashion.
5. He has his faults. Still, I love him.
6. I've found **still** another mistake.
7. Some are good at English, and others are good at mathematics, and **still** others at music.

1. 〈still 比較級「さらに一層」〉★比較級の前
比較級の強調彼は無知を装ったが、そのことが私をさらに怒らせた。
2. 〈譲歩の still〉★not の位置
君の言うことは認めるけど、それでも私は自分が正しいと思う。 [M]
3. 〈補語「じっと」〉★補語の位置
その老人は門のところにじっと立っていた。
4. 〈副詞 not の位置：ずっと、今でも〉★not の位置 継続の意味が強い cf.yet
色あせたジーンズは今でも流行っている。
5. 〈副詞：文頭「それでもやはり」〉★文頭
彼は欠点はあるが、それでも私は好きだ。
6. 〈still another 「さらに別の」〉★another の前
さらにもう一つ間違いを見つけた。
7. 〈Some ... others ~ still others ... 「ある人(物)は...、またある人(物)は～さらに別の人(物)...」〉★others の前
英語が得意な人もいれば、数学が得意な人もいる、さらに音楽が得意な人もいる。

《多義語 even》

1. **Even** times odd is even, odd times odd is odd.
2. This country has an **even** temperature throughout the year.
3. This book is **even** more interesting than that.
4. She has a lot of faults; **even** so, she is liked by everybody.
5. **Even** the cleverest students can make silly mistakes.
6. **Even** though it was raining, she went out.
7. **Even** if you don't like music, you'll enjoy his concert.
8. He will never give in **even** when he is wrong.

1. 〈形容詞「偶数」〉
偶数掛ける奇数は偶数、奇数掛ける奇数は奇数。
2. 〈形容詞「規則正しい、一様な、むらのない」〉
この国では年間を通じて気温の変動がほとんどない。
3. 〈副詞「さらにいっそう～」〉★比較級の強調
この本はあの本よりずっと面白い。
4. 〈副詞：even so「たとえそうであっても」〉
彼女には欠点が多いが、それでも皆から好かれる。
5. 〈副詞「～でさえ」〉
最も利口な生徒でさえもばかげた間違いをすることがある。
6. 〈even though SV...「SV...だけれども」〉
雨が降っていたけれども彼女は外出した。
7. 〈even if SV...「たとえSV...としても」〉
たとえ君が音楽が好きでなくても、彼のコンサートを楽しめますよ。
8. 〈even when SV...「SV...ときですら」〉
彼は自分が悪くても決して認めようとしなない。

英文解釈 重要語の整理⑤ 〈just / justly / simple / simply〉

《多義語 just / justly》

1. This shirt fits me **just** right.
2. I **just** went to the store the other day.
3. This shirt **just** fits me.
4. I was **just** trying to help.
5. We are **just** friends.
6. There is a convenience store **just** around the corner.
7. I **just can't figure out** this problem.
8. I **don't just like** it, I love it!
9. The king ruled his kingdom **justly**.
10. They are **justly** condemned to a long prison sentence.

1. 〈副詞「ちょうど」「ぴったり」〉
このシャツはぴったり自分に合う。
2. 〈副詞「ちょうど」just 過去形〉
私は先日その店に行ったばかりだよ。
3. 〈副詞「だいたい」動詞の前で用いて〉
このシャツはちょっとだけ自分に合う。
4. 〈副詞「ただ」動詞の前で用いて〉
ただ助けようとしていたんだ。
5. 〈形容詞「ただの…」名詞を修飾して〉
私たちはただの友達だよ。
6. 〈副詞「まさに…」副詞を修飾して〉
角を曲がった直ぐコンビニがあります。
7. 〈副詞 just not V「どうしても～ない」〉
私はこの問題がどうしても解けない。
8. 〈副詞 not just V「単に～だけではない」〉
ただ好きなだけじゃないよ、すっごく好きなんだ！

9. 〈副詞「公正に」〉
王は自分の王国を公正に治めた。
10. 彼らが長い懲役刑を宣告されたのは当然だ。
〈文修飾「…は当然である」〉

《多義語 simple / simply》

1. This problem is not as **simple** as you think.
2. She has a **simple** and humble character.
3. The room was **simple** but spacious.
4. You see things too **simply**.
5. She was **simply** dressed.
6. I sometimes read books **simply** for pleasure.
7. His picture **simply** dreadful.
8. You **simply** mustn't do that.

1. 〈形容詞「簡単な」「単純な」〉
この問題は君が考えているほどやさしくはない。
2. 〈形容詞「気取らない」〉
彼女は気取らずひかえめな性格だ。
3. 〈形容詞「簡素な」〉
その部屋は簡素だが広かった。
4. 〈副詞「単純に」〉
君は物事を単純に考えすぎる。
5. 〈副詞「簡素に」「質素に」〉
彼女は質素な服装をしていた。
6. 〈副詞「単に」「ただ(...のみで)」〉
私は時々ただ娯楽のためにのみ本を読む。
7. 〈副詞「実に」〉
彼の絵は実にひどいものだ。
8. 〈副詞 **simply not** …「まったく…ない」〉
そんなこと絶対にしてはだめ

英文解釈 重要語の整理⑥ 〈because / only〉

《because の構文》

1. **It is because** we were lucky **that** our team score a comeback victory
2. I **didn't** come here **because** I wanted to see her.
3. I **didn't** come here, **because** I wanted to see her.
4. She thinks she is a genius **just because** she goes to a prestigious high school
5. He stole her money **only because** he has no money.
6. I was absent from school. **This was because** I was sick.
7. **Just because** the teacher said so doesn't mean it's true.

1. 〈強調構文と because 「まさしく…だから～」「～なのは…だからだ」〉
私たちが逆転勝ちしたのは、ラッキーだったからだ。
2. 〈二つの not … because ～①「～だから…ない」②「～とって…ではない」〉
私は彼女に会いたかったので、ここへ来ませんでした。
3. 〈二つの not … because ～①「～だから…ない」②「～とって…ではない」〉
私は彼女に会いたかったから、ここに来たのではない。
4. 〈just because … 「ただ…という理由で」〉
彼女はただ一流学校に通っている理由で、自分を天才だと思っています。
5. 〈only because … 「…という理由だけで」〉
彼はお金がないという理由だけで、彼女のお金を盗んだ。
6. 〈This is because … 「この理由は…だから」「なぜなら…だから」〉
私は学校を休んだ。なぜなら病気だったから。
7. 〈Just because … does not mean ～ 「～だというだけで…というわけではない」〉
先生がそう言ったからと言って、まだそれが事実と決まったわけではない。

《only の構文》

1. **Only** I can eat this banana here.
2. I can eat **only** this banana here.
3. I can eat this banana **only** here.
4. **If only** I could turn back the clock!
5. **Only after** you finish dinner **can you play** video games.
6. **It was only when** I turned 20 years old **that** I wore a kimono.
7. You **have only to do** what you are told.
8. He studied English **if only because** he wanted to be praised.
9. She made an effort, **only to fail**.
10. He **not only** arrived late **but also** forgot to do his homework.

1. 私だけがここでこのバナナを食べることができる。
2. 私がここでこのバナナだけをを食べることができる。
3. 私がこのバナナを食べることができるのはここだけだ。
4. 〈If only 仮定法 !〉 = I wish 仮定法。
時間を戻すことができればいいのに！
5. 〈Only 副詞要素 助動詞 S … 「～して初めて…」〉 ※倒置構文
夕食を終わらせてはじめて、テレビゲームで遊べる。
6. 〈It is only … that ～ 「…して初めて～」〉 強調構文
私は二十歳になって初めて、着物を着た。
7. 〈have only to V 「V しさせればよい」〉
言われたことをしさえすればよい。
8. 〈if only because SV… 「SV…だけだとしても」〉
褒めてもらいたいからだけだとしても、彼が英語を一生懸命勉強した。
9. 〈, only to V 「…だが、結局…だ」〉 否定的結果を表す不定詞
彼女は努力しましたが、失敗したにすぎませんでした。
10. 〈not only A but also B 「A だけでなく B」〉
彼は遅れてきただけでなく、宿題をするのを忘れた。

英語重要構文① 関係詞構文

1. 〈前置詞+関係代名詞の重要構文〉

1. They don't see **the extent to which** they depend on others.
2. We were surprised at **the ease with which** he solved the problem.
3. I was pleased with **the rapidity with which** he mastered Japanese.
4. I'm amazed by **the rate at which** industries grow.

1. 〈the extent to which SV...〉
自分たちがどの程度他人に依存しているのかを悟っていない。
2. 〈the ease with which SV...〉
われわれは、彼がその問題を解いた容易さに驚いた。
3. 〈the ease with which SV...〉
彼が急速に日本語を習得するので私は嬉しかった。
4. 〈the rate at which SV...〉 産業の伸び率には驚きだ。

2. 〈連鎖関係代名詞〉 先行詞 (who I think V...)

1. He is the only man that **I thought** was able to deal with this problem.
2. Try to do what **you think** is the best way to learn English.

1. 〈先行詞 that I think V...〉
彼は私がこの問題を解くことができると思う唯一の人だ。
2. 〈what I think V...〉
あなたが英語を学ぶための最良と思う方法を試みなさい。

3. 〈the way SV...〉

1. He sang **the way** I did.
2. He grumbled about **the way** they treated him.
3. This is **the way** I solved the problem.
4. **The way in which** she spoke to me made me a little irritated

1. 〈副詞節：the way SV... 「SV...するように」★=as SV...
彼は私の歌うとおりに歌った。
2. 〈名詞節：the way SV... 「SV...する方法」★=how SV... / the way in which SV...
彼は彼等の自分に対する扱いに不満を言った。
3. 〈This is the way SV... 「このようにして SV...」★=This is how SV....
こういうふうにして私はその問題を解決した。
4. 〈the way in which SV... 「SV...する方法」★=the way SV...(名詞節)
彼女の話し方が私を少しいらだたせた。

4. 〈前置詞+関係代名詞+to V〉

1. This is the tool **by which** to increase productivity.
2. He looked for a place **in which** to sleep.
3. I have a lot of friends **with whom** to consult.
4. I am looking for someone **on whom** to depend for my support.

1. 〈前置詞+関係代名詞+to V〉★=the tool to increase productivity by
これは生産性を高めるための道具だ。
2. 〈前置詞+関係代名詞+to V〉
彼は眠るための場所をさがした。★a place to sleep in
3. 〈前置詞+関係代名詞+to V〉★=a lot of friends to consult with
私には相談する友達がたくさんいる。
4. 〈前置詞+関係代名詞+to V〉★someone to depend on for my support
私は私にアドバイスをくれる人を探しています。

5. 〈関係詞 継続用法〉

1. He did not appear at all, **which** made her very uneasy.
2. It rained heavily all day, **during which time** I stayed indoors.
3. Tom loved Mary, **who** didn't love him at all.
4. We went to Rome, **where** we stayed a week.

1. 〈関係代名詞 which の継続用法〉(=He did not appear at all, and it made her very uneasy.)
彼は結局現れなかった、それが彼女を大変不安にした。★He did not appear at all が先行詞。
2. 〈関係代名詞 which の継続用法〉(It rained heavily all day, so during the time I stayed indoors.)
一日中大雨だったので、その間家に閉じこもっていた。

3. 〈関係代名詞 **who** の継続用法〉 (Tom loved Mary, but she didn't love him at all.)
トムはメアリーを愛していたが、彼女は彼を全く愛していなかった。
4. 〈関係副詞 **where** の継続用法〉 (=We went to Rome, and there we stayed a week.)
私たちはローマに行って、そこで1週間過ごした。

6. 《whatever》

1. There is no doubt **whatever** about what he says.
2. **Whatever** are you going to say?
3. You can say **whatever** you want to.
4. **Whatever** may come, what he wants me to do.
5. **Whatever** language you study, you cannot do without dictionary.

1. 〈副詞：no～whatever 「まったく～ない」〉 *no を強調
彼の言うことには疑いは全くない。
2. 〈疑問詞：whatever 「何」〉 *疑問詞 what の強調形
一体全体何を言おうとしているのですか。
3. 〈名詞節を導く whatever 「～するなんでも」〉
言いたい事はなんでも言ってよろしい。
4. 〈副詞節を導く whatever 「～するなんでも」〉 *=No matter what ...
何事であろうと私は決心を変えない。
5. 〈副詞節を導く whatever 「～するなんでも」〉 *=No matter what ...
どんな言語を学ぶにしても辞書なしではすまない。
A man's worth depends on what he is, and not what he has.
人間の価値は、その人の人柄に在るのであって、その人の財産にあるのではない。

英語重要構文② 名詞構文

1. 《名詞構文》

1. The **necessity** of education came home to me.
2. We emphasized the **importance** of his co-operation.
3. Whether he has the operation depends upon the **availability** of the organ.
4. Keiko informed him of her safe **arrival**.
5. The **communication** of news by TV and radio is very common now.
6. The purpose of this text is to deepen the **understanding** of black culture.
7. Columbus' **discovery** of America was accidental.
8. **Education** by the parents of their children is important.

1. 〈the necessity of A⇔A is necessary〉
私は教育の必要性をしみじみと感じた。
2. 〈the importance of A⇔A is important〉
私たちは彼の協力の重要性を強調した。
3. 〈the availability of A⇔A is available〉
彼が手術するかどうかは、移植する臓器の提供次第だ。
4. 〈A's arrival ⇔A arrive〉
恵子は彼に無事に到着したことを知らせた。
5. 〈communication of A⇔ communicate A〉
ラジオやテレビによるニュースの報道は今ではまったくふつうのことだ。
6. 〈understanding of A⇔undersand A〉
このテキストの目的は、黒人の文化への理解を深めることである。
7. 〈A's discovery of B⇔A discover B〉
コロンブスがアメリカを発見したのは、偶然だった。
8. 〈education by A of B⇔B is educated by B〉
両親が子供を教育する事は、重要である。

英語重要構文③ 無生物主語構文

1. 《無生物主語構文でよく用いられる構文①》 make OC

1. Jane's farewell speech **made** us very sad.
2. The invention of the telephone **made** it possible to communicate with people far away.
3. His sickness **made** it impossible for him to continue his study.
4. Her hair style **makes** her look younger than her age.

1. 〈S make O C 「Sの結果OCなる」〉
ジェーンのお別れの挨拶を聞いて、私達はとても悲しくなりました。
2. 〈S make it possible for A to V 「Sの結果AVできる」〉 ★=S enable A to V
電話の発明が遠くの人と伝達し合うのを可能にした。
3. 〈S make it possible for A to V 「Sの結果AVできない」〉 ★=S don't enable A to V
病気のため彼は研究を続けることができなかった。
4. 〈S make O V 「Sの結果OVする/なる」〉
彼女は髪型で実際の年齢よりも若く見える。

2. 《無生物主語構文でよく用いられる構文②》 VOto V / V O from Ving

1. The new subway **enables** me **to** get to school in 20 minutes.
2. The prize money **allowed** him **to** buy a guitar.
3. Failure to water plants will **cause** them **to** die.
4. Air pollution **prevents** some plants **from** growing well.
5. What had **kept** him **from** coming to the party?

1. 〈S enable O to V 「SのおかげでOVできる」〉
新しい地下鉄のおかげで20分でがっこうへ行くことができる。
2. 〈S allow O to V 「SのおかげでOVできる」〉
その賞金のおかげで彼はギターが買えた。
3. 〈「S cause O to V 「SのせいでOVする/なる」〉
植物は水をやらないと枯れてしまう。
4. 〈S prevent O from Ving 「SのせいでOVできない」〉
=Because of air pollution some plants can't grow well.
大気汚染のために育たなくなった植物もある。
5. 〈S prevent O from Ving 「SのせいでOVできない」〉
どうして彼はパーティーに来なかったのですか。

3. 《無生物主語構文でよく用いられる構文③》 bring A to ~

1. An hour's drive **brought** us to the airport.
2. This straight road will **lead** you to the post office.
3. This bus will **take** you to the village.
4. The picture always **reminds** me of my home-town.

1. 〈S bring A to B 「S は A を B に連れて来る」 → 「S すれば A は B に着く(来られる)」〉
一時間車に乗って私達は空港に着きました。
2. 〈S lead A to B 「S は A を B に至らせる」 → 「S すれば A は B に着く」〉
このまっすぐの道を行けば郵便局へ行けますよ。
3. 〈S take A to B 「S は A を B に連れて行く」 → 「S すれば A は B に着く」〉
このバスに乗るとその村につくでしょう。
4. 〈S remind A of B 「A によって A は B を思い出す」〉
この絵を見ると、私はいつも故郷の町を思い出す。

4. 《無生物主語構文でよく用いられる構文④》 S V O to V

1. Failure to water plants will **cause** them to die.
2. The new equipment has **enabled** us to finish the work in an hour.
3. Circumstances did not **permit** me to help you.
4. His talk **led** me to believe that he knows a great deal.
5. The money **allowed** him to go abroad.

1. 〈S cause O to V 「S が原因で OV する/なる」〉
植物は水をやらないと枯れてしまう。
2. 〈S enable O to V 「S によって OV できる」〉
新しい機器のおかげで、その仕事を 1 時間で負えられるようになった。
3. 〈S permit O to V 「S によって OV できる」〉
私は事情があってお手伝いできませんでした。
4. 〈S lead O to V 「S によって OV する」〉
彼の話からその見聞の広さがうかがわれた。
5. 〈S allow O to V 「S によって OV する」〉
そのお金で彼は外国へ行くことができた。

5. 《無生物主語構文でよく用いられる構文⑤》 S V A from Ving

1. The noise **kept** me **from** sleeping last night.
2. The rain didn't **stop** them **from** doing their job.

1. 〈S keep O from Ving 「S が原因で O は V できない」〉 ★無生物主語構文
その騒音のために、私は昨夜は眠れなかった。
2. 〈S stop O from Ving 「S が原因で O は V できない」〉 ★無生物主語構文
雨が降っても、彼らは自分の仕事をやめなかった。

英語重要構文④ 無生物主語構文

1. 《共通構文》 因数分解的発想

1. We are, and should be, respectful to our parents.
2. His remark not only surprised but also strongly moved those present at the meeting.
3. Democracy is the government of the people, by the people, and for the people.
4. This was an exciting, though not popular, movie.
5. It seems difficult, if not impossible, to talk him into attending the party.
6. He fell in love with, and married the next year, a beautiful woman.

1. 〈(助動詞+助動詞) 動詞〉
私たちは両親を尊敬しているし、またそうあるべきだ。
2. 〈(動詞+動詞) 名詞〉 ★not only A but also B 「Aだけでなく B」 等位接続詞的に用いる
彼の発言は、その会議に出席した人を驚かせただけでなく、深く感動させた。
3. 〈名詞(前置詞句+前置詞句)〉
民主主義とは、人民の、人民による、人民のための政治である。
4. 〈(形容詞+形容詞)名詞〉 ★though が等位接続詞扱い。
これは、人気はないけれども面白い映画だ。
5. 〈動詞 (形容詞+形容詞)〉 ★A if not B 「B でないとしても A」 / if not が等位接続詞扱い。
彼を説得してパーティに参加させることは、不可能ではないとしても難しいように思われる。
6. 〈(動詞句+他動詞)名詞〉 ★with の後に目的語がないことに注意
彼は美しい女性と恋に陥り、その翌年結婚した。

2. 《共通構文と挿入》 A and (M) B 型 (M)は B を修飾

1. He was very rich, **and** therefore could buy a mansion.
2. He is a good English scholar, **and**, what is more, a good teacher.
3. I fainted from the heat, **and** when I came to, I was in a life raft.

1. 〈A and (M) B〉 ★M=副詞
彼は金持ちだった、だから大邸宅が買えた。
2. 〈A and (M) B〉 ★M=副詞句
彼は優れた英語学者であるが、さらに、教えるのも上手である。
3. 〈A and (M) B〉 ★M=副詞節
その暑さで気絶して気がついたら救命いかだの中にいた。

©高1 英語総合 S
2023年 3月13日 第3版
編集 スタディ・ラボ
発行者 (株)ドックエスト
〒662-0042
神戸市東灘区岡本 1-12-14